

付属資料

資料 1	地域協議会向けアンケート調査票	資料-1
資料 2	地域協議会向けアンケートの集計結果	資料-17
資料 3	地域協議会へのヒアリング結果	資料-43
資料 4	活動組織向けアンケート調査票	資料-56
資料 5	活動組織向けアンケートの集計結果	資料-76
資料 6	森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナー 配布資料	資料-109
資料 7	検討委員会 議事概要（第 1 回～第 3 回）	資料-165

森林・山村多面的機能発揮対策に係る 地域協議会の運営状況についてのアンケート

地域協議会名、アンケート記入者名、連絡先のご記入をお願いいたします。

地域協議会名	
アンケート記入者名	
連絡先	(電話番号) :
	(Eメールアドレス) :

- このアンケート調査は、林野庁が実施する森林・山村多面的機能発揮対策事業において、活動組織への支援・指導を行う地域協議会の皆様を対象に、各種の支援活動等の状況や運営上の課題等をお尋ねし、回答の集計結果を今後の施策提言への活用や、森林づくり・地域活性化に取り組むご関係者の参考にしていただくことを目的としています。
ご多忙中のところ誠に恐れ入りますが、アンケート調査へのご協力をお願い申し上げます。
- アンケート調査は林野庁から委託を受け、(公財)日本生態系協会が実施しています。
- 本アンケートは、貴協議会における活動組織の支援・指導に関するお取り組みの全体像を把握されているご担当者様などにご記入をお願いいたします。
- お忙しいところ恐縮ですが、ご記入後、平成 27 年 11 月 30 日 (月)までに同封の返信用封筒にて、本アンケート調査票をご返送いただきますようお願いいたします。
- Eメールでのご回答を希望される場合は、下記の(公財)日本生態系協会へご連絡をお願いいたします。ご希望の場合には、アンケート調査票の電子データ (Word ファイル) をお送りいたします。
- ご不明な点がございましたら、下記のお問い合わせ先までご連絡をお願いいたします。
- アンケート調査票は、本紙を含め 16 ページです。

<調査委託元>

林野庁

<お問い合わせ及び回答の送付先>

公益財団法人 日本生態系協会

住 所：〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-30-20 音羽ビル

電 話：03-5951-0244

Eメール：shinrin2015@ecosys.or.jp

担当：野口、亀田、松浦

問1（団体の特徴）事務局“以外”の地域協議会の構成員の属性を教えてください。

該当する項目にチェックを入れてください。（いくつでも）

- ① 都道府県
- ② 市区町村
- ③ 森林組合・造園業者等の森林・林業関係団体
- ④ 公益法人
- ⑤ NPO 法人
- ⑥ 任意団体
- ⑦ 企業
- ⑧ 学識経験者 ※専門分野を具体的にご記入ください（ ）
- ⑨ その他 ※具体的にご記入ください（ ）

問2（他団体との連携）本交付金の取り組みを行うに当たり、どのような団体や専門家と協力関係にあるのかを教えてください。

該当する項目にチェックを入れてください。（いくつでも）

- ① 都道府県
- ② 市区町村
- ③ 森林組合・造園業者等の森林・林業関係団体
- ④ 公益法人
- ⑤ NPO 法人
- ⑥ 任意団体
- ⑦ 企業
- ⑧ 学識経験者 ※専門分野を具体的にご記入ください（ ）
- ⑨ その他 ※具体的にご記入ください（ ）
- ⑩ 特に協力関係にある団体・専門家はいない

問3（募集）本交付金の募集に当たり、平成26年度に何回の募集を行いましたか。

該当する項目にチェックを入れてください。（択一）

- ① 1回
- ② 2回
- ③ 3回
- ④ 4回以上
- ⑤ 締切を特に設けていない(随時受付)

問4（広報）本交付金の募集について、平成26年度に、どのような方法で広報を行いましたか

該当する項目にチェックを入れてください。（いくつでも）

- ① ホームページ等（Facebook 等の SNS、ネット上の掲示板への書き込みを含む）
- ② Eメール、メーリングリスト
- ③ 都道府県・市区町村報などの公共の広報誌
- ④ 民間の情報誌・雑誌
- ⑤ 説明会の実施
- ⑥ テレビ・ラジオ（コミュニティ放送局含む）
- ⑦ 新聞
- ⑧ ポスター・チラシの掲示、配布
- ⑨ 関連団体への電話、声掛け
- ⑩ その他 ※具体的にご記入ください（ ）
- ⑪ 特に広報活動を行っていない

問5（申請）平成26年度内における貴協議会の管轄内における本交付金への申請数の総数と交付金申請を却下した件数、および相談されたものの交付金申請にまで至らなかった件数について教えてください。

平成26年度の交付金申請数（総数）	（ ）件	<u>※数字をご記入ください</u>
交付金申請されたものの却下した件数	（ ）件	<u>※数字をご記入ください</u>
相談されたものの交付金申請まで至らなかった件数	（ ）件	<u>※数字をご記入ください</u>

(⇒平成26年度に交付金申請を却下した件数が0（ゼロ）の場合は次ページの間7に移動してください)

問6（申請）平成26年度における応募団体からの交付金申請を却下した理由を教えてください。

以下に示す却下理由のうちから、多い順に、記入欄に選択肢のうちから3つまで数字をつけてください。

数字記入例：1＝1番多い、2＝2番目に多い、3＝3番目に多い
 同数の場合には同じ数字を記入してください。
 回答は3つ以下にしてください。必ず3つの選択肢を選ぶ必要はありません。
 3つを超える選択肢に数字を記入するのは、同じ順位が多数の場合に限ります。

記入欄	申請却下理由
	① 活動内容が支給対象に該当しなかった
	② 活動対象となる森林の面積が要件を満たさなかった
	③ 活動対象となる森林が森林施業計画・森林経営計画が作成された森林であった
	④ 申請書等の事務手続きの不備
	⑤ 資機材の購入計画が活動内容から見て適当でなかった
	⑥ その他 <u>※具体的な理由をご記入ください</u> ()

問7（質問）平成26年度内に、貴協議会に寄せられた本交付金に関する質問の内容とその対応の状況について教えてください。

次の該当する項目にチェックを入れてください。（横1行ごとにならんでも可）

該当する質問への 対応状況 寄せられた質問の内容	A、 質問があつた	B、 質問が5件以上あつた	C、 回答に時間がかつた	D、 回答困難な問題が生じた
① 申請手続きに必要な書類の記入方法について	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 対象となる活動の範囲について	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 森林の図測・測量について	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 購入可能な物品について	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 人件費の取り扱いについて	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 活動組織の規約の作成について	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 活動場所となりうる森林の斡旋について	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 収支関係書類（金銭収納簿）の作成について	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ 実施状況報告書の作成について	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ その他（上記以外で特に課題になった点について） <u>※具体的にご記入ください</u> （ ）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※「A、質問があつた」と「B、質問が5件以上あつた」の双方にチェックを入れていただいても構いません。

「B、質問が5件以上あつた」への回答があつた場合には、「A、質問があつた」にもご回答いただいたものとします。

問 8 (申請) 平成 26 年度内に、応募団体の交付金申請の審査の前に行った申請書・活動計画書等の修正指導の頻度について教えてください。

該当する項目にチェックを入れてください。(横 1 行ごとに 1 つ選択してください)

修正指導内容	A、 多かった	B、 多少はあった	C、 無かった
① 交付金の対象外の取り組み分の除外	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 活動組織の規約、役割分担の不備の修正	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 活動計画書の不備の修正	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 実施が困難と思われるスケジュールの修正	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 活動場所の森林の確保がされていないことの修正・指導	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 協定の対象とする森林の計画図(図面)の不備の修正	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 事業費に不適切な内容が含まれていた(中古品の購入など)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 森林環境教育において、講師予定者が適切な資格を持っていないことの修正	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問 9 (申請) 応募団体が作成した申請書・活動計画書について、交付金申請を受理するまでに何回程度の書き直しを行わせたのか、平成 26 年度全体でのおおよその数と、交付金申請を受理したうちで最も修正指導が多かった事例の回数を教えてください。

なお、正規の提出前の修正指示も含めてご回答をお願いします。

※申請書・活動計画書の修正指示や再提出 1 回で書き直し 1 回と数えます。

※1 回の修正指示の際に修正箇所が複数あっても、書き直しは 1 回と数えます。

※書き直しの回数が分からない場合には、「不明」とご回答ください。

平成 26 年度全体でのおおよその書き直し回数	約 () 回	※数字をご記入ください
書き直し回数が最も多かったのは 1 団体で	約 () 回	※数字をご記入ください

問 10 (審査) 平成 27 年度における応募団体からの交付金申請を審査するに当たり、以下に示す項目について、貴協議会が重要と考える度合いについて教えてください。

該当の項目にチェックを入れてください。(横 1 行ごとに 1 つ選択してください)

※ 必須であるか、考慮されないかについては、下記項目と明らかに関係のない活動内容については除外して考えるようにしてください。

たとえば、生きもの観察会の申請に対する審査にあたって、国土強靱化への寄与が考慮されていなかったとしても、「D、あまり重要と考えていない」や「E、審査にあたって考慮されていない」に回答しなければならないということはありません。

審査項目	重要と考える度合い	A、必須の条件であると考 えている	B、重要であると考 えている	C、どちらとも言 えない	D、あまり重要と考 えていない	E、審査に当た って考慮され ていない
① 森林施業技術や森林に関する理解の向上に寄与しているか		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 取り組みの安全対策が適切に行われているか		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 活動組織（応募団体）の構成員や参加者が多様な者で構成されているか		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 活動内容が地域の活性化に寄与しているか		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 活動面積・活動回数が、効果的な活動を行うために十分なものであるか		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 活動の効果が国土強靱化に寄与するものであるか		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問 11 (審査) 貴協議会では、交付金申請を審査するために利用する、文書化した独自のチェックリスト・審査基準を作成していますか。

該当する項目にチェックを入れてください。(択一)

- ① 作成しており、一般に公開している (⇒次ページの間 12 にもご回答ください)
- ② 作成しているが、一般に公開していない (⇒次ページの間 12 にもご回答ください)
- ③ 作成していない (⇒次ページの間 13 へ移動してください)
- ④ 作成を検討中である (⇒次ページの間 13 へ移動してください)

問 12 (審査) 問 11 で「① 作成しており、一般に公開している」ないしは「② 作成しているが、一般に公開していない」と回答した協議会にお伺いします。

文書化した独自のチェックリスト・審査基準を作成することで、どのような効果があったかを教えてください。

該当する項目にチェックを入れてください。(いくつでも)

- ① 応募団体の提出した書類に対して、適切な修正指導を行うことができるようになった
- ② 応募団体の提出した書類に対して、修正指導を行う回数・時間を軽減することができた
- ③ 申請書類の 1 件当たりの審査を省力化することができた
- ④ 申請の採択・却下の理由を明確に説明できるようになった
- ⑤ どのような効果があったかわからない(作成後、日が浅い場合も含む)
- ⑥ その他 ※具体的にご記入ください ()

問 13 (審査) 応募団体からの交付金申請に関する審査を円滑に行うために、貴協議会で実施している工夫について教えてください。

該当する項目にチェックを入れてください。(いくつでも)

- ① 審査の際に外部団体や外部の専門家に協力を依頼する
- ② 交付金取得を希望する活動組織に対して、審査前段階で申請書類作成指導・支援を行う
- ③ Q&A 集や申請書類の記入例など、申請書類の不備を防止するための資料を一般公開している
- ④ 公募期間を早期に設定することで、審査期間を長めにとる
- ⑤ その他 ※具体的にご記入ください ()
- ⑥ 特に審査のための工夫を行っていない

問 14 (現地調査) 貴協議会で、平成 26 年度に活動団体に対して行った現地調査の箇所数を教えてください。

箇所数：() 箇所 ※数字をご記入ください

(⇒0 (ゼロ) 箇所の場合は、10 ページの問 19 へ移動してください)

問 15（現地調査）現地調査を実施する際に対象とする活動組織を選定するに当たり、どのような活動組織を対象としているのかを教えてください。

問 15-1、すべての活動組織を対象として現地調査を実施しているかどうかを教えてください。

該当する項目にチェックを入れてください。（択一）

① すべての活動組織を対象として現地調査を実施している <u>（⇒問 16 へ移動してください）</u>	<input type="checkbox"/>
② 活動組織すべてが現地調査の対象になるわけではない <u>（⇒問 15-2 にもご回答ください）</u>	<input type="checkbox"/>

問 15-2、問 15-1 で、「② 活動組織すべてが現地調査の対象となるわけではない」と回答した協議会にお伺いします。

対象候補の選定に当たり、どのような活動組織を重視しているのか、その度合いを教えてください。

該当する項目にチェックを入れてください。（横 1 行ごとに 1 つ選択してください）

重視する度合い 現地調査の対象	A、 必ず 現地調査の 対象として いる	B、 優先的に 現地調査の 対象と している	C、 現地調査の 対象を選定する 際に特に 考慮して いない
① 交付金の支給額総額が上位の活動組織	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② タイプ別に交付金の支給額が上位の活動組織	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 実施状況報告書類の不備が懸念される活動組織	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 活動計画に記載されたスケジュールの実現が困難と思われる活動組織	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 活動計画の内容上の実現が困難と思われる活動組織	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 過去の活動実績から取り組みを適切に実施できないと想定される活動組織	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 申請が採択されたのちに内容の変更の届け出があった活動組織	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ その他（上記以外で特に選定根拠がある場合にご記入ください） <u>※具体的にご記入ください</u> ()	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問 18（現地調査の課題）現地調査を効率的・効果的に行うために、貴協議会で実施している工夫について教えてください。

該当する項目にチェックを入れてください。（いくつでも）

- ① 外部団体・外部の専門家に協力を依頼する
- ② 経験豊富、あるいは審査を行う上で適切な資格を有する職員を調査に参加させている
- ③ 現地調査のための評価基準やチェックリストを作成している
- ④ 現地調査のために十分な時間を確保する
- ⑤ 改善状況を確認できるようにするため、単年度に複数回実施している
- ⑥ その他 ※具体的にご記入ください（ ）
- ⑦ 特に工夫を行っていない、あるいは現地調査を実施していない。

問 19（資機材貸与）平成 27 年度より協議会の役割として活動組織への資機材貸与が加わりました。貴協議会では、活動組織に資機材貸与を実施していますか。

該当する項目にチェックを入れてください。（択一）

- ① 実施している （⇒問 22-1 にご回答ください）
- ② 現在検討中（準備中）である （⇒問 22-2 にご回答ください）
- ③ まだ検討を行っていない、資機材貸与を行う予定はない （⇒次ページの間 22-3 にご回答ください）

問 20（資機材貸与）資機材貸与の状況についてお伺いします。

問 20-1、問 19 で「① 実施している」と回答した地域協議会にお伺いします。

具体的にどのような資機材の貸し出しを行っていますか。

該当する項目にチェックを入れてください。（いくつでも）

- ① チェーンソー ② 刈払い機 ③ 薪割り機 ④ チッパー
- ⑤ けん引器具 ⑥ 運搬車 ⑦ バックホウ（ショベルカー） ⑧ 携帯型 GPS 機器
- ⑨ その他 ※具体的にご記入ください（ ）

問 20-2、問 19 で「② 現在検討中（準備中）である」と回答した地域協議会にお伺いします。

具体的にどのような資機材の貸し出しを検討あるいは準備をしていますか。

該当する項目にチェックを入れてください。（いくつでも）

- ① チェーンソー ② 刈払い機 ③ 薪割り機 ④ チッパー
- ⑤ けん引器具 ⑥ 運搬車 ⑦ バックホウ（ショベルカー） ⑧ 携帯型 GPS 機器
- ⑨ その他 ※具体的にご記入ください（ ）
- ⑩ まだ貸し出しを行う資機材を具体的に検討していない

問 20-3、問 19 で「③ まだ検討を行っていない、資機材貸与を行う予定はない」と回答した地域協議会に
お伺いします。

資機材貸与のしくみを構築することが現時点で困難である、または不要であるとする理由を教えてください。

該当する項目にチェックを入れてください。(いくつでも)

- ① 交付金の要領が変更されてから日が浅く、検討の議題にできていない
- ② 交付金の要領が変更されたことを知らなかった
- ③ 予算が不足しており、資機材の購入や維持管理ができない
- ④ 貸与等の事務手続きが増えることが望ましくない
- ⑤ 平成 29 年度以降に本交付金がどうなるかわからず、機材利用の継続性が確保されていない
- ⑥ 資機材を購入しても受益者が多くないことが見込まれる
- ⑦ その他 ※具体的にご記入ください ()
- ⑧ わからない

問 21 (独自の取り組み) 本交付金の取り組みを効果的に行うために取り組んでいることがありましたら教えてください。

該当する項目にチェックを入れてください。(いくつでも)

- ① 巡回指導や個別指導の実施
- ② 交付金の認知度を高め、申請を増やすため、説明会を実施している
- ③ 技術や安全等に関する講習会の実施
- ④ 都道府県、市区町村等との連携による助言・指導体制の充実
- ⑤ 活動や活動場所に関する情報を把握するため、追加の資料作成を求めている
- ⑥ 交付金の利用状況を把握するための独自基準を設定している
- ⑦ 対象範囲内の優良活動事例を評価し、普及する仕組みを創設している (ニュースレター等を含む)
- ⑧ その他 ※具体的にご記入ください ()
- ⑨ 特に独自に取り組んでいることはない

問 22 (現在の課題) 地域協議会の運営全般に関して課題となっていることがございましたら教えてください。
 該当する項目にチェックを入れてください。(いくつでも)

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> ① 人材不足 | <input type="checkbox"/> ② 予算不足 |
| <input type="checkbox"/> ③ 指導のための時間の不足 | <input type="checkbox"/> ④ 広報活動 (申請数の伸び悩み) |
| <input type="checkbox"/> ⑤ 申請方法についての指導 | <input type="checkbox"/> ⑥ 申請に対する審査 |
| <input type="checkbox"/> ⑦ 変更申請の審査・手続き | <input type="checkbox"/> ⑧ 現地調査の手法 |
| <input type="checkbox"/> ⑨ 現地調査での評価 | <input type="checkbox"/> ⑩ 交付金の経理処理事務 |
| <input type="checkbox"/> ⑪ 林野庁への報告資料の作成 | <input type="checkbox"/> ⑫ 個人情報の管理・各種書類の管理 |
| <input type="checkbox"/> ⑬ 行政との連携・協力 | <input type="checkbox"/> ⑭ 民間団体・専門家との連携・協力 |
| <input type="checkbox"/> ⑮ その他 <u>※具体的にご記入ください</u> () | |
| <input type="checkbox"/> ⑯ 特に課題と考えていることはない | |

問 23 (活動組織の取り組み状況) 貴協議会の管轄内にある活動組織の活動の成果の全体的な傾向として、下記で示す項目に関する進捗状況について、貴協議会から見た印象を教えてください。
 該当する項目にチェックを入れてください。(横1行ごとに1つ選択してください)

進捗状況 活動の成果	A、 十分 取り 組み が 進 ん で い る	B、 あ る 程 度 取 り 組 み が 進 ん で い る	C、 ど ち ら と も い え な い	D、 や や 取 り 組 み が 進 ん で い な い	E、 取 り 組 み が 進 ん で い な い	F、 よ く わ か ら な い
① 活動を行う上での安全性の確保	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 森林管理を行う人材の育成	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 森林・林業に関する理解の向上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 地域の(集落)コミュニティの活性化	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 関連する人や団体間の連携・協力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 活動を継続するための財源の確保	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問 24（今後の要望）本交付金に関連して、新たに本交付金の対象とした方が良いと考える取り組みがございましたら教えてください。（自由記述）

問 25（今後の対策）平成 29 年度以降も何らかの支援が継続するものと仮定した場合、活動の効果を向上するため、又は活動を持続するための手法として、シナリオ A とシナリオ B の二つの選択肢があるとした場合、貴協議会はどちらが望ましいと思いますか。なお、国の予算額は現行と同額と仮定してご回答ください。該当する項目にチェックを入れてください（横 1 行ごとに 1 つ選択してください）

シナリオ A	① シナリオ A が良い	② どちらかといえば シナリオ A が良い	③ どちらともいえない	④ どちらかといえば シナリオ B が良い	⑤ シナリオ B が良い	シナリオ B
交付金の単価を下げることで、より多くの森林を整備する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	整備する森林を減らすかわりに、交付金の単価を上げて、取り組みの質を高める
支援要件を緩和（手続きの簡略化など）することで、多様な団体の参加を促す	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	現状より支援要件を厳しくすることにより、優良な団体を育成する
現状より都道府県、市区町村の事務的な関与を少なくする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	現状より都道府県、市区町村の事務的な関与を多くする
現状より都道府県、市区町村の資金的な関与を少なくする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	現状より都道府県、市区町村の資金的な関与を多くする

問 26 (活動を行う上での課題点) 貴協議会が運営を行う上で、他の協議会と共有すべき事例として、特に苦勞したことについて、教えてください。また、その苦勞した問題について、どのように解決をしたのか、あるいは解決ができなかったとすればどのような理由によるものを教えてください。

「苦勞したこと」を教えてください。(自由記述)

苦勞したことは (解決した ・ 解決のため対応中 ・ 解決できなかった)

※該当の選択肢にチェックを入れてください。

「苦勞したこと」をどのように解決したのか、あるいは解決が困難である理由を教えてください。
(自由記述)

「苦勞したこと」を解決ないしは予防するために、貴協議会で実施している独自の取り組みがありましたら教えてください。(自由記述)

問 27（活動組織について）貴協議会の管轄内にある活動組織のうち、貴協議会の視点から見て、他地域でも参考となる優良な取り組みを行っていると考えられる団体と、その理由について教えてください。

【問 27 に関する注意事項】

※推薦理由に関する記入欄が不足する場合は、別紙にご記入ください。

※ご紹介いただいた団体の一部につきましては、別途、公益財団法人日本生態系協会の職員が活動組織に対する現地でのヒアリングを実施させていただく場合がございます。これに際し、地域協議会の皆様に、対象となる活動組織への事前連絡や仲介をお願いする場合がございます。その際にご協力をお願いいたします。

※現地ヒアリングをさせていただいた団体につきましては、本年度の活動事例集に掲載することを考えております。ただし、個人情報保護などの観点から、活動組織の代表者ないしは事務担当者の同意がない場合には、活動組織の取り組みの具体的な内容については、活動事例集や一般公開する報告書に掲載いたしません。

※問 27 のご回答につきましては、後日、インターネット等で公開する報告書においても結果を掲載することはありません。

※都道府県・市区町村の関与や他の活動団体等との連携により活動の効果が向上している例がありましたら積極的に紹介してください。

(その1)

活動組織名	
活動タイプ	<p>※対象となる活動組織が平成 27 年度に交付金を取得（予定）の活動タイプにチェックを入れてください。（いくつでも）</p> <p><input type="checkbox"/>① 地域環境保全タイプ「里山林保全」</p> <p><input type="checkbox"/>② 地域環境保全タイプ「侵入竹除去、竹林整備」</p> <p><input type="checkbox"/>③ 森林資源利用タイプ</p> <p><input type="checkbox"/>④ 森林機能強化タイプ</p> <p><input type="checkbox"/>⑤ 教育・研修活動タイプ（森林空間利用タイプ）</p>
推薦理由	<p>※該当の活動組織の活動が、活動事例集への掲載にふさわしいと考える理由をご記入ください。</p>

(その2)

活動組織名	
活動タイプ	※対象となる活動組織が平成 27 年度に交付金を取得（予定）の活動タイプにチェックを入れてください。（いくつでも） <input type="checkbox"/> ① 地域環境保全タイプ「里山林保全」 <input type="checkbox"/> ② 地域環境保全タイプ「侵入竹除去、竹林整備」 <input type="checkbox"/> ③ 森林資源利用タイプ <input type="checkbox"/> ④ 森林機能強化タイプ <input type="checkbox"/> ⑤ 教育・研修活動タイプ（森林空間利用タイプ）
推薦理由	※該当の活動組織の活動が、活動事例集への掲載にふさわしいと考える理由をご記入ください。

(その3)

活動組織名	
活動タイプ	※対象となる活動組織が平成 27 年度に交付金を取得（予定）の活動タイプにチェックを入れてください。（いくつでも） <input type="checkbox"/> ① 地域環境保全タイプ「里山林保全」 <input type="checkbox"/> ② 地域環境保全タイプ「侵入竹除去、竹林整備」 <input type="checkbox"/> ③ 森林資源利用タイプ <input type="checkbox"/> ④ 森林機能強化タイプ <input type="checkbox"/> ⑤ 教育・研修活動タイプ（森林空間利用タイプ）
推薦理由	※該当の活動組織の活動が、活動事例集への掲載にふさわしいと考える理由をご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました

平成 27 年度地域協議会向けアンケート 集計結果

※回収数 45(回収率:100%)

問 1 (団体の特徴)

事務局“以外”の地域協議会の構成員の属性を教えてください。(いくつでも) (n=45)

構成員	回答数
① 都道府県	36
② 市区町村	31
③ 森林組合・造園業者等の森林・林業関係団体	24
④ 公益法人	21
⑤ NPO 法人	15
⑥ 任意団体	15
⑦ 企業	5
⑧ 学識経験者	24
⑨ その他	3

⑧学識経験者の分野についての自由記述回答

社会学
地域経済
森林インストラクター
林業
都道府県認定資格取得者、森林・林業体験活動指導者
税理士
林業士会、森林インストラクター、
里山整備実施者、専修学校教授（森林インストラクター、林業機械）
林学、公認会計士
森林資源利用学
環境科学
大学関係者（森林関連学部）
生物理工、園芸学、地域再生学、森林整備
林業関係団体理事、林業関係団体事務局長
環境生命科学研究科、自然保護指導員
森林・林業
大学
森林林業
林業、農業、大学教員、税理士ほか
農学部
森林学、地域研究
環境
森林計画学

⑨その他への自由記述回答

都道府県森林審議委員
森林管理署

問2（他団体との連携）

本交付金の取り組みを行うに当たり、どのような団体や専門家と協力関係にあるのかを教えてください。（いくつでも）（n=45）

協力団体	回答数
① 都道府県	38
② 市区町村	30
③ 森林組合・造園業者等の森林・林業関係団体	16
④ 公益法人	4
⑤ NPO 法人	8
⑥ 任意団体	7
⑦ 企業	1
⑧ 学識経験者	8
⑨ その他	3
⑩ 特に協力関係にある団体・専門家はいない	2

⑧学識経験者の分野についての自由記述回答

森づくりサポートセンターの指導及び協力を得ている
林業機械等の安全講習
森林・林業
専修学校教授（森林インストラクター、林業機械）
大学
森林計画
生物理工、園芸学、地域再生学、森林整備
自治会等代表、自然解説員
樹木医・森林インストラクター会

⑨その他への自由記述回答

都道府県職員 OB（森林関係技師）
都道府県林業研究グループ...安全講習、技能講習

問3 (募集)

本交付金の募集に当たり、平成26年度に何回の募集を行いましたか。(択一) (n=45)

募集回数	今回回答数
① 1回	5
② 2回	10
③ 3回	13
④ 4回以上	10
⑤ 締切を特に設けていない(随時受付)	7

問4 (広報)

本交付金の募集について、平成26年度に、どのような方法で広報を行いましたか(いくつでも) (n=45)

広報手段	回答数
① ホームページ等 (Facebook 等の SNS、ネット上の掲示板への書き込みを含む)	27
② Eメール、メーリングリスト	4
③ 都道府県・市区町村報などの公共の広報誌	13
④ 民間の情報誌・雑誌	2
⑤ 説明会の実施	22
⑥ テレビ・ラジオ (コミュニティ放送局含む)	0
⑦ 新聞	0
⑧ ポスター・チラシの掲示、配布	6
⑨ 関連団体への電話、声掛け	20
⑩ その他	9
⑪ 特に広報活動を行っていない	0

⑩その他への自由記述回答

行政機関：農林事務所からの告知
市町村の掘り起こし
各市町村に対して文書や PR チラシ等配布
都道府県の出先機関を通じての団体活動組織の掘り起こし
都道府県の現地機関を通じて
県から市町村への通知
市・町への募集開始の通知
都道府県、市町村等への照会の他、森林ボランティア団体に対して指導、助成等を専門に行うもりづくりサポートセンターに案内を行い、そのホームページ等で広報を行った。
市町、関連団体への公文書案内

問5（申請）

平成 26 年度内における貴協議会の管轄内における本交付金への申請数の総数と交付金申請を却下した件数、および相談されたものの交付金申請にまで至らなかった件数について教えてください。
(n=45)

	絶対数	平均値	中央値
申請数	1,743	38.7	34.0
却下数	5		
至らず	120	2.9	1.5

※却下を経験している協議会は5協議会

申請数内訳

申請数	回答数
100 以上	1
81～100	2
61～80	7
51～60	4
41～50	4
31～40	6
21～30	9
11～21	7
10 以下	5

問6（申請）

平成26年度における応募団体からの交付金申請を却下した理由を教えてください。

以下に示す却下理由のうちから、多い順に、記入欄に選択肢のうちから3つまで数字をつけてください。（n=5）

	絶対数	ポイント数	第1位	第2位	第3位
①活動内容が支給対象に該当しなかった	4	12	4	0	0
②活動対象となる森林の面積が要件を満たさなかった	2	6	2	0	0
③活動対象となる森林が森林施業計画・森林経営計画が作成された森林であった	1	3	1	0	0
④申請書等の事務手続きの不備	1	1	0	0	1
⑤資機材の購入計画が活動内容から見て適当でなかった	0	0	0	0	0
⑥その他	2	5	1	1	0

⑥その他の自由記述欄回答

他事業の伐採作業で依頼主とトラブルがあった等問題の多い団体だった
最終段階になって地元調整がうまくいかなかった

問7 (質問)

平成 26 年度内に、貴協議会に寄せられた本交付金に関する質問の内容とその対応の状況について教えてください。(横 1 行ごとにいくつでも) (n=45)

寄せられた質問の内容	該当する質問への 対応状況	A、 質問があつた	B、 質問が5件以上 あつた	C、 回答に時間がか かつた	D、 回答困難な問題 が生じた
① 申請手続きに必要な書類の記入方法について		44	34	5	1
② 対象となる活動の範囲について		40	20	5	3
③ 森林の図測・測量について		38	16	5	1
④ 購入可能な物品について		45	28	9	3
⑤ 人件費の取り扱いについて		42	23	6	1
⑥ 活動組織の規約の作成について		25	13	3	1
⑦ 活動場所となりうる森林の斡旋について		8	4	2	0
⑧ 収支関係書類(金銭収納簿)の作成について		42	32	9	2
⑨ 実施状況報告書の作成について		44	34	7	1
⑩ その他(上記以外で特に課題になった点について)		6	4	2	1

⑩その他の自由記述欄回答

変更申請、概算払いの手続きについて
購入可能な資機材について
当方が示した提出期限まで事業状況報告書が提出されない。 採択内容の変更手続きが的確に実施されない。(地域協議会への変更承認申請または届け出が実施されていない) 採択通知の活動タイプ別の交付金の上限であり、変更手続き(対象森林面積や活動回数を変更)を取らない限り交付金を増額することはできない。しかし、いくつかの活動組織は、交付金の総額以内であれば、タイプ間の交付金の相互間の流用できると解している場合があつた。
活動中の写真の撮り方について
写真の撮り方、枚数が多い等

問 8 (申請)

平成 26 年度内に、応募団体の交付金申請の審査の前に行った申請書・活動計画書等の修正指導の頻度について教えてください。(横 1 行ごとに 1 つ選択してください) (n=45)

修正指導内容	修正の頻度	A、 多かった	B、 多少はあった	C、 無かった	ポイント 数
① 交付金の対象外の取り組み分の除外		4	32	8	40
② 活動組織の規約、役割分担の不備の修正		3	24	17	30
③ 活動計画書の不備の修正		21	23	1	65
④ 実施が困難と思われるスケジュールの修正		4	19	20	27
⑤ 活動場所の森林の確保がされていないことの修正・指導		2	16	26	20
⑥ 協定の対象とする森林の計画図(図面)の不備の修正		10	26	9	46
⑦ 事業費に不適切な内容が含まれていた(中古品の購入など)		2	27	15	31
⑧ 森林環境教育において、講師予定者が適切な資格を持っていないことの修正		1	8	29	10

※ポイント数は「A、多かった」を 2 ポイント、「B 多少はあった」を 1 ポイント、「C、無かった」を 0 ポイントとして算定

問9（申請）

応募団体が作成した申請書・活動計画書について、交付金申請を受理するまでに何回程度の書き直しを行わせたのか、平成26年度全体でのおおよその数と、交付金申請を受理したうちで最も修正指導が多かった事例の回数を教えてください。なお、正規の提出前の修正指示も含めてご回答をお願いします。（n=45）

書き直し回数(H26)	回答数
10回未満	16
10回以上 50回未満	7
50回以上 100回未満	8
100回以上	3

	対象数	全体	最多
累計数	全体：33 最多：36	1075	129
累計（全体、最多双方回答のみ、矛盾回答除外）	26	1039	82
矛盾回答除外平均	26	39.96	3.15
矛盾回答除外中央値	26	20	3

※書き直し全体数よりも書き直し最多回数が多い矛盾回答が7協議会から寄せられていた。そのため、平均値については、矛盾回答を除外したもののみで算出した。なお、全体と最多回数双方に回答している協議会分のみ限定で平均値と中央値を算出した。

※「～回以上」との記載があった場合には、該当の数字で平均値を算出した。たとえば「50回以上」とあった場合には、「50回」とカウントした。

問 10 (審査)

平成 27 年度における応募団体からの交付金申請を審査するに当たり、以下に示す項目について、貴協議会が重要と考える度合いについて教えてください。(横 1 行ごとに 1 つ選択してください)
(n=45)

審査項目 重要と考える度合い	A、必須の条件であると 考えている	B、重要であると考 えている	C、どちらとも言 えない	D、あまり重要と考 えて いない	E、審査に当たっ て考慮 されていない
① 森林施業技術や森林に関する理解の向上に寄与しているか	1	26	14	4	0
② 取り組みの安全対策が適切に行われているか	21	22	2	0	0
③ 活動組織(応募団体)の構成員や参加者が多様な者で構成されているか	2	17	17	8	1
④ 活動内容が地域の活性化に寄与しているか	9	28	6	2	0
⑤ 活動面積・活動回数が、効果的な活動を行うために十分なものであるか	5	26	13	1	0
⑥ 活動の効果が国土強靱化に寄与するものであるか	1	10	22	7	5

問 11（審査）

貴協議会では、交付金申請を審査するために利用する、文書化した独自のチェックリスト・審査基準を作成していますか。該当する項目にチェックを入れてください。（択一）（n=45）

作成状況	回答数
① 作成しており、一般に公開している	7
② 作成しているが、一般に公開していない	13
③ 作成していない	21
④ 作成を検討中である	1

問 12（審査）

問 11 で「① 作成しており、一般に公開している」ないしは「② 作成しているが、一般に公開していない」と回答した協議会にお伺いします。

文書化した独自のチェックリスト・審査基準を作成することで、どのような効果があったかを教えてください。該当する項目にチェックを入れてください。（いくつでも）（n=20）

作成の効果	回答数
① 応募団体の提出した書類に対して、適切な修正指導を行うことができるようになった	18
② 応募団体の提出した書類に対して、修正指導を行う回数・時間を軽減することができた	8
③ 申請書類の 1 件当たりの審査を省力化することができた	10
④ 申請の採択・却下の理由を明確に説明できるようになった	3
⑤ どのような効果があったかわからない（作成後、日が浅い場合も含む）	0
⑥ その他	2

⑥その他への自由記述回答

書類の不足・不備が減った

問 13 (審査)

応募団体からの交付金申請に関する審査を円滑に行うために、貴協議会で実施している工夫について教えてください。該当する項目にチェックを入れてください。(いくつでも) (n=45)

実施している工夫	回答数
① 審査の際に外部団体や外部の専門家に協力を依頼する	10
② 交付金取得を希望する活動組織に対して、審査前段階で申請書類作成指導・支援を行う	36
③ Q&A 集や申請書類の記入例など、申請書類の不備を防止するための資料を一般公開している	33
④ 公募期間を早期に設定することで、審査期間を長めにとる	11
⑤ その他	4
⑥ 特に審査のための工夫を行っていない	1

⑤その他への自由記述回答

都道府県現地機関による指導
管轄市町村が受け付け窓口となり申請書類の作成指導を行っている。
森林経営計画等森林の該当有無について該当市町村に文書照会している

問 14 (現地調査)

貴協議会で、平成 26 年度に活動団体に対して行った現地調査の箇所数を教えてください。(n=45)

実施箇所数	回答数
10 か所以下	11
10 か所以上 30 か所未満	13
30 か所以上 50 か所未満	13
50 か所以上	8

回答数	絶対数	平均値	中央値
45	1,343	29.8	27

問 15 (現地調査)

現地調査を実施する際に対象とする活動組織を選定するに当たり、どのような活動組織を対象としているのかを教えてください。

問 15-1 すべての活動組織を対象として現地調査を実施しているかどうかを教えてください。

該当する項目にチェックを入れてください。(択一) (n=45)

① すべての活動組織を対象として現地調査を実施している	23
② 活動組織すべてが現地調査の対象になるわけではない	21

※未回答の地域協議会が1団体あった。

問 15-2 問 15-1 で、「② 活動組織すべてが現地調査の対象となるわけではない」と回答した協議会にお伺いします。対象候補の選定に当たり、どのような活動組織を重視しているのか、その度合いを教えてください。該当する項目にチェックを入れてください。(横1行ごとに1つ選択してください)

重視する度合い 現地調査の対象	A、必ず現地調査の対象としている	B、優先的に現地調査の対象としている	C、現地調査の対象を選定する際に特に考慮していない
① 交付金の支給額総額が上位の活動組織	4	11	5
② タイプ別に交付金の支給額が上位の活動組織	3	9	8
③ 実施状況報告書類の不備が懸念される活動組織	7	8	4
④ 活動計画に記載されたスケジュールの実現が困難と思われる活動組織	2	7	10
⑤ 活動計画の内容上の実現が困難と思われる活動組織	3	9	7
⑥ 過去の活動実績から取り組みを適切に実施できないと想定される活動組織	4	10	5
⑦ 申請が採択されたのちに内容の変更の届け出があった活動組織	2	5	12
⑧ その他 (上記以外で特に選定根拠がある場合にご記入ください)	4	1	1

問 16 (現地調査)

現地調査の際に協力を依頼している団体、専門家がいたら教えてください。(いくつでも) (n=45)

現地調査の際に協力している団体・専門家	回答数
① 都道府県	28
② 市区町村	12
③ 森林組合・造園業者	3
④ 企業	0
⑤ 司法書士	0
⑥ 地域の森林・林業に詳しい個人	0
⑦ 学識経験者	2
⑧ 本交付金の対象ではない公益法人・NPO 法人	0
⑨ 本交付金を取得している活動組織	6
⑩ その他	4
⑪ 特に協力している団体・専門家はない	10

⑦学識経験者の専門分野についての自由記述欄回答

都道府県 OB (林業部門)
協議会会員

⑩その他への自由記述欄回答

森づくりサポートセンター
都道府県林業職員OB 測量補助・森林取り扱い指導など

問 17 (現地調査)

現地調査の際に、以下に示す調査内容について、貴協議会が重要視する度合いについて教えてください。(横1行ごとに1つ選択してください) (n=45)

<div style="text-align: center;">重要視する度合い</div> <div style="text-align: center;">現地調査の内容</div>	A、必須であると考えている	B、重要であると考えている	C、特に重要であるとは考えていない
① 対象となる場所が活動を行うために適切であるかの確認	25	17	1
② 計画書に書かれている活動が適切な内容であるかの確認	28	16	0
③ 計画・書類通りに活動が行われたのか(行われているか)の確認	32	10	1
④ 活動を効果的に進めるための助言	7	30	5
⑤ 優良事例の選定のための調査	1	10	32
⑥ 森林の図測・測量が正しいかどうかの確認	11	26	6
⑦ 実施状況報告書(活動記録及び金銭収納簿含む)の内容に不備がないかの確認	29	11	3
⑧ その他	2	4	0

⑧その他への自由記述欄回答

書類や通帳等の原本の確認
資機材等購入品の使用状況・管理状況
本事業の活動についての要望・問題点等の聞き取り
資機材を申請・報告通りに購入しているか
書類、機材の保管状況確認、活動組織の構成員の関係性を知る

問 18 (現地調査の課題)

現地調査を効率的・効果的に行うために、貴協議会で実施している工夫について教えてください。(いくつかでも) (n=45)

現地調査のための工夫	回答数
① 外部団体・外部の専門家に協力を依頼する	5
② 経験豊富、あるいは審査を行う上で適切な資格を有する職員を調査に参加させている	13
③ 現地調査のための評価基準やチェックリストを作成している	10
④ 現地調査のために十分な時間を確保する	23
⑤ 改善状況を確認できるようにするため、単年度に複数回実施している	7
⑥ その他	5
⑦ 特に工夫を行っていない、あるいは現地調査を実施していない。	5

⑥その他への自由記述欄回答

都道府県林業職員 OB 測量補助・森林取り扱い指導など
必要な場合は GPS で面積を計測
林野庁からのチェックリストを作成している
管轄市町村職員に現地調査をお願いしている。
都道府県、市町村職員に協力(同行等) 依頼

問 19 (資機材貸与)

平成 27 年度より協議会の役割として活動組織への資機材貸与が加まりました。貴協議会では、活動組織に資機材貸与を実施していますか。(択一) (n=45)

資機材貸与の仕組みの実施状況	回答数
① 実施している	3
② 現在検討中(準備中)である	2
③ まだ検討を行っていない、資機材貸与を行う予定はない	39

※未回答の地域協議会が 1 協議会あった。

問 20（資機材貸与）

資機材貸与の状況についてお伺いします。

問 20-1 問 19 で「① 実施している」と回答した地域協議会にお伺いします。

具体的にどのような資機材の貸し出しを行っていますか。（いくつでも）（n=3）

貸与物品	回答数
① チェーンソー	0
② 刈払い機	0
③ 薪割り機	0
④ チッパー	0
⑤ けん引器具	1
⑥ 運搬車	0
⑦ バックホウ（ショベルカー）	0
⑧ 携帯型 GPS 機器	2
⑨ その他	0

問 20-2 問 19 で「② 現在検討中（準備中）である」と回答した地域協議会にお伺いします。

具体的にどのような資機材の貸し出しを検討あるいは準備をしていますか。（いくつでも）（n=2）

貸与を検討している物品	回答数
① チェーンソー	0
② 刈払い機	0
③ 薪割り機	0
④ チッパー	1
⑤ けん引器具	0
⑥ 運搬車	1
⑦ バックホウ（ショベルカー）	1
⑧ 携帯型 GPS 機器	1
⑨ その他	0
⑩ まだ貸し出しを行う資機材を具体的に検討していない	0

問 20-3 問 19 で「③ まだ検討を行っていない、資機材貸与を行う予定はない」と回答した地域協議会にお伺いします。資機材貸与のしくみを構築することが現時点で困難である、または不要であるとする理由を教えてください。(いくつでも) (n=39)

理由	回答数
① 交付金の要領が変更されてから日が浅く、検討の議題にできていない	1
② 交付金の要領が変更されたことを知らなかった	0
③ 予算が不足しており、資機材の購入や維持管理ができない	23
④ 貸与等の事務手続きが増えることが望ましくない	11
⑤ 平成 29 年度以降に本交付金がどうなるかわからず、機材利用の継続性が確保されていない	17
⑥ 資機材を購入しても受益者が多くないことが見込まれる	15
⑦ その他	11
⑧ わからない	0

⑦その他への自由記述欄回答

特段組織からの要望がない
保管場所がない
森づくりサポートセンターより資機材を貸与できる仕組みとなっているため
都道府県の森林ボランティア支援センターで林業機械等の貸し出しを行っているため。
保管場所が確保できない。日常のメンテナンスの体制がない。 万一の事故や故障への対応ができていない
管理に必要な人材、場所、ノウハウを持たない
申請団体から離れているので保管や移動が困難
他団体（森づくりサポートセンター）が既に資機材の貸与を行っている為
必要な場合はリース料での対応を考えてもらう
保管場所を有していない
事務所が狭隘のため資機材置き場を確保できない

問 21 (独自の取り組み)

本交付金の取り組みを効果的に行うために取り組んでいることがありましたら教えてください。
(いくつでも) (n=45)

独自の取り組み	回答数
① 巡回指導や個別指導の実施	20
② 交付金の認知度を高め、申請を増やすため、説明会を実施している	14
③ 技術や安全等に関する講習会の実施	18
④ 都道府県、市区町村等との連携による助言・指導体制の充実	20
⑤ 活動や活動場所に関する情報を把握するため、追加の資料作成を求めている	9
⑥ 交付金の利用状況を把握するための独自基準を設定している	3
⑦ 対象範囲内の優良活動事例を評価し、普及する仕組みを創設している (ニューズレター等を含む)	5
⑧ その他	7
⑨ 特に独自に取り組んでいることはない	5

⑧その他への自由記述欄回答

活動成果報告会の開催
活動組織の事例発表会
森林ボランティア活動発表大会を開催し、ボランティア間の情報交換と相互理解を深め、安全・技術の向上を図るとともに、交付金事業の成果を周知している
ホームページやメルマガ等を使って、教育・研修活動タイプの募集を支援している。
活動報告会を実施
説明会後に意見交換会を開催
書類の不備を防止するため、採択団体に対し、年 2 回の全体及びブロック別説明会を実施している。

問 22 (現在の課題)

地域協議会の運営全般に関して課題となっていることがございましたら教えてください。(いくつでも) (n=45)

運営上の課題	回答数
① 人材不足	15
② 予算不足	11
③ 指導のための時間の不足	15
④ 広報活動 (申請数の伸び悩み)	5
⑤ 申請方法についての指導	11
⑥ 申請に対する審査	11
⑦ 変更申請の審査・手続き	7
⑧ 現地調査の手法	9
⑨ 現地調査での評価	6
⑩ 交付金の経理処理事務	7
⑪ 林野庁への報告資料の作成	5
⑫ 個人情報の管理・各種書類の管理	4
⑬ 行政との連携・協力	11
⑭ 民間団体・専門家との連携・協力	3
⑮ その他	5
⑯ 特に課題と考えていることはない	6

⑮その他への自由記述欄回答

H29 年以降の予算等実績報告の確認処理
①森林環境教育の定義の周知の徹底
②消費税頭相当額報告書の書き方の統一
通年雇用できる事業でない。始めと終わりに集中、間は仕事がほとんどない。
各活動組織からの実施状況報告の内容確認・作成指導が負担となっている。

問 23 (活動組織の取り組み状況)

貴協議会の管轄内にある活動組織の活動の成果の全体的な傾向として、下記で示す項目に関する進捗状況について、貴協議会から見た印象を教えてください。

(横1行ごとに1つ選択してください) (n=45)

<div style="text-align: center;">進捗状況</div> <div style="text-align: center;">活動の成果</div>	A、 十分取り組みが進んでいる	B、 ある程度取り組みが進んでいる	C、 どちらともいえない	D、 やや取り組みが進んでいない	E、 取り組みが進んでいない	F、 よくわからない
① 活動を行う上での安全性の確保	4	31	9	0	0	0
② 森林管理を行う人材の育成	0	13	21	4	1	5
③ 森林・林業に関する理解の向上	2	22	12	5	0	3
④ 地域の(集落)コミュニティの活性化	4	18	14	4	2	2
⑤ 関連する人や団体間の連携・協力	2	23	9	7	1	2
⑥ 活動を継続するための財源の確保	0	4	10	12	12	6

問 24 (今後の要望)

本交付金に関連して、新たに本交付金の対象とした方が良いと考える取り組みがございましたら教えてください。(自由記述)

<ul style="list-style-type: none"> ・間伐、除伐材の搬出費用へのいくらかの補助。 ・現場調査をしていると、間伐等した立派な材が林地に放置されている。 ・資源の活用のため、搬出費用の補助が必要と感じている。
<ul style="list-style-type: none"> ・資機材のメンテナンス
<ul style="list-style-type: none"> ・現在の範囲で十分であると考えます。
<ul style="list-style-type: none"> ・安全対策品（ヘルメット、防護衣等）は活動タイプとは別に交付単価を設定し、対象とした方が良い（Ex. 10万円/団体）
<ul style="list-style-type: none"> ・当交付金は地域住民等を事業対象者としているところが利点であり、口コミで申請が増えていくことから、予算の確保をお願いします。施工管理等の事務処理を強化するのであれば森林組合や林業会社等を対象とした制度を作ればよいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・0.1ha未滿の森林も実施できるようにしたらどうか。(条件としてGPS等による実測とする。)
<ul style="list-style-type: none"> ・活動組織の構成員が受講対象となる安全講習に係る経費を教育研修活動タイプで利用できるようにする。人件費・事務費については、地域協議会で独自基準を設定してもよいとのことだが、判断に迷うこともあるため、ある程度の基準を設定した方がよいのではないかと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・森林空間利用に戻してほしい。教育・研修は講師の資格審査に手間取るし、活動組織もおおらかな活動が計画しづらい。
<ul style="list-style-type: none"> ・活動組織の広報物等（活動のPRとなるもの）
<ul style="list-style-type: none"> ・伐竹した竹材の利用に関し、今一步多くの情報が得られれば・・・。
<ul style="list-style-type: none"> ・活動箇所へつながる里道の管理。現時点では「森林機能強化タイプ」は同一年度では活用できないため。 ・6次産業化への推進。現時点では「加工」は対象外であるため。但し、取組内容の設定、単価の設定は難しいが。
<ul style="list-style-type: none"> ・先進的な取組を学んだり、他の活動組織との意見交換ができるようなブロック単位ごとでもよいので交流会のようなものの開催

問 25（今後の対策）

平成 29 年度以降も何らかの支援が継続するものと仮定した場合、活動の効果を向上するため、又は活動を持続するための手法として、シナリオ A とシナリオ B の二つの選択肢があったとした場合、貴協議会はどちらが望ましいと思いますか。なお、国の予算額は現行と同額と仮定してご回答ください。（横 1 行ごとに 1 つ選択してください）（n=45）

シナリオ A	① シナリオ A が良い	② どちらかといえばシナリオ A が良い	③ どちらともいえない	④ どちらかといえばシナリオ B が良い	⑤ シナリオ B が良い	シナリオ B
交付金の単価を下げることで、より多くの森林を整備する	1	10	21	9	3	整備する森林を減らすかわりに、交付金の単価を上げて、取り組みの質を高める
支援要件を緩和（手続きの簡略化など）することで、多様な団体の参加を促す	8	13	10	9	4	現状より支援要件を厳しくすることにより、優良な団体を育成する
現状より都道府県、市区町村の事務的な関与を少なくする	5	1	16	11	11	現状より都道府県、市区町村の事務的な関与を多くする
現状より都道府県、市区町村の資金的な関与を少なくする	8	3	19	8	6	現状より都道府県、市区町村の資金的な関与を多くする

問 26 (活動を行う上での課題点)

貴協議会が運営を行う上で、他の協議会と共有すべき事例として、特に苦労したことについて、教えてください。また、その苦労した問題について、どのように解決をしたのか、あるいは解決ができなかったとすればどのような理由によるものかを教えてください。

苦労したこと		どのように解決したのか あるいは解決困難な理由	独自の取り組み
体制	取扱件数は少ないながらも業務の担当者1名で事業を運営しており、人手不足が否めない。	専門の担当者及び事務員を配置できるほどの事務費は望めないため	
	申請時と業務完了時に事務が集中しており、特に完了検査を3月中に終了する必要があるため、休みもなくなる。	林業OBを雇用した。	機会あるごとに早く事業を終了するよう催促。最低でも2月末に終わるよう頼んでいる。
都道府県・市町村との連携	都道府県、市町村との連携	補助が直接地域協議会に交付されるため、事業の運営は協議会で行うものとの認識が高く、行政の協力が得られない。	協議会の事務を引き受ける際に、都道府県の担当課より全面的バックアップをするとの文書をもたらしている。
	震災、原発事故の影響で、関係する自治体(県、市町村)に余裕がなく、協議会との連携や協議会への支援がままならないことに苦労があります。	震災、原発事故からの影響が減少するまでは、なかなか解決できないことかと思われます。	行政関係者には、機会があれば情報提供を行い、連携できる部分を増やす努力はしています。
	各組織から提出される申請書・実績報告書の確認・修正の指導に時間がかかる。		市町村職員の当事業への関わりを強くし、各組織の身近存在である市町村の職員が書類や現地の確認・書類修正の指導を行っている。
	市町村の対応が市町によって異なり、保安林伐採許可や伐採届等の許可がとれているかどうか確認ができない場合があった。	申請時に保安林指定の確認依頼書、森林経営計画等の策定地の確認依頼書の添付をさせるようにした	
活動組織について	活動組織の書類作成能力	採択申請書・実施状況報告書提出前に県の協力を得てチェックを行っている。	書類作成等について、活動組織を対象とした説明会を年に1~2回開催し、留意点を伝えている。
	書類提出に関して対象団体の年齢が高いため、パソコン処理ができなかったり作成に苦労していて、提出が遅かったり不備が多い	書き方例を作成したり、頻繁に連絡を取って時間をかけ対応した。	
	代表者及び構成員が高齢者の組織で、申請書等が煩雑なためなかなか理解を得なかった。また、申請書等をもう少し簡素化できないかという意見があった。	協議会において申請書、計画書の素案を作成し、こちらから出向き説明・検討を行った。	
	活動組織には書類作成に不慣れな方が多く、実施状況報告書がなかなか期日までに整理されて提出されなかった。(書類作成が困難で交付金申請の取下げを申し出る団体もあった)	書類提出の遅れていた活動組織に対し活動内容の聞き取りを行い、県担当者として協議会で書類作成の指導を行なった。	本年度は10月ごろから活動組織に活動状況の確認や質問が無い等声かけして、要望があれば個別に書類作成等の指導を行っている。当初は9月ごろに書類作成の説明会の開催を検討していたが、個別に活動内容に応じた指導をしなければ効果が

苦勞したこと		どのように解決したのか あるいは解決困難な理由	独自の取り組み
			ないようなので、説明会の開催は見送った。
活動組織について (続き)	書類作成が不得手な団体があり、指導に手間がかかる。 書類等は市町村を經由して提出してもらっているが、市町村担当が他の業務で多忙の場合時間がかかる。	書類作成の不備については、原案を事務局で作成し、団体へ送信し、作成しなおしてもらっている。	
	活動組織間で体制や事務処理能力の差がけっこう大きく、レベルアップが必要な組織への対応に苦勞している。	個別指導を重ねている。	
	計画変更、交付金の最終調整等の他、事務手続きについて活動組織の事務処理能力のレベルに差があり、指導に苦勞しています	活動組織に対して、すべての乱袋向けの指導に加えて、個別の指導も行っています。	
申請に係る事務全般	<ul style="list-style-type: none"> ①取組活動組織の数が多く、取組意識にも差があるので、全ての活動組織の活動の様子について把握したり、連絡事項の周知、提出物の締め切りなど徹底してもらうのに苦勞している。 ②事務費について、新年度4月以降に前年度の事務をしなければならない場合があるが、その分の事務費の取り扱いについて苦勞している。(特に、27年度は予算の成立が遅れたため、空白の期間ができた) 		<ul style="list-style-type: none"> ①活動組織への重要な連絡事項については、同じ内容を文書とメールの両方で送り、読んでもらうようにしている。 ②活動組織への交付金の支払い事務は、できるだけ3月中に行うよう努めている。
	ボランティア向けの助成事業なので、補助金等の書類を作成したことがない人が多く、申請書類等の作成方法を1から説明し指導したこと。また、事業の内容及び実績報告時の書類の作成の仕方についても、説明してもなかなか理解してもらえなくて大変だった。	出来る範囲ではあるが、活動団体とは頻りに連絡を取り、現地や事務所に行って直接顔を合わせ、話をする事によって、気軽に質問・相談しやすい雰囲気づくりや関係性を築くために努力した。	活動団体ごとの交流を持ってもらうため、近隣の活動団体どうしの意見交換会を開催し、活動団体間の情報共有を進めている。また、有志による夜の懇談会(飲み会)の開催が非常に有意義だった。
	活動組織に、交付金(補助金)と請負の違いを理解させることが難しかった。請負業務の受注者は、森林整備に必要な人日が少なければ少ないほど、多くの利益を手にすることができるが、交付金(国庫補助金)の場合は人日が少ないほど不用額が発生してしまう。	構成員に林業や土木工事の経験者がいる組織は、請負業務の感覚で本交付金を執行し、不用額を発生させるケースがみられる。この場合、地権者や地域住民のスピードに合わせて活動するか、実施要領に定められた方法で人件費単価を算出するように指導している。	
	交付金申請、実績報告等、事務処理の煩雑さ	活動組織が毎年の助成金をもらうための事務手続きに慣れていない	
	<ul style="list-style-type: none"> 活動組織に、本交付金もつ「直接支援」の性格を理解させることが難しかった。 従来の多くの補助金・助成金は、活動に必要な物品の購入等を支援する「間接支援」であり、本交付金の実施状況報告書も、物品等の領収書を中心に整理すれば事足りると考える組織もあった。 	当機構が独自に定める募集要領を改正し、①本交付金が森林整備等の活動を直接支援する性格の交付金であること、②交付金の活動を行ったことの証明としての活動記録や写真整理帳の提出が重要であること、③活動参加者の日当を主たる用途として想定していること、④物品を購入する場合は年度内に交付金の活動の中で使用する必要があること、等を明記した。	

	苦勞したこと	どのように解決したのか あるいは解決困難な理由	独自の取り組み
申請に係る事務全般	活動組織が購入を希望する物品が、消耗品、資機材、対象外のいずれに該当するのか、判断が難しかった。	林野庁や他の協議会に相談した。最終的には改善されたQ&Aに基づいて判断している。	判断が難しい事案が発生するたびに、一斉メールで活動組織に周知を図った。
	計画の変更について、活動の終盤近くになってから相談があった。	活動組織とともに活動計画及び活動状況を精査のうえ、その後の活動や事務処理について指導した。	特に独自の取り組みというものはない。活動計画を踏まえ、適宜、電話やメールにより活動状況の連絡を受けたり現地確認を行ったりする。
	3月～4月に実績報告と次年度申請が重なること要綱・要領の改正が毎年あり、4月1日の書類上の施工まで手続きができない。	事務処理の工夫	
	国が定める申請書類の様式に収支予算が無かったため、交付金の使途は審査の対象としなかった。このため、交付金の対象とならない経費が発生しても、実施状況報告書の提出後にならないと、そのことが判明しない恐れがあった。	活動組織に対し、「本交付金は森林整備等の活動を直接的に支援するものであり、活動に要した人件費を主な使途と想定している」旨を徹底させた。また、採択を受けた活動組織から予算書の提出を求め、交付対象とならない使途がある場合は改善を求めた。なお、予算書の提出は概算払いの条件とした。	
	活動組織数が多く、かつ実施状況報告書の提出が年度末に集中するため、現地確認が思うように実施できない。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・現地検査において、明確な成果基準がないため評価については迷いが生じる。活動組織の目的、目標を基準点として、人数、回数、技量を考慮したうえで個別の評価になっていること。 ・活動組織にはPCを使えない方々もいるため、書類作成においては大変な負担となっている。そのため指導、修正においてもより細かな説明を必要とする。 ・活動写真の撮り方については、施工写真に慣れていない方がほとんどであるため、説明と指導を重ねても出来ていない。 ・協議会事務としては、実績確認及び修正作業と次年度説明会の実施、申請受付が同時期に集中してしまうため、非常に負担が大きいこと。 ・年度ごとに少しずつ要件・様式等が変更されるため、その説明や指導に時間を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書類作成については、独自様式を作成し付帯資料として提出させることにより、根拠資料となると共に確認事務の軽減化につながることを目指している。 ・ただし、活動組織から書類作成の負担が大きくなるため、今後の活動の継続について不安感も生まれてきている。 ・とにかく説明と指導を続けるしかないため、出来る限り協議会との関係性を深めるよう努めております。 	施工基準の統一は難しいが、安全講習会等研修会を優良な活動組織の活動現場で行うこととしている。他の活動組織の活動を知ること、また説明と指導をしたうえで活動組織自体に意識を高める様促している。
	申請団体間の予算配分調整	特に申請額の多い団体に対し、直接かけ合うことで事前調整した。	
林野庁の予算成立等に振り回されること	締切時期の変更等		

苦勞したこと		どのように解決したのか あるいは解決困難な理由	独自の取り組み
測量関係	全箇所での測量及び終了後の確認を行っているため、森林整備に関しては確認が比較的容易に出来たが、森林空間利用(教育・研修)は写真のみなので実績の確認に苦勞した。	採択通知書に添付する「地域協議会が別途定める事項」の中に「教育・研修活動に要した経費の記録方法について」を設け、詳細なマニュアルを記載した。	
	<ul style="list-style-type: none"> 公図を使って計画図を作成し、登記面積を根拠に申請面積を算出した活動組織に対し、森林計画図と森林簿に基づいて申請するように指導したところ、逆に「森林計画図や森林簿が無く、永年放置されてきた森林こそ、本交付金の本来の対象ではないか」と指摘された。 他にも、地図の入手と実測が困難な組織、小班界と整備エリアの境界が異なる組織が、複数存在した。 	<ul style="list-style-type: none"> 当機構が独自に定める募集要領を改正し、活動組織が活動推進費の活動として整備エリアの境界を設定すること及び協議会がGPSで面積を計測することを条件に、公図及び登記面積並びに地理院地図(国土地理院が提供する地図情報サービス)による申請を認めた。 この改正に先立って、GPS計測の試行を行い、その誤差は概ね0.1ha未満におさまると判断した。なお、実施要領は交付金額の算定根拠となる面積を図測又は実測により算出することを求めているが、実施状況報告書の提出までにGPSで面積を計測すれば実施要領の規定に合致することを林野庁に確認した。 	
	交付金の積算基礎となる活動森林面積の測量(新たに取り組む森林面積をGPSで測量し、面積を確定している。森林内での測量には体力が必要であり、また、測量時期が重なるため調整が難しい。)	GPSによる活動組織での測量の実施(GPSを複数台購入し、測量をしようとする活動組織へ貸し出し、面積測量をしてもらう。H27年度から。)	
広報	事業広報	新聞広告が一番効果があるが、金がかかり予算計上できない	

苦勞したことの解決状況

回答協議会数	計 23
解決した	5
対応中	14
解決できなかった	4

地域協議会へのヒアリング要旨（一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構）

〔ヒアリング対象〕 一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構

〔実施日時〕 平成 28 年 1 月 18 日（月） 14:00～16:40

〔実施場所〕 一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構 事務所（東京都千代田区）

〔同席者〕・一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構

業務部 コミュニティビジネスチーム長 原田明氏

・公益財団法人日本生態系協会 野口、平林

■組織の事務体制について

- ・通常期 6 名、繁忙期 6 名。途中退職者が 1 名おり、人員 1 名を補充した。

■交付金の募集について

- ・募集回数は平成 26 年度 5 回、平成 27 年度 2 回。
- ・予算内示額分に満たなかったため、余った予算分は林野庁に返上した。

■他団体・機関との連携

- ・市町村への告知は各都県を通して行っている。
- ・都県が持つネットワーク（ボランティア団体登録等）を活用している。
- ・自治体の担当課へ直接アプローチした例もある。
- ・森林ボランティアに積極的にかかわっている市町村には直接連絡することもある。

■参加者を増やすための工夫

- ・行政ルート、ホームページ掲載、説明会、メールマガジン、ファックス、森林ボランティア団体をネットで検索して個別に E メール、NPO 助成金案内サイトへの掲載、過去に問い合わせ等もらった団体・個人をリスト化し個別に E メール など
- ・市町村とつながりのある団体（15 市町村）に対しても広報
- ・全般的に、手当たり次第に広報している状況。

■説明会の開催状況

- ・幅広く、手当たり次第に広報している。
- ・開催場所は 1 か所（東京都千代田区）のみ。
- ・開催回数は活動報告会を兼ねて 1 回のみ。参加者数は 100 名前後（新規・継続込、継続団体が多い）
- ・事業内容、申請の仕方、事業の特徴（直接支援であること）を特に強調して説明。書類作成

について特に強くお願いしている（担当者をしっかりつけるように等）。

- ・申請書の記載例を新規と継続で分けた。継続団体の場合、3ヶ年計画を勝手に変更されてしまっては困るので、それを把握できるように活動計画書の書き方を示した。

■苦労したこと・課題

- ・神奈川県では、林小班を航空写真から判別された林相の違いによって定めているので、所有界と一致しないことがある。
- ・手書きや地図に不備のあるものは本来実施要領を満たしていないが、実施要領を丁寧に読むと、図側や実測を採択前に行わなくてはならないとは書いていない。受理後に地域協議会側でGPS測量することによってケアし、面積に変更が生じたらその時に変更申請させる形にしている。
- ・こうした実態が判明して以降は、マニュアルに「地籍調査実施状況の確認」→「森林計画図を入手する（連絡先記載）」→「手書き地図や公図などでも良いからまずは申請する」ということを掲載した。
- ・国土地理院の地図や公図を使った申請を許容した。
- ・GPS測量については、面積の大きいところは県や市とつながりがあるところが多く、支援を受けていたため、対応が必要だったのは小面積の団体が多かったかもしれない。

■活動組織からの相談・審査に関すること

[相談への対応]

- ・電話、メールで受け付けている。
- ・市町村は通さずに直接受けている。
- ・林野庁の記載例への書き加えや、電話で聞き取って地域協議会側で書類作成などの対応を行っている。
- ・アンケートに記入した相談回数には申請時の相談だけでなく、変更申請など申請後の相談も含まれている。

[相談内容]

- ・幅広いので相談内容の集約や集計は行っていない。ただし部署内で共有はしている。
- ・地域協議会側が思いもしなかった所で交付金内容の誤解をされる事例があるので、そういったことは2年目に反映している。
- ・資機材なのか消耗品なのか判断しづらい。林野庁の手引きが出たことで解決しやすくなったが、それ以前は出来るだけ物品を買わない方が良いと案内していた（1年目途中～）。また、対象内の森林かどうか確認しづらい案件がたまにあり、県の砂防課で確認をするようなことがあった。
- ・解決できなかった質問はない。そのような場合は申請から外すか、変更させるか、場所を

除外するかして対応した。木が 2 本しか生えていない場所もあったが、これは申請辞退という形になった。

■修正指導の内容

- ・対象外用途の除外が多かった。対象外取組分については、まずどのように変更したら対象内になるかを案内し、それでも変更できないものは除外した。
- ・申請書からだけでは読み取れないものも多かった。
(例) .木製案内板を設置するだけ、野生動植物保護のために一切作業をしない区域も申請面積に加えていた場合 など
- ・ただし、伝統工芸品である「めかい」の材料となるアズマネザサを育てるための適度な手入れを行うような申請は認めた。
- ・規約の不備として、細則を整備していないケースが多くあった。これについては記載例を示してしまうとそれをそのまま流用して作成されてしまうおそれもあったので、対応が難しかった。規約は団体ごとに違うため、細則をそのままコピーペーストされてしまうと問題が生じる恐れがある。
- ・活動計画書の不備として、面積の数字が合っていないなかったり、面的な整備を伴わない計画（道づくり、小屋づくり等）で申請していたりするケースがあった。宅地や墓地を計画に含んでいる場合もあった。
- ・タイプ別の予算管理などで苦労している様子が活動組織に見られた。

■審査全般について

- ・却下したものが 1 件あった。
※平成 26 年度のもので、学校林だったため、できれば採択したかったが、実際には公道周囲の街路樹で、0.1ha 未満だったため森林ではないと判断。
- ・申請まで至らなかった案件が 2 件あり、いずれも採択決定前の辞退。1 件は代表者が怪我をしたため。もう 1 件は想定よりも書類提出が多かったため（「説明の言葉が理解できない」と言われた）。
- ・採択後に事業を廃止した案件は 2 件あり、緑の募金との重複交付が 1 件、もう 1 件は担当者が多忙のため。
- ・それ例外には、事務処理能力の不足、対象地の地目違い、対象地の場所が別の地域協議会の管轄だったなどの申請を見送った事例がある。これらの団体に対しては、他の支援制度を紹介する等の対応を実施。
- ・審査基準は特にないが、チェックリストを一般に公開している。チェックリストは、申請書類の抜けがないかを確認するためのもの。
- ・現地審査を行ったのは 2～3 件。いずれもプライベートで訪れた。状況が進んでから、2 回目の視察は所属団体の出張で行った。

- ・現地調査をして初めて判ること、変更になることが多い。大きな面積変更が3~4件あった。

■資機材購入のチェック方法

- ・平成26年度は、現地で物品を確認し、交付金で購入した旨のシール貼付、出納簿の備考に保管場所を記載、資機材使用の様子の写真撮影等の対応状況を確認した。平成27年度については、平成26年度の実施事項の現場確認、活動実績報告書の記載内容の確認を行った。

■現地調査に関すること

- ・概ね1~2名で実施（原田氏及び林業に詳しい職員が分担）。特に他団体と連携を図ることはない。
- ・平成26年度は実績報告書の提出前（11月~翌年1月）に実施した。
- ・午前8~9時頃に現地に到着し、出来るだけ午前中に終わるようにした。1年目は慣れていないこともあり、午後6時か7時頃までかかることもあった。
※書類が作成できていない、活動内容に対する認識のズレの擦り合わせなどに時間を要した。
- ・現地調査を義務とは考えていない。基本は組織への支援であり、「現場で相談にのりますよ」「一人で悩まないでください」というスタンス。内容は書類作りのひな形作成や、面積測量の手伝い（検証）など。現地調査を好まない組織もあるが、その場合には無理強いせず、「支援を拒む分自己責任の度合いが大きくなる」ということを伝える。
- ・評価基準やチェックリストは林野庁のものを使用。
- ・問題が発覚した場合は残り期間で対応していただくか、変更申請をお願いする。そのようなケースがあった場合には翌年度の募集要項やマニュアルに留意事項として記入して、申請団体と共有を図っている。

■現地調査にあたって苦労したこと

- ・土地勘がなく場所が把握できないことがある。いまのところ、地図を駆使して現地には辿りついている。
- ・林野庁には、現場の実情を踏まえた書類作成をしてもらいたかった。
- ・金銭出納簿と通帳の日付一致は非常に厳しい。状況によっては一致しないケースもあるので、ある程度許容している（通帳で現金を下したのちに、日当を直接現金で渡すケースなど）。それよりも活動の有無や人数に相当する日当が出納簿にきちんと書かれているかどうかの方が重要。

■書類作成について

- ・日頃の電話相談、書類提出（2月末）後のやりとり。修正指導は多い。主にメールで対応しているが、電話等で話さないとわからないこともある。

■特に活動組織が苦勞している点

- ・写真撮影。撮る作業そのものが大変な面がある。カメラマン役のメンバーが、「こんなことのために参加している訳ではない」と不満を言うケースもある。撮影者を交替して集合写真を複数撮影した方が良いのかなどの問い合わせもあり、活動組織の方は割と細かいことを気にかけている。
- ・林野庁作成の「写真の撮り方ガイド」は年度途中の発行だったので、遵守できない面がある旨を含めて、各活動組織に郵送または現地での手渡しにより周知した。
- ・適切な写真を用意できなかった活動組織には、事実に相違ない旨の始末書を書いていただいたケースがある。地域協議会としても緊張感をもって対応している姿勢を示すことが重要。

■安全性確保のための取組み状況

- ・保険加入をお願いしている。活動組織側の保険の大切さについての認識は向上している。
- ・今年度 1 回森づくりフォーラムの協力で安全講習会（座学）を実施した。対象は活動組織のリーダーで、組織運営の上での心得などを講習した。
- ・アンケートではチルホールを使った伐採の研修などを望む声があるので、今後検討している。

■資機材貸与について

- ・森林組合等との正式な形の連携は行っていない。
- ・ある活動組織からチップターの短期レンタルについての問い合わせを受けたため、一斉メールで他の活動組織などに情報提供を呼びかけたところ、別の活動組織が貸し出しを申し出てくれたことがある。

■活動円滑化のために苦勞していること

- ・雨や怪我、体調不良などで参加できず、要領の参加人数に満たなかった時でも安心してイベントを行えるように、名簿の備考欄に参加する予定であった旨を記載するように伝えている。
- ・今後、実技講習会や参加者募集の面で地域協議会としてサポートしたいと考えている。

■行政・関連機関、活動組織との連携に関すること

- ・千葉県、大阪府、高知県に交付金の事務手続等について質問したことがある。
- ・群馬県に森林セラピーロードとの協定締結について質問した。

■活動組織間の連携について

- ・ホームページで現場の活動状況（カレンダー）を周知している。
- ・メールマガジン（同報メール）の活用。現在はメールマガジンによる一方通行の情報発信だが、活動組織の課題共有などにも役立っているようだ。資機材の貸し出しでも呼びかけに応じたり、情報提供が寄せられるようになった。

- ・ 今後は SNS の活用をしていきたい。

■事業全般に関する評価・要望

- ・ 複数年度で事業を実施することを前提として地域協議会に受け渡してほしい。
- ・ 活動組織は年度はじめの 4 月 1 日から活動できるようになることを希望している。
- ・ 活動組織の活動の質が高まっていると感じている。継続団体だけでなく、新規団体からの問い合わせ内容も水準が高い。活動組織の交付金の特徴に対する理解も深まってきている。
- ・ 「活動の報告」と「交付金利用状況の報告」の両方では負担が大きい。活動の報告と証明ができれば、その活動に対して一定額の交付金を渡せるようにできないか。
- ・ 地方自治体の財源とのマッチングが成立しなかった場合に、地方自治体から交付金が交付されなくなってしまうようにはしてほしくない。国費としての公平性が失われてしまう。
- ・ 悩みとして、森林環境教育の定義がある。活動組織は、参加者の気づきを促すようなイベントの実施を指向している。一方で交付金の要件では指導者の存在を規定しており、教え授けという要素を重視している。活動組織の活動スタンスと交付金で求める要件の間には乖離がある。

地域協議会へのヒアリング要旨（森林・山村多面的機能発揮対策愛知県協議会）

〔ヒアリング対象〕 森林・山村多面的機能発揮対策愛知県協議会

〔実施日時〕 平成 28 年 1 月 12 日（火） 15:00～17:00

〔実施場所〕 森林・山村多面的機能発揮対策愛知県協議会 事務所（愛知県名古屋市）

〔同席者〕 森林・山村多面的機能発揮対策愛知県協議会 三輪久美子氏

愛知県庁農林水産部農林基盤局森林保全課 藤野仁誠氏

公益財団法人日本生態系協会 野口、平林

■組織の事務体制について

- ・ 主担当は地域協議会の三輪氏、県森林保全課の藤野氏の 2 名。
- ・ 知識を必要とする対応は県の担当職員等とも協力している。

■他団体・機関等との連携

- ・ 活動組織募集の広報で、市区町村との協力体制はないが、県から市区町村へ関連情報を提供している。
- ・ 活動組織同士の横の繋がりがあるようには感じているが、地域協議会としては特にコーディネートは行っていない。
- ・ 個々の活動組織はまず市町村に相談を持ち込むが、市町村は相談内容を地域協議会に回してくる。ある程度市町村で対応できるような体制を作りたい。
- ・ 資機材貸与や安全管理の面では、森林組合と協力したい。

■交付金の広報について

- ・ 説明会の開催に当たっては、昨年度までの活動組織、県の関係事務所に開催する旨を情報提供している。説明会では、活動タイプの変更、事業内容に道路整備を含めることの可否、支援対象外の日常的な活動内容などについて質問があった。
- ・ 今後の交付金の展望が明確にならないと、地域協議会としても積極的に活動組織を増やそうという取組が行いにくい側面がある。口コミによる交付金の情報流布、申請に関する問い合わせはときどきある。

■活動組織の活動状況

- ・ 活動組織数は、平成 26 年度に 11 団体、平成 27 年度は 14 団体。

■申請の審査について

- ・申請書類を書くことに慣れていない方が多く、基本的な書き方ができていなかった。
- ・添付図面から活動地点が解らなかったケースもある。
- ・申請しやすくするための工夫として、書き方だけでなく、具体的な記入内容の例示を行ったほか、林野庁の手引きを公開した。
- ・本交付金は人件費を拠出することができるが、面積当たりの交付額は決まっている。そのため、人件費をまかなうために申請面積を過大にしていると思われる申請事例があった。交付金には人件費や事務費に関する基準が設定されていないため、このような不正と思われる申請に対して地域協議会は却下することができない。(活動組織が一年間で対応できる面積は、概ね 2ha 程度が限度ではないかという感触がある)
- ・現地調査で極力実際に活動が行われた跡があるかどうかを確認している。季節的に現場で確認できないものについては実績報告書の写真で確認。それでも確認できないものについては交付できないということを活動組織にも伝えている。
- ・上記理由のため実績報告書に添付する写真についても、活動の事実が確認できるように「撮影位置・方向の一致」などは重視している。
- ・不正の事例として、メンバーが同じだからという理由で別の日の集合写真を添付したものなどがあった。その際、撮影日付の違う写真を削除するように指導したが、集合写真一枚の欠如によって活動そのものが無かったものと取り扱う訳ではない。その程度の瑕疵であれば活動組織を信頼して交付する。
- ・申請に至らなかった活動組織が 1 件あったが、これは申請書類に不意が多く、計画がきちんと練られていなかったため。準備期間を置くようにすすめた。
- ・実績報告の不正事例として、「実績として載せているイベントが活動組織主催ではなかった(イベントのパンフレットから発覚)」、「活動日でない日のガソリンの領収書が精算書類として大量に提出された」等の事案があった。

■現地調査について

- ・昨年度は日程調整の都合で 3 組織に対して実施(2014 年 12 月に 2 件、2015 年 2 月に 1 件)。今年度は 2015 年 2 月 12 日以降に全活動組織を視察したいと考えている。
- ・現地調査では主に実際の活動面積を確認する。細かくは見られないが大まかに。その上で、実績報告書の内容について、事実即した内容に直すよう指導する。

■活動組織からの問い合わせについて

- ・メール、電話等では日常的に沢山ある。人件費・事務費に関することが多い。技術面の問い合わせはほとんどない。実績報告書の写真等を省けないかどうかという問い合わせも受ける。
- ・現地での指導は、協議会の人員体制上なかなかできない。

■資機材の貸与について

- ・名古屋で資機材を配備しても貸し借りは難しいのではないか。今のところ、森林組合で資機材を貸与できるような仕組み作りは動いていない。

■独自の取組について

[書式等の改善]

- ・出納簿の国の様式が word であったため、Excel で作成し直して web に掲載した。
- ・説明会において、写真が多ければ多いほど良い旨を説明したところ、ある活動組織から写真綴り帳に整理して提出してはどうかとの提案があった。その提案を採用して、写真つづり帳の書式を作成した。

[アンケートの実施]

- ・各活動組織の一般構成員を一組織当たり 2～3 名無作為に選び、文面を封書で郵送（昨年度は往復はがきで実施）。
- ・アンケートでは、日当をちゃんと受け取っているかどうかの確認、要望事項、日頃感じていることを拾い上げた。回答結果は、活動組織の対応時の基礎資料として位置づけるとともに、今後の対応に反映していきたいと考えている。

■安全性の確保について

- ・注意喚起程度にとどまっている。人間的に、安全講習会などを開くのは難しい。マニュアル作りが考えられるが、活動組織側も読まないことも考えられる。安全対策を講じても事故は起きる。安全の担保を交付の条件とすることはできない。
- ・安全講習の受講までは交付金の枠内であり、技術資格の受験は交付金の枠外となっている。安全講習の受講費用が活動の日当を食ってしまっているため、講習受講も交付金枠外でやりたいという要望が活動組織からあった。

■本交付金に対する要望等

- ・消耗品利用に関する報告は各タイプで分けないようにすれば事務上の手間が多少削減できるのではないか（品目単位ではなく、トータル金額を割るなど）。
- ・既存団体にとっては、この交付金を与えることが団体の存続に与えるメリットは特にないと思う。交付金をきっかけに新しくはじまった団体にとってはメリットがある。ただし、まだ活動組織の自立を促すサポートの取組は行っていない。

地域協議会へのヒアリング要旨（公益社団法人高知県森と緑の会）

〔ヒアリング対象〕 公益社団法人高知県森と緑の会

〔実施日時〕 平成 28 年 1 月 14 日（木） 9:00～11:00

〔実施場所〕 公益社団法人高知県森と緑の会（高知県高知市）

〔同席者〕 公益社団法人高知県森と緑の会 専務理事兼事務局長 三好日出雄氏、

担当 寺尾友希氏、原田知栄氏

公益財団法人日本生態系協会 野口

■組織の事務体制について

- ・職員 2 名で対応している。繁忙期には応援をつけている。

■活動を始めた経緯

- ・平成 25 年 6 月に地域協議会が発足。林野庁と連携しながら、一から活動を積み重ねてきた。

■広報について

- ・主にホームページで情報発信しているほか、県や市町村にも広報を依頼している。活動組織による口コミも大きいようだ。
- ・毎年 10 団体程度応募が増えている。

■説明会について

- ・申請書作成、報告書等作成の 2 種類の説明会を実施している。内容については、前年度からの変更箇所の周知など。
- ・説明会では全体説明の後、既に交付金を受け取っている団体と、新規に交付金を受ける団体の二つに分けて説明を行っている。既に交付金を受け取っている団体は、過去に経験を有しているが、新規に交付金を受け取ることを目指す団体では、聞きたい内容が異なる。
- ・高知県は東西に長いという特徴があるため、当初は 5 か所で開催していたが、現在は、活動組織の分布なども考慮して、高知市と西にある幡多地方の 2 か所で実施している。
- ・活動組織を集めて質問を受け付けることにより、全体で難しい点の共有を図ることができる。中には“何が分からないことか分からない状態”の団体もあるので、そうした団体にとっては、説明会への参加によって、分からない点の切り分けができるようになる。
- ・説明会の広報については、ホームページのほかに、申請団体に直接メールや FAX で連絡している。新規団体については、ホームページの他、県や市町村からの連絡を見ているようだ。

■交付金の募集について

- ・予算がある限り募集を継続したところ、昨年度は7回も審査会を開くことになった。
- ・今年度は、予算の内示額を目安に募集したところ、一次募集のみで満額に達した。ただし、申請がありながら利用額が減ったところや林野庁からの増額分を追加することで、募集枠を拡げるようにしている。
- ・募集に際しては、関連団体への声かけを行うとともに、前年度の申請団体には募集案内のEメールを送信している。

■申請書類の審査について

- ・電話だけでは対応しきれないことがある。電話で無理な場合には、FAX 等で対応。かなり細かく、代筆に近い形で書くようなケースもある。
- ・各活動タイプの対象範囲の線引きが難しい。地域環境保全タイプで活動を行っている団体について、製材をどうするかという問題などが挙げられる。
- ・人件費の基準は決めていない。高額すぎる場合には内容を尋ねている。目安としては森林組合の一般クラスを参考にしている。
- ・作業水準は定めていない。
- ・事務作業を人件費に加えることについては認めている。ただし、作業量に比べて事務量が多い場合には問題がないか確認している。
- ・登記簿等では面積が確実でないケースもある。少ない面積で算定されている別の公的書類があれば、その書類を証明資料として提出することでOK とする場合もある。
- ・申請書類や業務実施報告書については、チェックリストを作成し、複数名でチェックを行っている（チェックで重点的にみる箇所は人によって異なるため）。
- ・採択が危ぶまれるケースについては、事前に相談をしてもらって、トラブルを予防できるように周知している。
- ・資機材の購入確認では、活動組織からの書類だけでなく、販売店にも声をかけて、実際に購入しているかどうかをチェックしている。領収書のコピーがある為、それをもとに販売店に確認を行っている。
- ・写真が1日分ないような場合は、理由があれば写真なしで認めている。
- ・写真撮影に当たっては、撮影位置をテープ等で示すなどで、同じ場所で写真を撮ってもらうように指導をしている。
- ・山の上まで作業をしたことになっているのに、山の下の部分しか写真がないようなケースがあった。

■活動組織からの問い合わせについて

- ・毎日のように電話がかかってくる。
- ・申請物品が消耗品に該当するかどうかについての問い合わせが多い。消耗品の枠で、チェー

ンソーや刈払い機の本体を買おうとする団体もある。

■現地調査について

- ・森と緑の会からは 2 名で参加。事前に県の担当者にも連絡を入れるので、県の担当者が同席することもある。繁忙期と重ならないように、実績報告書の前の時期に行う。所要時間については、団体によって確認事項の多寡があるため、バラツキがある。
- ・前年度の審査で問題があった活動組織には、6 月には実施している。
- ・なるべく複数回数を実施するようにしている。
- ・現地調査によって、交付金の修正や却下が生じることはない。ただし、別の活動タイプにした方が良いのではないかという助言をするケースはある。現地調査は翌年の助言にも活用している。
- ・近隣の活動組織同士で交流がある場合などは、現地調査の際に、交流のある活動組織が同行することもある。
- ・現地調査に当たっては、必ず報告書を作成し、他の職員による確認をしてもらっている。報告書、1 団体あたり A4 用紙 1~2 枚程度で写真も掲載されている。
- ・現地調査は全団体への実施を目指しているが、概ね 40~50 団体程度となっている。
- ・他団体の現地調査の機会を利用して、近隣の活動組織の書類確認や内容指導を行うケースがある。

■相談しやすい環境づくりについて

- ・活動組織間の交流会・懇親会を実施した。30 名程度が参加し、横のつながりができ、書類について教え合うような関係ができているようだ。
- ・申請、提出書類などの提出忘れがないように定期的にメールを送信して注意を促している。

■資機材の貸与

- ・実施していない。資機材のメンテナンスができる体制にないため、資機材貸与の実施は困難。他の団体・機関等が行っている資機材貸与についての問い合わせは受けたことがない。

■安全性の確保

- ・説明会では保険の説明もしている。
- ・県がチェーンソーなどの講習会を開催している。関連する講習会については、受講が交付金の対象になることも伝えた上で、個別に講習会の案内をしている。県の講習会については出席者の名簿も見ることができるので、活動組織ごとの講習受講状況も把握でき、現地調査の際に、安全性を重視しているのかも把握できる。

■他団体との連携

- ・他県の地域協議会より、高知ではどのような取組を行っているかという問い合わせが来ることがある。四国でブロック会議を行っているときにも話題となる。ただし、高知では、他県と擦り合わせて実施内容を揃えることはしていない。

■交付金事業への要望等

- ・ぜひ継続してほしい。高知ではボランティアを対象とした交付金が本交付金のみであり、この交付金がなくなると大きな影響が生じる。
- ・県や市の負担を高めるような場合、県や市が本交付金についての予算化が決まってなくとも、国だけの予算でも事業を進められるようなしくみがあるとよい。
- ・実績報告の簡略化が望ましい。

森林・山村多面的機能発揮対策に係る活動状況についてのアンケート

団体名、団体所在地、アンケート記入者名、連絡先をご記入ください。

団体名			
団体所在地 (市区町村まで)	都・道・府・県	市・区・町・村	
アンケート記入者名			
連絡先	(電話番号) :		
	(Eメールアドレス) :		

- このアンケート調査は、林野庁が実施する森林・山村多面的機能発揮対策事業を活用して森林づくりや地域活性化に取り組む団体（活動組織）の皆様を対象に、各種の活動状況や活動計画の内容をお尋ねし、回答の集計結果を今後の施策提言への活用や、森林づくり・地域活性化に取り組む関係者の参考にしていただくことを目的としています。
つきましては、ご多忙中のところ誠に恐れ入りますが、アンケート調査へのご協力をお願い申し上げます。
- アンケート調査は林野庁から委託を受け、(公財)日本生態系協会が実施しています。
- 本アンケートは、貴団体の森林づくり・地域活性化のお取り組みの全体像を把握されている団体の代表者様、ご担当者様などにご記入をお願いいたします。
- お忙しいところ恐縮ですが、ご記入後、**平成 27 年 11 月 30 日 (月)**までに同封の返信用封筒にて、本アンケート用紙をご返送いただくようお願いいたします。
- Eメールでのご回答を希望される場合は、下記の(公財)日本生態系協会へご連絡をお願いします。ご希望の場合には、アンケート用紙の電子データ (Word ファイル) をお送りいたします。
- ご不明な点がございましたら、下記のお問い合わせ先までご連絡をお願いします。
- アンケート調査票は、本紙を含め 20 ページです。

<調査委託元>

林野庁

<お問い合わせ及び回答の送付先>

公益財団法人 日本生態系協会

住 所：〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-30-20 音羽ビル

電 話：03-5951-0244

Eメール：shinrin2015@ecosys.or.jp

担当：野口、亀田、松浦

問1 (団体情報) 貴団体について教えてください。

問1-1 団体の形態 ※該当の項目にチェックを入れてください (択一)

<input type="checkbox"/> ① 任意団体 (自治会やサークル、親睦会などの法人格のない団体)	<input type="checkbox"/> ③ NPO 法人	<input type="checkbox"/> ④ 森林組合
<input type="checkbox"/> ② 財団法人・社団法人	<input type="checkbox"/> ⑥ 学校・保育園・幼稚園	<input type="checkbox"/> ⑦ その他
<input type="checkbox"/> ⑤ 企業		

問1-2 団体の会員数

団体の会員数	約 () 名	※数字をご記入ください
--------	---------	-------------

※: 会員数について、法人会員は除いてご記入ください。

問1-3 会員の主な職種・属性について教えてください。多い順に3つまで数字を記入してください。

数字記入例: 1 = 1番多い、2 = 2番目に多い、3 = 3番目に多い
 同数の場合には同じ数字を記入してください。
 回答は3つ以下にしてください。必ず3つの選択肢を選ぶ必要はありません。
 3つを超える選択肢に数字を記入するのは、同じ順位が多数の場合に限ります。

下記の10の選択肢のうち3つまで、記入欄に数字を記入してください

<input type="checkbox"/>	① 森林所有者	<input type="checkbox"/>	② 林業従事者	<input type="checkbox"/>	③ 農業・漁業従事者
<input type="checkbox"/>	④ 会社員	<input type="checkbox"/>	⑤ 公務員・教職員	<input type="checkbox"/>	⑥ 自営業者
<input type="checkbox"/>	⑦ 退職者	<input type="checkbox"/>	⑧ 主婦	<input type="checkbox"/>	⑨ 児童・学生
<input type="checkbox"/>	⑩ その他 ※具体的にご記入ください ()				

問1-4 会員が保有する森林関連の資格 ※該当の項目にチェックを入れてください (いくつでも)

<input type="checkbox"/> ① 森林インストラクター	<input type="checkbox"/> ② 森林総合監理士(フォレスター)、准フォレスター
<input type="checkbox"/> ③ 技術士、技術士補	<input type="checkbox"/> ④ 林業技士
<input type="checkbox"/> ⑤ 森林情報士	<input type="checkbox"/> ⑥ 樹木医、樹木医補
<input type="checkbox"/> ⑦ 森林セラピーガイド、森林セラピスト	<input type="checkbox"/> ⑧ グリーンセイバー
<input type="checkbox"/> ⑨ ビオトープ管理士	
<input type="checkbox"/> ⑩ その他 ※具体的にご記入ください ()	

問 6 (交付金情報の入手方法) 本交付金をどのような形で知りましたか。

※該当の項目にチェックを入れてください (いくつでも)

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> ① 地域協議会・都道府県のホームページ | <input type="checkbox"/> ② 市区町村のホームページ |
| <input type="checkbox"/> ③ 林野庁のホームページ | |
| <input type="checkbox"/> ④ 民間のホームページ (Facebook 等の SNS、ネット上の掲示板への書き込み含む) | |
| <input type="checkbox"/> ⑤ Eメール、メーリングリスト | <input type="checkbox"/> ⑥ 都道府県・市区町村報などの公共の広報誌 |
| <input type="checkbox"/> ⑦ 民間の情報誌・雑誌 | <input type="checkbox"/> ⑧ 説明会 |
| <input type="checkbox"/> ⑨ テレビ・ラジオ(コミュニティ放送局含む) | <input type="checkbox"/> ⑩ 新聞 |
| <input type="checkbox"/> ⑪ ポスター・チラシ | <input type="checkbox"/> ⑫ 地域協議会等関連団体からの電話・口頭連絡 |
| <input type="checkbox"/> ⑬ 友人・知人からの紹介 (口コミ) | |
| <input type="checkbox"/> ⑭ その他 <u>※具体的にご記入ください</u> () | |

問 7 (交付金の申請時の課題) 本交付金の申請に当たり、以下に示す取り組みについて、苦勞の度合いについて教えてください。

※該当の項目にチェックを入れてください (横 1 行ごとに 1 つ選択してください)

<div style="text-align: center;">苦勞の度合い</div> <div style="text-align: center;">取り組みの内容</div>	A、非常に苦勞した	B、苦勞した	C、あまり苦勞はなかった	D、苦勞はなかった	E、該当の課題に関わる ことがなかった
① 活動組織の参加者を集めること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 活動組織運営のための事務・経理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 申請手続きのための書類の作成	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 対象となる活動場所の確保	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 対象となる森林の図測・測量	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 実際に作業を行うための資機材の選定・準備	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 実際の作業従事者の確保	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ その他 <u>※具体的にご記入ください</u> ()	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問 8 (重要視する内容) 貴団体が、本交付金を得て活動を行うに当たり、本交付金を得るのにふさわしい活動とするために、以下に示す目標のうち、貴団体が考える重要視する度合いについて教えてください。
 ※該当の項目にチェックを入れてください (横 1 行ごとに 1 つ選択してください)

重要視する度合い 活動の目標	A、とても重要であると考えている	B、重要であると考えている	C、あまり重要であるとは考えていない	D、全く重要でないと考えている
① 活動を行う上での安全を確保すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 森林管理のための技術の向上等人材を育成すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ より多くの回数の活動を行うこと	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 参加者の数を増やすこと	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ いろいろな立場の人が参加すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 森林から得られる経済的・物質的な利益を増やすこと	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 地域の活性化、地域の魅力発見・創出・向上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 地域住民間の交流の促進、コミュニティの活性化	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ 対象となる森林をより良い環境にすること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ 対象となる森林の面積を増やすこと	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪ 森林の機能によって地域の災害を防ぐこと	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

上記以外で特に重要と考えることがございましたら、教えてください (自由記述)

問 9～問 11 は平成 26 年度に本交付金を得て活動を実施した団体にご回答をお願いします。
平成 26 年度に本交付金を取得していない団体は 9 ページの問 12 へ移動してください。

問 9（地域協議会による支援）平成 26 年度に本交付金を得て活動を実施した団体にお伺いします。

平成 26 年度に地域協議会から得られた支援について、役立ち方の度合いについて教えてください。

※該当の項目にチェックを入れてください（横 1 行ごとに 1 つ選択してください）

<div style="text-align: center;">役立ち方の度合い</div> <div style="text-align: center;">支援の内容</div>	A、とても役に立った	B、役に立った	C、あまり役立たなかった	D、全く役立たなかった	E、該当の支援を得ていない 該当の支援は必要なかった
① 申請書作成のための助言	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 活動組織結成に関する助言（規約作成など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 作業・イベントへの参加者募集の広報	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 交付金の経理処理に関する助言	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 活動内容についての助言	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 活動場所の斡旋、森林所有者との協定の仲介	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 活動のための安全講習、安全性確保のための助言	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 資機材の貸与	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ 森林に関する必要な指導員の斡旋	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ 活動報告書などその年度終了時の提出書類作成のための助言	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

上記以外の地域協議会による支援のうち、特に役立ったものがあれば教えてください（自由記述）

問 10 (地域協議会による訪問の頻度) 平成 26 年度に本交付金を得て活動を実施した団体にお伺いします。
 地域協議会は平成 26 年度に、何回程度貴団体の活動場所に訪問していますか。
 ※該当の項目にチェックを入れてください (択一)

- ① 0 回 ② 1 回 ③ 2 回 ④ 3 回以上

問 11 (資機材・施設の購入) 平成 26 年度に本交付金を得て活動を実施した団体にお伺いします。
 本交付金を用いて資機材・施設を購入した場合、その購入品について教えてください。

問 11-1 品目 ※該当の項目にチェックを入れてください (いくつでも)

- ① チェーンソー ② 刈払い機 ③ 薪割り機 ④ チッパー
⑤ 補修資材 ⑥ あずまや・作業小屋 ⑦ けん引器具 ⑧ 運搬車
⑨ 苗木 ⑩ 電気柵・土留め柵 ⑪ 炭窯・炭焼き小屋
⑫ 薪ストーブ・ペレットストーブ
⑬ 森林整備に必要な装備・小物類 (ヘルメット、バイザー、作業着、ハシゴ、工具等)
⑭ その他 ※具体的にご記入ください ()

問 11-2 金額 (総額)

資機材・施設の購入に必要な金額	約 () 円	<u>※数字をご記入ください</u>
資機材・施設の購入に利用した本交付金の額	約 () 円	<u>※数字をご記入ください</u>

問 11-3 目的 ※該当の項目にチェックを入れてください (いくつでも)

- ① 森林・竹林整備作業の効率化のため ② 森林資源を利活用するため
③ 安全性の向上のため ④ 獣害・風水害・土砂災害の防止のため
⑤ 林業の推進のため
⑥ その他 ※具体的にご記入ください ()

問 12 (資機材貸与) 平成 27 年度より、地域協議会が活動のために必要な資機材を貸与できるようになりました。貴団体では、必要な資機材を地域協議会から貸与される仕組みを利用しましたか。
※該当の項目にチェックを入れてください (択一)

- ① 利用した (⇒問 13 にもご回答をお願いします)
- ② 今年度中の活動で利用する予定である (⇒問 13 にもご回答をお願いします)
- ③ 利用する必要がある (⇒次ページの間 14 へ移動してください)
- ④ 利用したい資機材が貸与の対象となっていない (⇒次ページの間 14 へ移動してください)
- ⑤ 利用したい資機材が希望者多数で借りることかできない
(⇒次ページの間 14 へ移動してください)
- ⑥ 該当の都道府県の地域協議会ではまだ資機材貸与の仕組みが利用できない
(⇒次ページの間 14 へ移動してください)

問 13 (資機材貸与) 問 12 において「①利用した」ないしは、「②今年度中の活動で利用する予定である」と回答した団体にお伺いします。

貴団体が地域協議会から貸与を受けて利用した、あるいは利用予定の資機材を教えてください。

※該当の項目にチェックを入れてください (いくつでも)

- ①チェーンソー ②刈払い機 ③薪割り機 ④チップパー
- ⑤けん引器具 ⑥運搬車 ⑦バックホウ (ショベルカー)
- ⑧携帯型 GPS 機器
- ⑨その他 ※具体的にご記入ください ()

問 14（資機材貸与）すべての団体にお伺いします。貴団体が今後活動を行うに当たり、地域協議会が貸与制度を実施した場合に貸与を希望する資機材について教えてください。

※該当する項目にチェックを入れてください（横 1 行ごとに 1 つ選択してください）

貸与の希望度合い 資機材	A、 貸与を強く希望する	B、 できれば貸与してほしい	C、 貸与は特に希望しない	D、 該当の資機材を利用する 見込みがないため、判断 できない
① チェーンソー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 刈払い機	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 薪割り機	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ チッパー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ けん引器具	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 運搬車	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ バックホウ（ショベルカー）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 携帯型 GPS 機器	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

その他、特に貸与を強く希望する資機材がございましたらご記入ください（自由記述）

問 15 (外部の協力者) 活動を実施する上で、別の団体や個人と協力を行っている場合、どのような団体、個人と協力しているのかを教えてください。

※協力している内容ごとにチェックをお願いします。

(いくつでも、地域協議会以外の協力団体についてご回答いただきますようお願いいたします)

協力相手 \ 協力内容	A、申請書の作成等の事務	B、森林等における作業	C、資金	D、その他 ※3
① 都道府県	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 市区町村	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 学識経験者 ※1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 森林組合等の林業関係団体	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 造園業者	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 企業	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 学校 (幼稚園・保育園含む)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ その他 ※2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※1、「③学識経験者」と協力している場合は、その学識経験者の専門学術分野を教えてください。

※2、「⑧その他」と協力している場合には、どのような団体、専門家などと協力しているのかを教えてください。(※地域協議会は除きます)

※3、協力している内容で「D、その他」と回答している場合には、可能な範囲で、協力相手ごとに具体的な内容を教えてください。多様な内容で協力している場合には、特に代表的な内容について教えてください。

問 16 (活動状況) 平成 26 年度に本交付金を得て活動を実施した団体にお伺いします。

(平成 26 年度に本交付金を取得していない団体は、次ページの間 18 へ移動してください。)

平成 26 年度における本交付金による活動の具体的な状況(活動・集団作業 1 回あたりの平均参加人数、活動実施回数、平均活動時間)を教えてください。

また、平成 25 年度にも本交付金を取得して活動を行っていた団体につきましては、平成 25 年度に比べ、平均の参加人数がどのように変化したのかも教えてください。該当項目にチェックを入れてください。

※実施しなかった活動タイプについては×印をつけてください。

※数字は整数(小数点以下四捨五入)でご記入をお願いします。

活動参加人数(単位:活動・集団作業 1 回あたりの平均人数) ※それぞれに数字をご記入ください

活動タイプ		平成 26 年度の 平均参加人数	平成 25 年度に比べての、 平成 26 年度の平均参加人数
地域環境保全	里山林保全活動	約 () 名	<input type="checkbox"/> 増えた <input type="checkbox"/> (おおむね) 変わらない <input type="checkbox"/> 減った
	侵入竹林除去・ 竹林整備活動	約 () 名	<input type="checkbox"/> 増えた <input type="checkbox"/> (おおむね) 変わらない <input type="checkbox"/> 減った
森林資源利用		約 () 名	<input type="checkbox"/> 増えた <input type="checkbox"/> (おおむね) 変わらない <input type="checkbox"/> 減った
森林空間利用	運営側	約 () 名	<input type="checkbox"/> 増えた <input type="checkbox"/> (おおむね) 変わらない <input type="checkbox"/> 減った
	イベント参加者	約 () 名	<input type="checkbox"/> 増えた <input type="checkbox"/> (おおむね) 変わらない <input type="checkbox"/> 減った

活動実施回数(単位:回)及び 1 回の平均活動時間(単位:時間) ※それぞれに数字をご記入ください

活動タイプ		平成 26 年度の 活動実施回数	平成 26 年度の 活動 1 回あたりの 平均活動時間※
地域環境保全	里山林保全活動	約 () 回	約 () 時間
	侵入竹林除去・竹林整備活動	約 () 回	約 () 時間
森林資源利用		約 () 回	約 () 時間
森林空間利用		約 () 回	約 () 時間

※平均活動時間については、下見などの事前準備や後処理は除いてご記入をお願いします。

問 17 (活動への参加状況) 平成 26 年度に本交付金を得て活動を実施した団体にお伺いします。

平成 25 年度と平成 26 年度における本交付金を得て実施した活動に対する、貴団体の会員の参加状況について、以下に示すうちで最も近いものを教えてください。

※年度ごとに一つ、該当の項目にチェックを入れてください。

※平成 25 年度に本交付金を取得していない場合には、平成 26 年度分のみご記入ください。

参加状況	年度	
	平成 25 年度	平成 26 年度
① 会員のほぼ全てが具体的作業を伴う活動に参加している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 会員の過半数が具体的作業を伴う活動に参加している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 具体的作業を伴う活動に参加するのは、会員の半数以下である	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 具体的作業を伴う活動に参加するのは、会員のごく一部に集中している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問 18 (広報活動) 貴団体が本交付金を得て活動を行うに当たり、参加者を増やすためにどのような広報を行っていますか。

※該当の項目にチェックを入れてください (いくつでも)

- ① 定期的な会報の発行
- ② 行政の広報誌等への記事掲載
- ③ 民間の広報誌、新聞等への記事掲載
- ④ 自治会・町内会等の回覧板
- ⑤ 活動組織のホームページ (Facebook、掲示板等含む)
- ⑥ 別団体 (地域協議会等) の運営するホームページへの掲載 (Facebook、掲示板等含む)
- ⑦ チラシ・ポスターの掲示
- ⑧ 会員による口コミ、口頭による連絡
- ⑨ その他 ※具体的にご記入ください ()
- ⑩ 特に広報は行っていない

問 19～問 21 は活動タイプごとにご回答をいただく内容となっています。

地域環境保全タイプの交付金を利用している ⇒ 問 19 にご回答ください。

森林資源利用タイプの交付金を利用している ⇒ 問 20 にご回答ください。

教育・研修活動タイプ (森林空間利用タイプ) の交付金を利用している ⇒ 問 21 にご回答ください。

問 19 (活動内容) 地域環境保全タイプの活動を実施している団体にお伺いします。

問 19-1 活動対象となった森林の面積を教えてください

平成 26 年度	() ヘクタール	<u>※数字をご記入ください</u>
平成 27 年度予定	() ヘクタール	<u>※数字をご記入ください</u>

※単位注 : 1 ヘクタール=10,000 m²=約 3,025 坪

問 19-2 具体的にどのような森をつくることを目指して活動を行っていますか。

※該当の項目にチェックを入れてください (いくつでも)

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> ① 広葉樹の人工林の維持・創出 | <input type="checkbox"/> ② 針葉樹の人工林の維持・創出 |
| <input type="checkbox"/> ③ 針広混交林の人工林の維持・創出 | <input type="checkbox"/> ④ 広葉樹の自然林・天然林の維持・保護 |
| <input type="checkbox"/> ⑤ 針葉樹の自然林・天然林の維持・保護 | <input type="checkbox"/> ⑥ 針広混交林の自然林・天然林の維持・保護 |
| <input type="checkbox"/> ⑦ 灌木・低木類の植栽・維持 | <input type="checkbox"/> ⑧ 適切な竹林管理 |
| <input type="checkbox"/> ⑨ その他 <u>※具体的にご記入ください</u> () | |

問 20 (活動内容) 森林資源利用タイプの活動を実施している団体にお伺いします。

利用している森林資源の種類と販売・供給 (配布) 先を教えてください。平成 27 年度に活動を実施予定の団体につきましては、利用を予定している森林資源の種類と販売・供給 (配布) 予定先を教えてください。

問 20-1 利用した森林資源の種類 ※該当の項目にチェックを入れてください (いくつでも)

- | | | | |
|------------------------------------|--|---------------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ① きのこと | <input type="checkbox"/> ② 山菜 | <input type="checkbox"/> ③ 薬草 | <input type="checkbox"/> ④ 樹実 |
| <input type="checkbox"/> ⑤ 竹材 | <input type="checkbox"/> ⑥ タケノコ | <input type="checkbox"/> ⑦ 薪・炭 | <input type="checkbox"/> ⑧ 落葉 |
| <input type="checkbox"/> ⑨ 樹皮・つる | <input type="checkbox"/> ⑩ 枝 (工作・生け花用) | <input type="checkbox"/> ⑪ 木材 (間伐材など) | <input type="checkbox"/> ⑫ 樹液・樹脂 |
| <input type="checkbox"/> ⑬ 木酢液・竹酢液 | <input type="checkbox"/> ⑭ その他 <u>※具体的にご記入ください</u> () | | |

問 20-2 森林資源の販売先 ※該当の項目にチェックを入れてください (いくつでも)

- | | | |
|--|---|--|
| <input type="checkbox"/> ① 直売所・産直所 | <input type="checkbox"/> ② 企業 (卸・問屋・市場など) | <input type="checkbox"/> ③ 農家 |
| <input type="checkbox"/> ④ ネット販売 | <input type="checkbox"/> ⑤ イベント等での販売 | <input type="checkbox"/> ⑥ 活動組織の事務所等での直接販売 |
| <input type="checkbox"/> ⑦ 無人販売所 | <input type="checkbox"/> ⑧ 自家用 | <input type="checkbox"/> ⑨ 活動組織外への無料配布 |
| <input type="checkbox"/> ⑩ その他 <u>※具体的にご記入ください</u> () | | |

問 21 (活動内容) 教育・研修活動タイプ(森林空間利用タイプ)の活動を実施している団体にお伺いします。

問 21-1 活動団体で実施した、あるいは実施予定の内容を教えてください

※該当の項目にチェックを入れてください(いくつでも)

- | | | |
|--|-------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> ① 環境・森林教育 | <input type="checkbox"/> ② 林業体験 | <input type="checkbox"/> ③ 森林を利用した生活体験 |
| <input type="checkbox"/> ④ 幼児・児童の自然体験 | <input type="checkbox"/> ⑤ 森林療法・森林浴 | <input type="checkbox"/> ⑥ 山菜・きのこ・タケノコ採り |
| <input type="checkbox"/> ⑦ 薪・炭作り体験 | <input type="checkbox"/> ⑧ 森林施業の研修 | <input type="checkbox"/> ⑨ 機材利用に関する安全講習 |
| <input type="checkbox"/> ⑩ 生きもの観察・モニタリング | | |
| <input type="checkbox"/> ⑪ その他 <u>※具体的にご記入ください</u> () | | |

問 21-2 平成 26 年度にイベントを実施した団体にお伺いします。

イベント参加者の主な形態を教えてください

※該当の項目にチェックを入れてください(いくつでも)

- | | | |
|--|---|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ① 親子 | <input type="checkbox"/> ② 高齢者グループ | <input type="checkbox"/> ③ 幼稚園児・保育園児 |
| <input type="checkbox"/> ④ 小・中学生 | <input type="checkbox"/> ⑤ 高校生・大学生・大学院生・専門学校生 | |
| <input type="checkbox"/> ⑥ 社会人 | <input type="checkbox"/> ⑦ 活動場所の近隣住民 | |
| <input type="checkbox"/> ⑧ その他 <u>※具体的にご記入ください</u> () | | |

問 22～問 25 は平成 26 年度に本交付金を得て活動を実施した団体にご回答をお願いします。
平成 26 年度に本交付金を取得していない団体は 18 ページの問 26 へ移動してください。

問 22 (地域住民の参加状況) 平成 26 年度に本交付金を得て活動を実施した団体にお伺いします。

交付金を得て実施した活動への地域住民の参加状況を教えてください。

※該当する項目にチェックを入れてください(横 1 行ごとに 1 つ選択してください)

ここでいう地域住民とは、活動場所と同じ市区町村程度と考えてください。
活動場所が複数の市区町村にまたがる場合は該当の市区町村全てを対象とするものとします。
また、活動場所が市区町村境近くの場合には活動場所に近い側に隣接する市区町村も含みます。

(問 22 の回答欄は次ページです)

地域住民の比率 活動タイプ		① 地域住民が非常に多い	② 地域住民がやや多い	③ 地域住民と外部住民が半々程度	④ 地域住民が外部住民よりやや少ない	⑤ 地域住民が非常に少ない	⑥ 該当のタイプの活動を行っていない
地域環境保全	里山林保全活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	侵入竹林除去・竹林整備活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
森林資源利用		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
教育・研修活動（森林空間利用）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問 23(地域住民の参加状況) 平成 26 年度に本交付金を得て活動を実施した団体にお伺いします。

平成 25 年度と比べて、平成 26 年度の地域住民の参加数はどうに変化したのかを教えてください。

平成 25 年度と平成 26 年度のいずれか、ないしは両方で活動を行っていない場合は「④ 該当の活動を行っていない」を選択してください。

※該当する項目にチェックを入れてください（横 1 行ごとに 1 つ選択してください）

H25 年度比での H26 年度の 地域住民の参加者 活動タイプ		① 増えた	② 変わらない	③ 減った	④ 該当のタイプの活動 を行っていない
地域環境保全	里山林保全活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	侵入竹林除去・竹林整備活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
森林資源利用		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
教育・研修活動（森林空間利用）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問 24 (地域住民の参加見込み) 平成 26 年度に本交付金を得て活動を実施した団体にお伺いします。

平成 26 年度と比べて、平成 27 年度の地域住民の参加数がどのように変化するかの見込みを教えてください。

平成 26 年度に活動を行っていない場合、あるいは平成 27 年度に活動を行う予定がない場合には「⑤ 該当の活動を行っていない」を選択してください。

※該当する項目にチェックを入れてください (横 1 行ごとに 1 つ選択してください)

活動タイプ		H26 年度比での H27 年度の 地域住民参加見込み		① 増える	② 変わらない	③ 減る	④ わからない	⑤ 該当のタイプの活動 を行っていない
地域環境保全	里山林保全活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	侵入竹林除去・竹林整備活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
森林資源利用		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
教育・研修活動 (森林空間利用)		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問 25 (活動の目標達成状況) 平成 26 年度に本交付金を得て活動を実施した団体にお伺いします。

平成 26 年度の活動は、申請段階での活動計画通りに活動を進めることができているかを教えてください。

※該当の項目にチェックを入れてください (択一)

- ① 計画以上に活動を進めることができている
- ② ほぼ計画通りに活動を進めることができている
- ③ 計画に比べ、若干の遅れが生じているが、交付金終了までには取り戻すことができる見込みがある
- ④ 計画通りに進めることができている
- ⑤ 進捗状況がわからない

問 26 (交付金対象外の活動状況) 本交付金の対象となっている以外で、貴団体が活動を行っていることがありましたら教えてください。

※該当の項目にチェックを入れてください (いくつでも)

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> ① 地球温暖化防止活動 | <input type="checkbox"/> ② 生物多様性保全活動 (外来種駆除など) |
| <input type="checkbox"/> ③ 環境教育・森林教育 | <input type="checkbox"/> ④ 森づくり (里山管理)・植林 |
| <input type="checkbox"/> ⑤ レクリエーション活動 (ハイキング等) | <input type="checkbox"/> ⑥ 森林セラピー |
| <input type="checkbox"/> ⑦ バイオマス資源利用 | <input type="checkbox"/> ⑧ ゴミ回収 |
| <input type="checkbox"/> ⑨ 地域特産品製造・開発 | <input type="checkbox"/> ⑩ 狩猟・罟猟 |
| <input type="checkbox"/> ⑪ 地域の景観づくり活動 | |
| <input type="checkbox"/> ⑫ その他 <u>※具体的にご記入ください</u> () | |
| <input type="checkbox"/> ⑬ 本交付金の対象となる活動以外は行っていない | |

問 27 (将来的に重視すること) 本交付金が終了後に活動を続けていく上で、以下に示す項目について、貴団体がどのように重視しているのかを教えてください。

※該当する項目にチェックを入れてください (横 1 行ごとに 1 つ選択してください)

どれくらい重視しているか 取り組み	A、非常に重視している	B、ある程度重視している	C、どちらともいえない	D、あまり重視していない	E、まったく重視していない、特に考えていない
① 活動を行う上での安全性の確保	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 新規に活動参加者を増やすこと	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 活動を実施する上での新たな財源の確保	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 関連する人や団体間の連携・協力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 森林・林業の理解を広げるための情報発信	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 地域の活性化	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問 28 (将来の資金調達手段) 本交付金が終了後、貴団体が活動が続けていく上で、どのような資金調達方法を
考えているのかを教えてください。

※該当の項目にチェックを入れてください (いくつでも)

- ① 国からの別の補助金・交付金
- ② 都道府県による補助金・交付金
- ③ 市区町村による補助金・交付金
- ④ 企業等の民間団体からの支援
- ⑤ 会員からの会費・寄付金
- ⑥ 森林から得られる木材資源 (チップ、薪、炭など) の売却益
- ⑦ 森林から得られる非木材資源 (キノコ、果実、樹液など) の売却益
- ⑧ その他 ※具体的にご記入ください ()
- ⑨ 特に考えていない

問 29 (活動を行う上での課題点) 貴団体が本交付金を得て活動を行う上で、特に苦労したことについて教えて
ください。

また、その苦労した問題について、どのように解決をしたのか、あるいは解決ができなかったとすれ
ばどのような理由によるものかを教えてください。

苦労したこと (自由記述)

苦労したことは (解決した ・ 解決のため対応中 ・ 解決できなかった)

※該当の選択肢にチェックを入れてください。

「苦労したこと」をどのように解決したのか、あるいは解決が困難である理由を教えてください
(自由記述)

問 30 (今後の交付金について) 平成 29 年度以降の本交付金について、シナリオ A とシナリオ B の 2 つのシナリオがあると仮定した場合、貴団体はどちらのシナリオが望ましいと思うかについて教えてください。提示されている 2 つのシナリオに比べて現在の交付金の仕組みが望ましいと考える場合には、「③どちらともいえない」にご回答ください。

なお、国の予算額は現在と同額と仮定した上で、ご回答ください。

※該当する項目にチェックを入れてください (横 1 行ごとに 1 つ選択してください)

シナリオ A	① シナリオ A が良い	② どちらかといえば シナリオ A が良い	③ どちらともいえない	④ どちらかといえば シナリオ B が良い	⑤ シナリオ B が良い	シナリオ B
1ha あたりの交付金の金額を減らす代わりに、より多くの面積を交付金の対象とする。 ・ 交付金単価：減らす ・ 交付金対象面積：増やす	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1ha あたりの交付金額を増やす代わりに、交付金を得られる交付金全体での面積を減らす。 ・ 交付金単価：増やす ・ 交付金対象面積：減らす
交付金の上限額を減らす代わりに、支援のための条件を緩くして多くの団体が参加できるようにする。 ・ 交付金上限額：減らす ・ 支援条件：緩くする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	交付金の上限額を増やす代わりに、取り組みの内容の質を上げるために支援の条件を厳しくする。 ・ 交付金上限額：増やす ・ 支援条件：厳しくする

問 31 (本対策事業全般への意見) 本交付金事業全般、あるいは地域協議会に対する意見や要望がございましたら教えてください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました

回収数 1,155 (回収率: 63.4%)

問 1 (団体情報)

貴団体について教えてください。(n=1,155)

問 1-1 団体の形態 (n=1,155)

	回答数
① 任意団体	858
② 財団法人・社団法人	17
③ NPO 法人	136
④ 森林組合	54
⑤ 企業	15
⑥ 学校・保育園・幼稚園	9
⑦ その他	40

問 1-2 団体の会員数 (n=1,155)

回答数	1,114
総数	166,614
平均値	149.6

問 1-3 会員の主な職種・属性について教えてください。(n=1,155)

	回答数	ポイント数	1 位	2 位	3 位
① 森林所有者	460	1091	259	113	88
② 林業従事者	177	376	68	63	46
③ 農業・漁業従事者	445	960	166	183	96
④ 会社員	533	1105	188	196	149
⑤ 公務員・教職員	144	269	35	55	54
⑥ 自営業者	287	541	76	102	109
⑦ 退職者	640	1527	365	157	118
⑧ 主婦	199	341	20	102	77
⑨ 児童・学生	32	68	16	4	12
⑩ その他	86	214	57	14	15

【主なその他への回答】

住民・・・14

団体職員・・・8

自治会・町内会・・・7

NPO、建設業・・・各 3

※この他、薪ストーブユーザー、地域おこし協力隊など、多様な回答が見られた。

問 1-4 会員が保有する森林関連の資格 (n=1, 155)

資格	回答数
① 森林インストラクター	192
② 森林総合監理士(フォレスター)、准フォレスター	27
③ 技術士、技術士補	81
④ 林業技士	159
⑤ 森林情報士	8
⑥ 樹木医、樹木医補	50
⑦ 森林セラピーガイド、森林セラピスト	38
⑧ グリーンセイバー	13
⑨ ビオトープ管理士	20
⑩ その他	249

【主なその他への回答】

チェーンソー・刈払機取扱い免許・取扱講習受講等の機械取扱い関連・・・26

林業系の地域資格・・・29

森林・環境関連の地域資格・・・23

自然観察指導員・・・20

森林施業プランナー・・・12

労働安全衛生特別教育等修了（伐木等）・・・11

博士・大学教員・・・5

CONE 指導者・・・5

環境カウンセラー・・・4

他

※林業系の地域資格、森林・環境関連の地域資格については、地方自治体等で認定している資格のこと。資格名とその内容及び認定団体をインターネットにて検索して確認した。

※地域の関連資格のうち、長野県の「まつたけ山管理士」については、林業施行の要素も持つが、「森林・環境関連の地域資格」として算定した。

※その他の資格としては「こども環境管理士」「地域カーボンカウンセラー」「防災士」「測量士」「建築士」等も挙げられている。

問 2-1 森林所有者 (n=1, 155)

所有形態	回答数
① 民有林 (個人所有)	825
② 学校林	32
③ 企業林	34
④ 共有林 (地域コミュニティ所有)	195
⑤ 公有林 (市区町村林、都道府県林)	256
⑥ 国有林	49
⑦ その他	43

問 2-2 活動対象となる主な森林の活動開始前の形態 (n=1, 155)

	回答数
① 天然林	464
② 人工林	535
③ 伐採跡地	71
④ 竹林	325
⑤ その他	57

※設問上は択一回答であるが、複数回答分も反映した。

問 2-3 活動対象となる森林の活動開始前の主な樹種等 (n=1, 155)

	回答数
① 針葉樹	398
② 落葉広葉樹	398
③ 常緑広葉樹	112
④ 針広混交林	257
⑤ 灌木類	40
⑥ 竹林	323
⑦ 草地	43
⑧ 裸地・荒地	34
⑨ その他	12

※設問上は択一回答だが、複数回答分も反映した。

問 2-4 活動対象となる場所で交付金申請以前から活動を行っていたか (n=1, 155)

① 従来から活動を行っていた	610
② 交付金申請と共に活動を始めた、あるいは活動予定である	518

問 2-5 活動対象となった森林は申請前にどんな状態だったか (n=1,155)

状態	回答数
① 手入れが行われず、荒れた状態	589
② 多少の手入れが行われていた	395
③ 適切な手入れが行われていた	50
④ 森林ではない状態であった	15
⑤ その他	26
⑥ 不明・わからない	2

【主なその他への回答】

耕作放棄地・牧地・・・5

病虫害被害の跡地・・・3

問3（交付金取得状況）

本交付金の支給を受けた活動タイプを教えてください。（n=1,155）

年度	活動タイプ		回答数
平成 26 年度	地域環境保全	里山林保全活動	737
		侵入竹林除去・竹林整備活動	387
	森林資源利用		269
	森林機能強化		-
	教育・研修活動（森林空間利用）		514
	機材及び資材の購入・設置		381
平成 27 年度	地域環境保全	里山林保全活動	795
		侵入竹林除去・竹林整備活動	403
	森林資源利用		304
	森林機能強化		97
	教育・研修活動（森林空間利用）		512
	機材及び資材の購入・設置		320

このうち、年度別の取得団体数

平成 26 年度	1,041
平成 27 年度	1,124
無回答	7

取得団体の内訳

26 年度、27 年度ともに取得	1,017
26 年度のみ取得	24
27 年度のみ取得	107

活動タイプ別の取得数（平成 26 年度、平成 27 年度のいずれかあるいは双方で取得）

地域環境保全タイプ（全体）	985
地域環境保全タイプ（里山林保全）	841
地域環境保全タイプ（竹林整備）	450
森林資源利用タイプ	336
森林機能強化タイプ	97
教育・研修活動タイプ	582
機材購入	468

なお、無回答の7団体については、問22から問24により以下の活動タイプの交付金を取得していると考えられる。(重複あり)

地域環境保全タイプ(里山林保全)	5
地域環境保全タイプ(竹林整備)	2
森林資源利用タイプ	6
教育・研修活動タイプ	4

問4(交付金取得の目的)

本交付金を活用しようとした理由を教えてください。(n=1,155)

理由	回答数
① 里山林の荒廃の改善	955
② 地域景観の改善	633
③ 里山の未利用資源活用・特産品開発	345
④ 地域住民のつながりの再生	476
⑤ 外部との交流促進	208
⑥ 市区町村等の地域づくりとの連携	222
⑦ 団体の活動資金確保	360
⑧ 活動を充実させるための資機材の確保	363
⑨ その他	98

【主なその他への回答】

子どもの自然体験・教育活動関連・・・27

鳥獣害被害対策・・・19

地域活性化関連・・・5

林業技術の向上・・・3

地域の貴重な動植物の保護・・・3

問5（資金捻出方法）

本交付金以外で、活動を行うための資金捻出方法を教えてください。(n=1,155)

捻出方法	回答数
① 会員等からの会費	541
② 個人からの寄付金	224
③ 企業からの寄付金	110
④ 緑の募金・緑と水の森林ファンド	59
⑤ 国からの交付金・助成金（※森林・山村多面的機能発揮対策交付金は除く）	53
⑥ 都道府県からの交付金・助成金	135
⑦ 市区町村からの交付金・助成金	169
⑧ イベントの参加費	167
⑨ 生産物（薪、炭、山菜など）の販売収益	159
⑩ 他の収益事業部門からの収益	89
⑪ その他	126
⑫ 本交付金以外の資金源はない	254

【主なその他への回答】

自治会・町内会・部落会からの補助・・・26

間伐材やキノコ、炭素排出権販売等の自主事業・・・19

自治体や学校等からの委託事業・・・12

個人負担・・・8

その他、他団体からの支援・・・20

問 6 (交付金情報の入手方法)

本交付金をどのような形で知りましたか。(n=1,155)

	日本全国
① 地域協議会・都道府県のホームページ	256
② 市区町村のホームページ	53
③ 林野庁のホームページ	135
④ 民間のホームページ (Facebook 等の SNS、ネット上の掲示板への書き込み含む)	9
⑤ Eメール、メーリングリスト	18
⑥ 都道府県・市区町村報などの公共の広報誌	236
⑦ 民間の情報誌・雑誌	16
⑧ 説明会	269
⑨ テレビ・ラジオ(コミュニティ放送局含む)	3
⑩ 新聞	11
⑪ ポスター・チラシ	12
⑫ 地域協議会等関連団体からの電話・口頭連絡	242
⑬ 友人・知人からの紹介 (口コミ)	263
⑭ その他	161

※対象団体は平成 26 年度と平成 27 年度のいずれかまたは双方で本交付金を取得した団体。

【主なその他への回答】

地方公共団体から連絡・・・111

森林組合・・・9

林野庁、森林管理署の説明会、案内・・・7

問7（交付金の申請時の課題）

本交付金の申請に当たり、以下に示す取り組みについて、苦勞の度合いについて教えてください。

(n=1,155)

	A、非常に苦勞した	B、苦勞した	C、あまり苦勞はなかった	D、苦勞はなかった	E、該当の課題に関わることがなかった
① 活動組織の参加者を集めること	39	226	501	317	53
② 活動組織運営のための事務・経理	221	574	284	60	4
③ 申請手続きのための書類の作成	269	556	266	46	3
④ 対象となる活動場所の確保	18	125	468	470	53
⑤ 対象となる森林の図測・測量	94	293	474	191	87
⑥ 実際に作業を行うための資機材の選定・準備	32	212	565	249	73
⑦ 実際の作業従事者の確保	68	310	494	231	33
⑧ その他	65	39	17	4	29

【主なその他への回答】

※「非常に苦勞した」あるいは「苦勞した」と回答があった内容のみ記す。

個別の作業に関する事・・・16

資金不足・・・11

参加者の確保・・・11

交付金が支給されるまでの資金確保・・・5

天候不良時の対応・・・5

問 8 (重要視する内容)

貴団体が、本交付金を得て活動を行うに当たり、本交付金を得るのにふさわしい活動とするために、以下に示す目標のうち、貴団体が考える重要視する度合いについて教えてください。(n=1,155)

	A、とても重要であると考えている	B、重要であると考えている	C、あまり重要であるとは考えていない	D、全く重要でないと考えている
① 活動を行う上での安全を確保すること	902	215	11	0
② 森林管理のための技術の向上等人材を育成すること	278	646	185	15
③ より多くの回数の活動を行うこと	103	590	413	13
④ 参加者の数を増やすこと	173	596	335	16
⑤ いろいろな立場の人が参加すること	199	564	318	39
⑥ 森林から得られる経済的・物質的な利益を増やすこと	207	376	432	108
⑦ 地域の活性化、地域の魅力発見・創出・向上	421	598	97	8
⑧ 地域住民間の交流の促進、コミュニティの活性化	347	635	123	16
⑨ 対象となる森林をより良い環境にすること	578	530	19	2
⑩ 対象となる森林の面積を増やすこと	95	412	523	93
⑪ 森林の機能によって地域の災害を防ぐこと	372	533	188	26

【主なその他への回答の内訳】

上記以外の内容で特に重要と考えることについて、自由記述式で記入欄を設けたところ、151 件の回答が得られた。

その主な内容は以下のとおりである。

- 森林に関する関心の拡大・・・23
- 環境教育・子どもの自然体験の場づくり・・・21
- 森林の機能の向上・・・11
- 活動の自立性・継続性の確保・・・9
- 獣害被害対策・・・9

問9（地域協議会による支援）

平成26年度に本交付金を得て活動を実施した団体にお伺いします。

平成26年度に地域協議会から得られた支援について、役立ち方の度合いについて教えてください。
(n=1,041)

	A、 とても役に 立った	B、 役に立 った	C、 あまり役 立たな かった	D、 全く役 立たな かった	E、 該 当の 支 援 は 必 要 な か っ た
① 申請書作成のための助言	333	554	50	6	69
② 活動組織結成に関する助言（規約作成など）	199	491	72	11	234
③ 作業・イベントへの参加者募集の広報	37	225	228	34	470
④ 交付金の経理処理に関する助言	251	610	58	17	72
⑤ 活動内容についての助言	161	559	94	20	174
⑥ 活動場所の斡旋、森林所有者との協定の仲介	31	161	148	42	618
⑦ 活動のための安全講習、安全性確保のための助言	121	408	112	28	340
⑧ 資機材の貸与	48	136	102	46	661
⑨ 森林に関する必要な指導員の斡旋	33	142	115	43	663
⑩ 活動報告書などその年度終了時の提出書類作成のための助言	328	556	54	13	59

【主なその他への回答の内訳】

上記以外の内容で特に重要と考えることについて、自由記述式で記入欄を設けたところ、62件の回答が得られた。

ただし、地域協議会への感謝や批判など支援内容とは異なる書き込みが複数見られた。

地域協議会が何かわからない旨の書き込みも数件寄せられていた。（「地域協議会は設立されていない」「地域協議会とは、地方自治体の担当者のことですか？」など）

具体的な支援については主には以下の内容が挙げられる。

他活動組織の取組みについての情報提供、報告会、交流会・・・8

情報提供・・・5

伐採作業等の技術に関する現地講習会・・・3

問 10（地域協議会による訪問の頻度）

平成 26 年度に本交付金を得て活動を実施した団体にお伺いします。

地域協議会は平成 26 年度に、何回程度貴団体の活動場所に訪問していますか。(n=1, 041)

	日本全国
① 0 回	181
② 1 回	400
③ 2 回	268
④ 3 回以上	162

問 11 (資機材・施設の購入)

平成 26 年度に本交付金を得て活動を実施した団体にお伺いします。

本交付金を用いて資機材・施設を購入した場合、その購入品について教えてください。

問 11-1 品目 ※該当の項目にチェックを入れてください (いくつでも)

物品	回答数
① チェーンソー	340
② 刈払い機	282
③ 薪割り機	88
④ チッパー	39
⑤ 補修資材	49
⑥ あずまや・作業小屋	45
⑦ けん引器具	38
⑧ 運搬車	19
⑨ 苗木	74
⑩ 電気柵・土留め柵	15
⑪ 炭窯・炭焼き小屋	32
⑫ 薪ストーブ・ペレットストーブ	25
⑬ 森林整備に必要な装備・小物類 (ヘルメット、バイザー、作業着、ハシゴ、工具等)	304
⑭ その他	167

【主なその他の内訳】

ノコギリ (丸鋸含む) . . . 27

チェーンソー、刈払い機等の替刃 . . . 22

物置・収納庫 . . . 17

鹿ネット等の獣害対策用器具 . . . 14

燃料・ガソリン . . . 10

ナタ . . . 9

鎌 . . . 8

トイレ . . . 6

GPS . . . 6

小屋・東屋 . . . 5

チルホール . . . 4

救急セット・応急薬品 . . . 3

※ヘルメット等の別選択肢に該当する回答についてはその他の内訳からは除外した。

問 11-2 金額（総額、単位：万円）

	回答数	総数(単位:万円)	平均値(単位:万円)
必要	627	30,481.6	48.6
利用	643	17,058.1	26.0

※単位は万円

問 11-3 目的（いくつでも）

目的	回答数
① 森林・竹林整備作業の効率化のため	537
② 森林資源を利活用するため	297
③ 安全性の向上のため	249
④ 獣害・風水害・土砂災害の防止のため	102
⑤ 林業の推進のため	127
⑥ その他	79

【主なその他回答の内訳】

教育活動への利用・・・10

資源利用に関する事（薪の品質管理、炭を雨に濡れないようにするなど）・・・8

生物多様性の保護・・・3

境界の確認・・・3

作業環境の改善（雨天の避難小屋等）・・・2

作業負荷の軽減・・・2

※そのほか、景観づくりや地域活性化のためとの回答も複数寄せられていた。

問 12 (資機材貸与)

平成 27 年度より、地域協議会が活動のために必要な資機材を貸与できることになりました。貴団体では、必要な資機材を地域協議会から貸与される仕組みを利用しましたか。(択一) (n=1,155)

利用状況	回答数
① 利用した	28
② 今年度中の活動で利用する予定である	34
③ 利用する必要がない	642
④ 利用したい資機材が貸与の対象となっていない	40
⑤ 利用したい資機材が希望者多数で借りることかできない	7
⑥ 該当の都道府県の地域協議会ではまだ資機材貸与の仕組みが利用できない	212

問 13 (資機材貸与)

問 12 において「①利用した」ないしは、「②今年度中の活動で利用する予定である」と回答した団体にお伺いします。貴団体が地域協議会から貸与を受けて利用した、あるいは利用予定の資機材を教えてください。(いくつでも) (n=62+2)

	合計	利用した	利用予定	不明
①チェーンソー	24	10	9	5
②刈払い機	16	9	3	4
③薪割り機	5	0	1	4
④チップパー	20	4	9	7
⑤けん引器具	9	1	6	2
⑥運搬車	13	5	4	4
⑦バックホウ (ショベルカー)	12	1	7	4
⑧携帯型 GPS 機器	7	3	3	1
⑨その他	4	3	1	0

※不明は問 12 に無回答ないしは、問 12 の①と②双方に回答した団体のもの

※「+2」は問 12 が択一回答であるにもかかわらず複数回答し、その中に問 12 の①ないしは②が含まれるもの。

【その他回答内訳】

ヘルメット、ユニック付きトラック(2t)

測量器、ポール

竹粉碎機

ウッドチップパー

問 14（資機材貸与）すべての団体にお伺いします。貴団体が今後活動を行うに当たり、地域協議会が貸与制度を実施した場合に貸与を希望する資機材について教えてください。（横 1 行ごとに 1 つ選択してください）（n=1,155）

	A、貸与を強く希望する	B、できれば貸与してほしい	C、貸与は特に希望しない	D、該当の資機材を利用する見込みがないため、判断できない
① チェーンソー	58	120	688	74
② 刈払い機	48	103	708	76
③ 薪割り機	74	166	482	201
④ チッパー	160	218	379	209
⑤ けん引器具	68	169	469	208
⑥ 運搬車	136	222	411	179
⑦ バックホウ（ショベルカー）	144	182	404	229
⑧ 携帯型 GPS 機器	81	166	431	226

【主なその他回答の内訳】

その他、特に貸与を希望する資機材について自由記述欄を設けたところ 108 件の回答が得られた。

選択肢対象外の回答では主なものとして以下の回答が得られている。

- トラック（ダンプ含む）・・・12
- 林内作業車・高所作業車・・・4
- 製材機・・・4
- グラップル・・・3
- ドローン・・・3

選択肢の中にある項目についても、複数回答が寄せられている。ただし、選択肢式の質問とは別に、特別に自由記述欄を設けて尋ねた結果であるため、上記の選択肢式の回答との統合は行わない。また、上記の選択肢式の質問と重複して回答する例も見られた。

- チッパー・・・15
- けん引器具に属するもの（軽架線、ウィンチ等）・・・5
- バックホウ・・・3

問 15 (外部の協力者) 活動を実施する上で、別の団体や個人と協力を行っている場合、どのような団体、個人と協力しているのかを教えてください。

※協力している内容ごとにチェックをお願いします。

(いくつでも。地域協議会以外の協力団体についてご回答いただきますようお願いいたします)
(n=1, 155)

	A、申請書の作成等の事務	B、森林等における作業	C、資金	D、その他	合計
①都道府県	218	59	52	32	361
②市区町村	263	88	77	64	492
③学識経験者	9	64	4	71	148
④森林組合等の林業関係団体	85	252	20	39	396
⑤造園業者	4	68	4	18	94
⑥企業	7	65	49	18	139
⑦学校 (幼稚園・保育園含む)	4	72	6	72	154
⑧その他	21	113	24	97	255

【主なその他回答の内訳】

◇学識経験者の専門分野の内訳

植物や植生が 29 件、林業・林学に関するものが 10 件あった。ただし、生物や生物学、生物多様性、自然、との回答のほかに、森林・環境共生、森林環境、森林生態、森林総合科学といった回答もあり、厳密に、植物の専門家が 21 件分しかなかったことを意味するものではない。

個別の内容としては、キノコが 4 件、昆虫が 5 件あった。

この他、環境教育が 3 件、経済学 (環境経済学等) が 3 件であった。

◇⑧その他についての自由記述欄内訳

NPO・ボランティア等の関連市民団体、公益法人・・・108

専門知識や経験を持つ個人・・・45

自治会・町内会等・・・18

地元住民・山林所有者・・・13

森林組合・営農組合・・・12

学校 (大学含む)・・・10

子ども会、児童館、少年野球団等の子ども関連団体・・・10

企業・業者・・・9

◇D、その他についての自由記述欄内訳

各主体別に主な内容を示す。

都道府県：技術指導に関するものが 5 件、イベント参加や広報に関するものが 4 件、情報提供に関するもの 3 件、提案や助言に関するものが 3 件となっている。森林施業図の閲覧も 2 件見られた。

市区町村：活動場所の提供に関するものが 11 件、イベントへの協力が 8 件あった。そのほか、広報に関するものが 6 件、資機材貸与に関するものが 4 件あった。資機材の具体例としては、チップパー、軍手等の消耗品、ノコギリが挙げられている。

学識経験者：活動への助言に関するものが 12 件、講師としての対応が 12 件、調査への参加が 7 件あった。ただし、イベント名のみ挙げられているケースもあり、講師としての対応が 12 件以外にも存在している可能性がある。

林業関係団体：安全講習 4 件、測量 3 件、講師 3 件、助言 3 件となっている。この他資機材の貸与（1 件、グラップル付きトラックの手配）や会計事務作業（1 件）の回答もあった。

造園業者：活動への指導に関するものが 5 件あった。また、講習会対応が 1 件あった。

企業：参加者集めや資金提供、資機材貸与についての回答があった。

学校：イベントや自然体験、環境教育等への参加者としての位置づけの回答が 40 件あった。

その他：非常に多様であり、団体ごとに内容が異なる。主な内容として、イベント参加・協力や情報交換、作業に関する助言・指導、資機材の貸与が挙げられる。

問 16 (活動状況)

平成 26 年度に本交付金を得て活動を実施した団体にお伺いします。

(平成 26 年度に本交付金を取得していない団体は、次ページの問 18 へ移動してください。)

平成 26 年度における本交付金による活動の具体的な状況(活動・集団作業 1 回あたりの平均参加人数、活動実施回数、平均活動時間)を教えてください。また、平成 25 年度にも本交付金を取得して活動を行っていた団体につきましては、平成 25 年度に比べ、平均の参加人数がどのように変化したのかも教えてください。該当項目にチェックを入れてください。(n=1,041)

平成 26 年度の活動の平均参加人数

活動タイプ		回答数	中央値	平均値	上下 20% を除いた 平均値	上下 10% を除いた 平均値
地域環境保全	里山林保全活動	717	9	20.46	9.40	11.15
	侵入竹林除去・竹林整備活動	361	7	18.82	7.73	8.88
森林資源利用		262	6	18.58	6.60	7.45
森林空間利用	運営側	435	6	10.43	6.97	7.55
	イベント参加者	479	21	42.31	24.97	28.35

平成 25 年度と比べての平成 26 年度の参加者の増減

活動タイプ		増えた	変わらない	減った
地域環境保全	里山林保全活動	102	361	30
	侵入竹林除去・竹林整備活動	48	173	17
森林資源利用		37	137	8
森林空間利用	運営側	53	203	5
	イベント参加者	111	167	17

平成 26 年度の活動の活動実施回数

活動タイプ		回答数	中央値	平均値	上下 20% を除いた 平均値)	上下 10% を除いた 平均値
地域環境保全	里山林保全活動	698	10	698	11.12	12.94
	侵入竹林除去・竹林整備活動	347	9	347	10.44	12.47
森林資源利用		246	9	246	10.65	12.60
森林空間利用		470	4	470	4.21	4.68

平成 26 年度の活動の活動時間

活動タイプ		回答数	中央値	平均値	上下 20%を 除いた平均 値)	上下 10%を 除いた平均 値
地域環境保全	里山林保全活動	693	6	8.62	5.51	5.54
	侵入竹林除去・竹林整備活動	346	6	8.94	5.76	5.78
森林資源利用		246	6	10.58	5.92	5.94
森林空間利用		464	4.15	5.51	4.58	4.61

※平均参加人数、活動実施回数、活動時間については、一部回答の中に、現実性が疑われる内容のものが含まれていたため、上下 10%あるいは 20%を除外した平均値も算出した。

問 17 (活動への参加状況)

平成 26 年度に本交付金を得て活動を実施した団体にお伺いします。

平成 25 年度と平成 26 年度における本交付金を得て実施した活動に対する、貴団体の会員の参加状況について、以下に示すうちで最も近いものを教えてください。

※年度ごとに一つ、該当の項目にチェックを入れてください。

※平成 25 年度に本交付金を取得していない場合には、平成 26 年度分のみご記入ください。

(n=1,041)

(全体)

	平成 25 年度	平成 26 年度
① 会員のほぼ全てが具体的作業を伴う活動に参加している	156	251
② 会員の過半数が具体的作業を伴う活動に参加している	149	285
③ 具体的作業を伴う活動に参加するのは、会員の半数以下である	145	230
④ 具体的作業を伴う活動に参加するのは、会員のごく一部に集中している	123	186

問 18 (広報活動)

貴団体が本交付金を得て活動を行うに当たり、参加者を増やすためにどのような広報を行っていますか。(いくつでも) (n=1,155)

広報の方法	団体数
① 定期的な会報の発行	134
② 行政の広報誌等への記事掲載	121
③ 民間の広報誌、新聞等への記事掲載	104
④ 自治会・町内会等の回覧板	174
⑤ 活動組織のホームページ (Facebook、掲示板等含む)	233
⑥ 別団体 (地域協議会等) の運営するホームページへの掲載 (Facebook、掲示板等含む)	69
⑦ チラシ・ポスターの掲示	194
⑧ 会員による口コミ、口頭による連絡	557
⑨ その他	93
⑩ 特に広報は行っていない	285

【主なその他の回答の内訳】

自治会の役員会など別の会の際に連絡・・・16

学校・教師・教育委員会等への案内送付・・・8

メール、メーリングリスト・・・7

ケーブルテレビ、ラジオ、有線放送・・・7

ハガキ等による郵送・・・7

会報での案内・・・5

看板・・・3

別のイベント時に案内・・・3

問 19（活動内容）地域環境保全タイプの活動を実施している団体にお伺いします。

問 19-1 活動対象となった森林の面積を教えてください（n=985）

	対象団体数	中央値	平均値
平成 26 年度	825	2.7	5.24
平成 27 年度	878	2.6	5.06

※一部、10 万 ha 等、団体の規模からみて非現実的な数字の回答があったが除外した。

問 19-2 具体的にどのような森をつくることを目指して活動を行っていますか。（いくつでも）（n=985）

目指す森	回答数
① 広葉樹の人工林の維持・創出	192
② 針葉樹の人工林の維持・創出	252
③ 針広混交林の人工林の維持・創出	193
④ 広葉樹の自然林・天然林の維持・保護	281
⑤ 針葉樹の自然林・天然林の維持・保護	56
⑥ 針広混交林の自然林・天然林の維持・保護	181
⑦ 灌木・低木類の植栽・維持	87
⑧ 適切な竹林管理	340
⑨ その他	105

【その他回答の内訳】

草地の環境維持との回答が 2 件あった。また、遊歩道、歩道等の道の整備との回答が 8 件寄せられている。

この他の回答については、「生物多様性を重視した森づくり」「マツタケの増産」「下刈り」「獣害対策」「地域住民の交流の場づくり」など、上記選択肢と同列に論じることのできない回答であったため、集計は割愛する。

問 20 (活動内容)

森林資源利用タイプの活動を実施している団体にお伺いします。

利用している森林資源の種類と販売・供給（配布）先を教えてください。平成 27 年度に活動を実施予定の団体につきましては、利用を予定している森林資源の種類と販売・供給（配布）予定先を教えてください。

問 20-1 利用した森林資源の種類 ※該当の項目にチェックを入れてください(いくつでも) (n=336)

物品	回答数
① きのこ	123
② 山菜	20
③ 葉草	5
④ 樹実	8
⑤ 竹材	34
⑥ タケノコ	35
⑦ 薪・炭	216
⑧ 落葉	12
⑨ 樹皮・つる	11
⑩ 枝(工作・生け花用)	17
⑪ 木材(間伐材など)	119
⑫ 樹液・樹脂	7
⑬ 木酢液・竹酢液	25
⑭ その他	31

【その他回答の内訳】

その他で寄せられた回答は以下のとおりである。

ほだ木（椎茸）・・・11

チップ・・・8

ベンチ等木を使った工作物・・・3

畑ワサビ・・・2件

精油・・・2

ミニ門松づくり、ウラジロ、杉花粉、教材、杭、紀州備長炭、竹粉・・・各1

問 20-2 森林資源の販売先 ※該当の項目にチェックを入れてください（いくつでも）（n=336）

販売先	回答数
① 直売所・産直所	64
② 企業（卸・問屋・市場など）	63
③ 農家	17
④ ネット販売	16
⑤ イベント等での販売	81
⑥ 活動組織の事務所等での直接販売	53
⑦ 無人販売所	7
⑧ 自家用	129
⑨ 活動組織外への無料配布	70
⑩ その他	61

【主なその他の回答の内訳】

森林組合・椎茸生産組合、農協、漁協への販売が 9 件。木材市場や製材工場棟の木材に関連する場所が 4 県、その他の場所への販売が 7 件、無料配布が 7 件、販売出来ていない例が 7 件あった。この他、イベントや教材での利用が 4 件あった。

問 21 (活動内容)

教育・研修活動タイプ(森林空間利用タイプ)の活動を実施している団体にお伺いします。

問 21-1 活動団体で実施した、あるいは実施予定の内容を教えてください(いくつでも)(n=582)

内容	回答数
① 環境・森林教育	416
② 林業体験	203
③ 森林を利用した生活体験	92
④ 幼児・児童の自然体験	289
⑤ 森林療法・森林浴	50
⑥ 山菜・きのこ・タケノコ採り	126
⑦ 薪・炭作り体験	143
⑧ 森林施業の研修	68
⑨ 機材利用に関する安全講習	121
⑩ 生きもの観察・モニタリング	184
⑪ その他	65

【主なその他回答の内訳】

その他回答の主な内容は以下のとおりである。

- 木工・竹細工、草木染等の資源利用・・・20 件
- 山菜・きのこ・タケノコに関する事・・・14 件
- 環境教育・・・9 件
- 自然体験・・・5 件
- 森林整備・管理・・・4 件

特殊な事例としては、森林ヨガとの回答が 2 件あった。

問 21-2 平成 26 年度にイベントを実施した団体にお伺いします。

イベント参加者の主な形態を教えてください（いくつでも）（n=582）

参加者の主な形態	回答数
① 親子	304
② 高齢者グループ	92
③ 幼稚園児・保育園児	108
④ 小・中学生	269
⑤ 高校生・大学生・大学院生・専門学校生	73
⑥ 社会人	219
⑦ 活動場所の近隣住民	188
⑧ その他	26

【主なその他回答の内訳】

住民を対象としたもの 3 件、身体障害者を対象としたものが 2 件、会員向け 2 件、ボーイスカウトを対象としたものが 2 件であった。

環境保護団体や役場職員との回答もあった。

問 22 (地域住民の参加状況)

平成 26 年度に本交付金を得て活動を実施した団体にお伺いします。

交付金を得て実施した活動への地域住民の参加状況を教えてください。

(横 1 行ごとに 1 つ選択してください) (n=問 3 を参照)

		① 地域住民が非常に多い	② 地域住民がやや多い	③ 地域住民と外部住民が半々程度	④ 地域住民が外部住民よりやや少ない	⑤ 地域住民が非常に少ない
地域環境保全	里山林保全活動	403	80	65	37	93
	侵入竹除去・竹林整備活動	190	59	24	21	68
森林資源利用		132	43	34	20	45
教育・研修活動 (森林空間利用)		184	84	82	68	80

「⑥該当のタイプの活動を行っていない」は、集計から除外

問 23 (地域住民の参加状況)

平成 26 年度に本交付金を得て活動を実施した団体にお伺いします。

平成 25 年度と比べて、平成 26 年度の地域住民の参加数どのように変化したのかを教えてください。平成 25 年度と平成 26 年度のいずれか、ないしは両方で活動を行っていない場合は「④ 該当の活動を行っていない」を選択してください。(横 1 行ごとに 1 つ選択してください) (n=問 3 を参照)

		① 増えた	② 変わらない	③ 減った
地域環境保全	里山林保全活動	94	364	20
	侵入竹除去・竹林整備活動	46	200	13
森林資源利用		48	138	11
教育・研修活動 (森林空間利用)		129	204	14

「④該当のタイプの活動を行っていない」は、集計から除外

問 24 (地域住民の参加見込み)

平成 26 年度に本交付金を得て活動を実施した団体にお伺いします。

平成 26 年度と比べて、平成 27 年度の地域住民の参加数がどのように変化するののかの見込みを教えてください。平成 26 年度に活動を行っていない場合、あるいは平成 27 年度に活動を行う予定がない場合には「⑤ 該当の活動を行っていない」を選択してください。(横 1 行ごとに 1 つ選択してください) (n=問 3 を参照)

		① 増える	② 変わらない	③ 減る	④ わからない
地域環境保全	里山林保全活動	127	469	45	31
	侵入竹除去・竹林整備活動	56	276	27	31
森林資源利用		74	161	27	26
教育・研修活動 (森林空間利用)		157	235	44	45

「⑤該当のタイプの活動を行っていない」は、集計から除外

問 25 (活動の目標達成状況)

平成 26 年度に本交付金を得て活動を実施した団体にお伺いします。

平成 26 年度の活動は、申請段階での活動計画通りに活動を進めることができているかを教えてください。(択一) (n=1,041)

活動実施状況	回答数
① 計画以上に活動を進めることができている	124
② ほぼ計画通りに活動を進めることができている	714
③ 計画に比べ、若干の遅れが生じているが、交付金終了までには取り戻すことができる見込みがある	124
④ 計画通りに進めることができていない	43
⑤ 進捗状況がわからない	0

問 26 (交付金対象外の活動状況)

本交付金の対象となっている以外で、貴団体が活動を行っていることがありましたら教えてください。(いくつでも) (n=1,155)

その他の活動	回答数
① 地球温暖化防止活動	91
② 生物多様性保全活動 (外来種駆除など)	105
③ 環境教育・森林教育	293
④ 森づくり (里山管理)・植林	349
⑤ レクリエーション活動 (ハイキング等)	169
⑥ 森林セラピー	40
⑦ バイオマス資源利用	99
⑧ ゴミ回収	131
⑨ 地域特産品製造・開発	97
⑩ 狩猟・罟猟	57
⑪ 地域の景観づくり活動	315
⑫ その他	170
⑬ 本交付金の対象となる活動以外は行っていない	219

【主なその他への回答内訳】

内容が非常に多岐に渡るが、主なものとして以下の内容が挙げられる。

- 森林整備・管理・林業・・・16
- イベント開催・参加・・・14
- 獣害対策・・・8
- 農業関連・・・8
- 環境教育・・・7
- 木工・竹細工等の資源利用・・・7
- まちづくり・地域活性化・・・7
- 耕作放棄地解消・・・6
- 清掃活動・・・6

問 27 (将来的に重視すること)

本交付金が終了後に活動が続けていく上で、以下に示す項目について、貴団体がどのように重視しているのかを教えてください。(横1行ごとに1つ選択してください) (n=1,155)

	A、 非常に重視している	B、 ある程度重視している	C、 どちらともいえない	D、 あまり重視していない	E、 まったく重視していない、 特に考えていない
① 活動を行う上での安全性の確保	848	234	17	11	4
② 新規に活動参加者を増やすこと	233	524	208	111	27
③ 活動を実施する上での新たな財源の確保	541	397	106	53	14
④ 関連する人や団体間の連携・協力	293	551	171	60	27
⑤ 森林・林業の理解を広げるための情報発信	223	517	229	87	38
⑥ 地域の活性化	514	479	84	21	9

問 28 (将来の資金調達手段)

本交付金が終了後、貴団体が活動が続けていく上で、どのような資金調達方法を考えているのかを教えてください。(いくつでも) (n=1,155)

資金調達方法	回答数
① 国からの別の補助金・交付金	516
② 都道府県による補助金・交付金	562
③ 市区町村による補助金・交付金	528
④ 企業等の民間団体からの支援	276
⑤ 会員からの会費・寄付金	397
⑥ 森林から得られる木材資源(チップ、薪、炭など)の売却益	338
⑦ 森林から得られる非木材資源(キノコ、果実、樹液など)の売却益	164
⑧ その他	119
⑨ 特に考えていない	97

【主なその他への回答内訳】

- 林産物の販売収益・・・19
- 別事業による収益・・・17
- その他の交付金・助成金・・・14
- 会費・参加費に関するもの・・・10
- 寄附や自己負担・・・10

問 29 (活動を行う上での課題点)

貴団体が本交付金を得て活動を行う上で、特に苦勞したことについて教えてください。
 また、その苦勞した問題について、どのように解決をしたのか、あるいは解決ができなかったとすればどのような理由によるものかを教えてください。

	解決の有無
解決した	240
対応中	243
解決できなかった	133

745 件の回答が寄せられている。その主な内訳は以下の内容であった

- 事務や書類、報告書作成 (写真撮影含む) 188 件
- 作業人員・参加者確保、日程調整が難しい 90 件
- 個別の作業に関する事 52 件
- 会員が増えないことや高齢化問題 35 件
- 交付金の不足 28 件
- 天候等による作業延期や中止による影響 27 件
- 経理の問題や、作業に使用した物品の支出が認められなかったこと . . . 25 件
- 土地所有者との関係 (不在村地主探しを含む) . . . 23 件
- 安全対策に関する事 (けが人が出たを含む) . . . 22 件
- 取り組みに管理する理解、認知を広めること . . . 19 件
- 交付金の支給時期が遅れることによる年度初めの予算不足・資金立て替え . . . 16 件
- 土地の境界が不明であることによる問題 . . . 14 件
- ただの内容報告や感謝 . . . 13 件

その他、地域協議会への批判や交付金の継続希望、作業内容を覚えるのが大変だったなど、その他の回答が 78 件あった。

問 30 (今後の交付金について)

平成 29 年度以降の本交付金について、シナリオ A とシナリオ B の 2 つのシナリオがあると仮定した場合、貴団体はどちらのシナリオが望ましいと思うかについて教えてください。提示されている 2 つのシナリオに比べて現在の交付金の仕組みが望ましいと考える場合には、「③どちらともいえない」にご回答ください。

なお、国の予算額は現在と同額と仮定した上で、ご回答ください。(横 1 行ごとに 1 つ選択してください) (n=1,155)

シナリオ A	① シナリオ A が良い	② どちらかといえば シナリオ A が良い	い ③ どちらともいえない	④ どちらかといえば シナリオ B が良い	⑤ シナリオ B が良い	シナリオ B
1ha あたりの交付金の金額を減らす代わりに、より多くの面積を交付金の対象とする。 ・ 交付金単価：減らす ・ 交付金対象面積：増やす	66	87	464	226	249	1ha あたりの交付金額を増やす代わりに、交付金を得られる交付金全体での面積を減らす。 ・ 交付金単価：増やす ・ 交付金対象面積：減らす
交付金の上限額を減らす代わりに、支援のための条件を緩くして多くの団体が参加できるようにする。 ・ 交付金上限額：減らす ・ 支援条件：緩くする	219	231	453	97	91	交付金の上限額を増やす代わりに、取り組みの内容の質を上げるために支援の条件を厳しくする。 ・ 交付金上限額：増やす ・ 支援条件：厳しくする

問 31 (本対策事業全般への意見) 本交付金事業全般、あるいは地域協議会に対する意見や要望がございましたら教えてください。

530 件の回答が寄せられている。このうち特に多い回答を以下に示す。

交付金の継続希望・・・140 件

書類の簡素化・事務作業の軽減・・・51 件

交付金の対象範囲の拡大 (食糧費を認めて欲しいなど)・・・38 件

交付金額の増額の希望・・・37 件

年度の早い時期での交付金給付希望・・・16 件

なお、交付金に対する感謝のみのケースも 41 件寄せられている。

平成27年度 森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナー プログラム

【主催】 林野庁

【日時】 2016年2月10日(水) 10:00～15:00

【会場】 航空会館 7階 大ホール(東京都港区新橋1-18-1)

【プログラム】(敬称略)

9:30 開場

10:00～10:05 開会挨拶

今泉 裕治(林野庁 森林整備部 森林利用課 山村振興・緑化推進室 室長)

10:05～10:50 基調講演

講演者: 山本 信次(岩手大学 農学部 准教授)

タイトル: 「3.11後の森と付き合い方を提案する

ーマチの森林ボランティア・ムラの森林ボランティアー」

10:50～12:30 活動組織による活動事例報告

10:50～11:15 紫波地区里山林保全活動実践協力会(岩手県)

11:15～11:40 麻機自然体験コミュニティ「Balance」(静岡県)

11:40～12:05 非営利特定活動法人 海上の森の会(愛知県)

12:05～12:30 金剛山もととり保全協議会(福岡県)

12:30～13:30 昼休み

13:30～15:00 パネルディスカッション「森林・山村での活動をより元気づけるために」

■パネリスト

コーディネーター: 山本 信次(岩手大学 農学部 准教授)

パネラー: 今泉 裕治(林野庁 森林整備部 森林利用課 山村振興・緑化推進室 室長)

丹羽 健司(特定非営利活動法人地域再生機構 木の駅アドバイザー)

原田 明((一財)都市農山漁村交流活性化機構

コミュニティビジネスチーム長)

三好 日出雄(高知県森と緑の会 専務理事兼事務局長)

森 勝(岐阜県森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会 事務局長)

(五十音順)

■パネルディスカッション議題

【議題1】活動組織の参加を拓げるための支援・工夫について

【議題2】活動組織が取り組みを行いやすい環境づくりについて

【議題3】活動を安全に進めるための地域協議会による支援・工夫について

【まとめ】森林・山村での活動をより元気づけるために

15:00 閉会

3.11後の森と付き合う作法を提案する

—マチの森林ボランティア・ムラの森林ボランティア—

山本信次
(岩手大学農学部)

3.11を経て、森と人間の間関係を作り直す

～3.11東京で研修の講師～

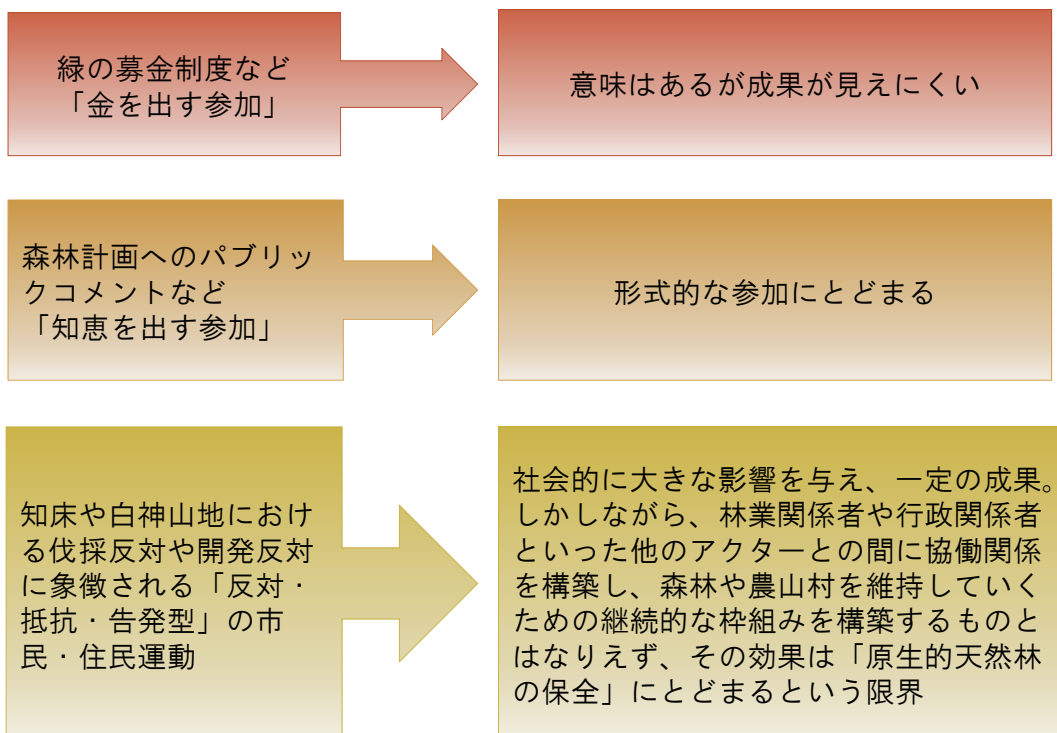
- 大都会の便利さや快適さを保証してくれていた巨大なシステムは、一度壊れればその巨大さゆえに個人には為す術がない。
- 三陸沿岸あるいは農山村で自らの技を用いて、森や自然から必要物資を得て、命をつないだ人々との間には果てしなく大きな溝
- マチの規模が大きくなるにつれ、自らの手でコントロールできる領域は小さくなっていく。自らの手でコントロールできる領域を拡大すること、地域の自然との関係性を保つことは、生き物としての「ヒト」にとって当たり前のことでありながら、大都市生活者からはすっかり失われている。
- 東北地方は、森林と人が経済的な価値以外でつながる関係性が多様で、色濃い地域だからこそ、被災者地の人々も必要物資を森林から得る技術や知恵を保持していたといえるだろう。震災後に聞き取りをした農家からは「湧水があり、暖は薪ストーブでとり、食いものはストックした農産物があったから別に困らなかった。街の人は大変だな」と言葉を掛けられた。
- 森林は経済合理性の観点から捉えられる単なる木材生産の場ではなく、また環境保全の視点からのみ捉えられる生物多様性を保全する場であるだけでもないということが震災を通じて視えたことの一つであろう。その森を育むムラもまた同じであろう。

農山村はいらないところか？

- 地方の自立とは「地方自治体の独立採算制」のことなのか？
- 農山村は戦略物資としての食糧生産地、であり、風土に根差した伝統的な生活文化が息づくところであり、そうした人々の生活に基づいた地域ごとの半自然（里山）の存在が生物の多様性を担保してきた場所である。
- 経済合理性、比較優位説にもとづけば農山村は「いない場所」→だから農山村は衰退する
- それでは他の先進国は、そんな対応を取っているのか？
- フランスにおける農家所得に占める政府補助割合は8割、スイス山岳部では100%、自由化を主張するアメリカの穀物農家でも50%前後
- これに対して日本は、せいぜい2割強。
- これらは、日本を除く先進国においては「農山村の存在の重要性」が国民的合意得ていることの証左
- そもそも農山村と都市は相互補完的な関係を持って、これまでも存在してきた。
- 支えあう社会づくりを目指して市民たちは動き始めている→森林ボランティアなど村へ向かう都市住民たち
- いまこそ、農山村と都市がともに協働・参画した意思決定や仕組みづくりが求められている。

3

森林・林業分野における 都市住民サイドからの取り組み①



4

森林・林業分野における 都市住民サイドからの取り組み②

「反対・抵抗・告発型」
運動の拡大・桎梏要因

森林・林業に関わる問題や情報が十分に公開されず、何らかの対応策がとられるに際しても「専門家集団」（国や都道府県の林野行政・林業研究機関・森林組合・林業関係者）のみの中で意思決定がなされ、そこでの合意形成から一般市民が排除されてきたこと。

この解消には「閉ざされた合意形成の仕組み」を開く事により「市民社会」の意志を反映させる仕組みを作る事、「有志」（宮内,2001,56-71頁）としての市民の自主性を重んじること、さらには森林保全に関わる諸アクター間相互の信頼関係を醸成し、協働の取り組みを促進する事が必要

都市と農山村を結ぶ
取り組みの拡大

制度・経済・交流

5

市民活動の性格変化と森林ボランティア

大阪ボランティア協会事務局長 早瀬昇

市民活動の一形態であるボランティア活動をかつては「善意」に基づきつつも社会科学的な認識が低い「社会奉仕」型活動と人権保障にむけて行政責任追及のための告発・問題提起を中心とした「社会運動」型活動に二極分化していたと指摘

生活公害などの自らの問題性を問う動きや行政責任を追求しにくい国際協力活動の広がりなどを背景に、「社会運動」型の活動家が告発運動にとどまらず代案の提示とその実践に取り組むことにより、両者の区別を乗り越え、「社会に働きかける開放性・社会性を持ちつつ、直接、汗を流す実践性も兼ね備えた活動」すなわち「課題に即応するだけの自己完結的な「社会奉仕」活動でも、問題提起を繰り返すだけで結局、行政に問題解決を依存する「社会運動」型活動でもない「新しいタイプの活動」を登場させたとしている。（早瀬,1994,18-24頁）（4）

森林・林業分野における「新しいタイプの市民活動」のとしての森林ボランティア

6

森林ボランティアの広がり

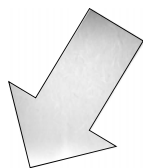
- 国家行政レベルでの取り組みに対して、森林ボランティア活動は変容
- 高度成長期以降、官製ボランティアとは一線を画した自然保護運動としての「反対・抵抗・告発」型の市民活動の蓄積→行政の執行権限を基本的に認知し、場合によっては連携しつつ、共通の目的達成のために活動する形態の「新しいタイプの市民活動」としての森林ボランティア活動が登場
- 過渡期の形態：富山県の「草刈り十字軍」（1974年発足）
動機は除草剤散布への反対
- 80年代半ば、東京を中心とした活動は雪害を受けた森林の復旧や手入れ不足の人工林に対する活動として農山村との連携を目指した活動として登場
- 現在森林ボランティア活動は、手入れ不足による人工林の荒廃や、燃料革命などによって放置された里山に対して、農山村サイドと協力して森林管理に参加しようとする「新しいタイプの市民活動」が主流
- 90年代以降、官製ボランティアとは別の流れから生まれ、成熟を遂げた市民活動としての森林ボランティアが行政や林業関係者・農山村住民といった他アクターと協働しながら、都市と農山村をつないできた。

7

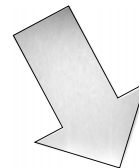
森林ボランティアから生まれた新展開 市民活動の多様な発展と全国ネットワーク形成 東京都における展開

西多摩地域では、1986年に地域全体で30億円もの被害をだした大雪害発生。被害跡地の片づけや雪起こし、再造林などを行うことを目的として森林ボランティア活動が始まり、現在の隆盛の嚆矢

東京の森林ボランティアは新しい展開を模索し始める。



一つには活動方向の多様化

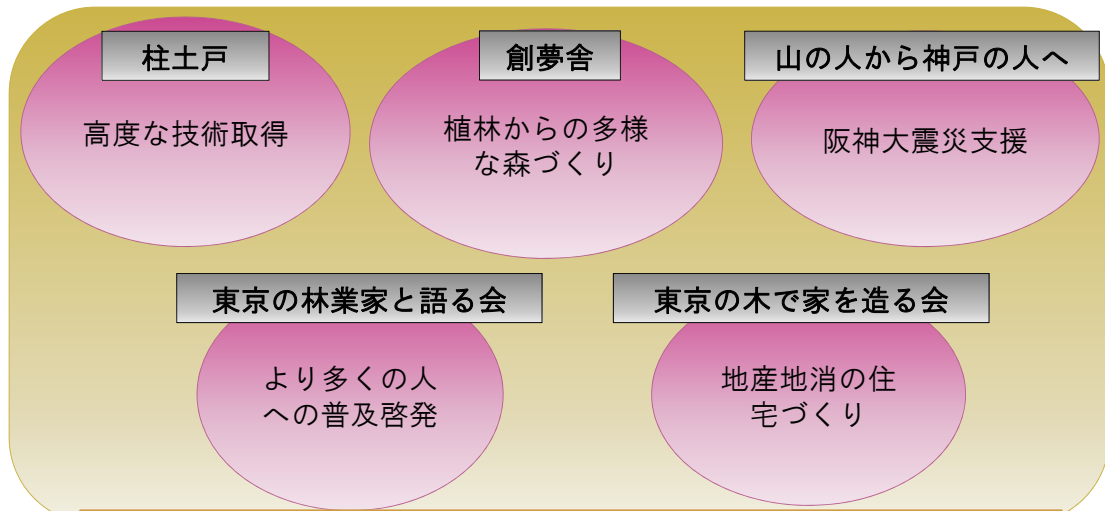


二つには他の社会セクターとのネットワーク化と政策提言

8

活動方向の多様化と地産地消の家づくり グループ浜仲間

雪害・手入れ不足森林への対応：浜仲間の会



このほかにも多数の活動が「グループ浜仲間」として緩やかに連携

特に「東京の木で家を作る会」は「近くの木で家を作る運動」の濫觴に
→全国へ波及

9

社会セクターとのネットワーク化と政策提言

全国ネットワーク「(特) 森づくりフォーラム」

『森の列島に暮らすー森林ボランティアからの政策提言ー』の目玉は

多様な人々の参画する市町村単位の

地域森林委員会

および

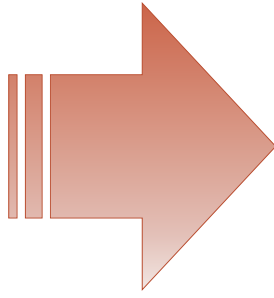
流域森林委員会

の設置

【責務】 森林計画の策定、地域内の専門家としての民有林版の「森林官」の設置、市民参加の調査に基づく「森林地図」の策定と「管理放棄林」の認定・整備の仕組づくり

【責務】 流域全体の森林計画の策定・調整、森林をもたない都市の役割の明確化、都市住民参加の促進など

10



長野・大阪などで一部実現

森林環境ガバナンスの実現を提言した先進性

愛知県豊田市では、広域合併に伴って広大な森林が市域に編入されたことに伴い、NPO・学識経験者・森林関係者などからなる「とよた森づくり委員会」を設置、豊田市の状況をふまえた「森林保全・活用条例」と「もりづくり百年計画」の策定が進められている。聞き取りでは豊田市の担当者は、同市の取り組みは先の政策提言にインスパイアされたものである事を認めている

社会セクターとのネットワーク化と政策提言

11

流域単位の協働関係形成へ向けた取り組み 愛知県矢作川流域「森の健康診断」

森の健康診断

矢作川流域の森林ボランティアのネットワーク「矢作川水系森林ボランティア協議会」（「矢森協」）の呼びかけによる市民参加型の大規模な放置人工林の実態調査

2005年6月に第一回が実施され、150人を越える参加者が106箇所ですべての科学的な調査を実施し、データ解析は東京大学愛知演習林などの協力に基づいて行われた。その結果、これまで感覚的にいわれていた手入れ不足の過密林分が73%を占めることなどを初めて明らかにした。

2008年5月朝日新聞社「明日への環境賞」を受賞

実践を容易にするための詳細なマニュアルと簡易な用具使用という工夫により、県内他流域、熊本県・愛媛県、三重県、滋賀県などでも地元関係者によって実践。

12

「森の健康診断」による 流域単位で都市と農山村を結ぶ試み

- 「矢森協」においては森林ボランティアは森林管理の担い手とは捉えられておらず、山作りの楽しみ・大切さを都市住民に伝えること、森林を受け継いだもののどうしたらいいか分からなくなってしまっている「素人山主」がボランティアとともに山仕事を学ぶ場を提供し、そして本来の山の守り手であるプロフェッショナルの応援団となることが目指される。
- そうした「矢森協」がより多くの市民を巻き込んで行うべき事として選択したのが「森の健康診断」。聞き取り、森づくりフォーラムの政策提言において示された「森林地図づくり」が活動の一つのヒント
- 「森の健康診断」も市民の手によってのみ行われたわけではなく、行政や地元林業関係者、研究機関との協働に基づいて実施
- こうした中で「矢森協」と豊田市はインフォーマルなネットワークを形成していると同時に、フォーマルな制度としての「とよた森づくり委員会」メンバーに「矢森協」・「森の健康診断」関係者も参加。
- 都市と農山村を流域単位でつなぐ試み

13

コミュニティレベルでの地域丸ごとの関係づくり —和歌山県九度山町—

和歌山県伊都郡九度山町大字北又字久保地区では

大阪を本拠とする老舗の森林ボランティア団体「(特)日本森林ボランティア協会」による活動が「森林ボランティアから地域ボランティアへ」をキーワードに展開

- 同地区は、3つの集落から形成され、人口は50名に満たず、地域のシンボリック存在だった小学校は2006年に最後の卒業生を送り出し休校となっており、典型的な過疎地区。
- 活動の発端は、1998年に、同地区で炭焼き・林業を営む両親を補助するボランティアを求める照会が和歌山県の林務課宛になされ、同課の問い合わせに答えた日本森林ボランティア協会が林業体験の一環として会員向けに「炭焼きボランティア」を募集し、炭焼き作業補助受託を始めたことによる
- 活動開始から3年間ほどの間に、当初の協会主催のイベント的炭焼き作業体験活動から毎月複数回実施の森林管理作業へ展開。

14

- さらに地域住民との交流を通じて、森林ボランティア活動参加者の関心は「森林」から「森林とともに暮らしている地域コミュニティ」へと広がりを見せる。
- 活動開始から4年目の2001年には森林管理作業に加えて、地区内休耕地において製炭の産物である炭や木酢液を用いた有機農産物の生産、さらには従来地区住民の伝統的活動であった「道普請」（具体的には地区内町道の草刈り・清掃）への参加・同様に地区のシンボルたる小学校の整備・維持活動への協力といった活動が開始



後者は地域資源維持管理のための活動であると同時に、地域コミュニティの再強化する機能を持つもの。そうした活動への参加は過疎のため難しくなった地域資源維持・管理作業への協力という意味だけではなく、都会からのボランティアが地域コミュニティの準メンバーとして受け入れられていくことを同時に意味する

15

2002年

児童の減少により開催が危ぶまれた同地区小学校運動会へ「地域ボランティア」参加者が自らの子弟を伴って準備段階から参加し、開催を実現。

2003年

集落水道の水源維持作業への協力また小学校児童が日本森林ボランティア協会の活動へ参加を始め、交流が双方向化。

2004年

小学校の総合学習への協力並びに卒業アルバム制作を請負いを開始

2005年

交流事業をかねて宿泊森林体験教室「森の学舎」開始

2006年

閉校となる小学校最後の卒業式に「地域ボランティア」が参加し、その後小学校の運動会の代替として行われるようになった地区行事としての「敬老会」への参加・共催などを行うなど、「地区の準メンバー」として多彩な活動が継続

16

こうした活動の積み重ねが地元行政にも信頼されることとなり、2008年には町役場・地元林業研究グループ・日本森林ボランティア協会の三者からなる「森おこし町おこし」を目的とした「九度山町森づくり町づくり実行委員会」が組織され、廃校となった小学校と町有林を利用・管理し、「町おこし」を検討・実現していく体制が整えられた。

九度山町における森林ボランティア活動は地域の抱える諸問題・課題を受け止めて、地域との合意の上で解決に向けての協働や、受託して実践することのできる「地域ボランティア」へと移行し、そうした活動の積み重ねから得られた信頼関係（ソーシャルキャピタル）を原資として、町行政にも認められたオフィシャルな合意形成・活動実践の場を得るに至っており、コミュニティレベルから基礎自治体レベルでの森林環境ガバナンスを形成しつつある事例

森林ボランティアの新たな展開 間伐材・木材利用拡大

豊田市旭で3月実施
森林整備と地域活性化 応援
社会実験 木の駅プロジェクト

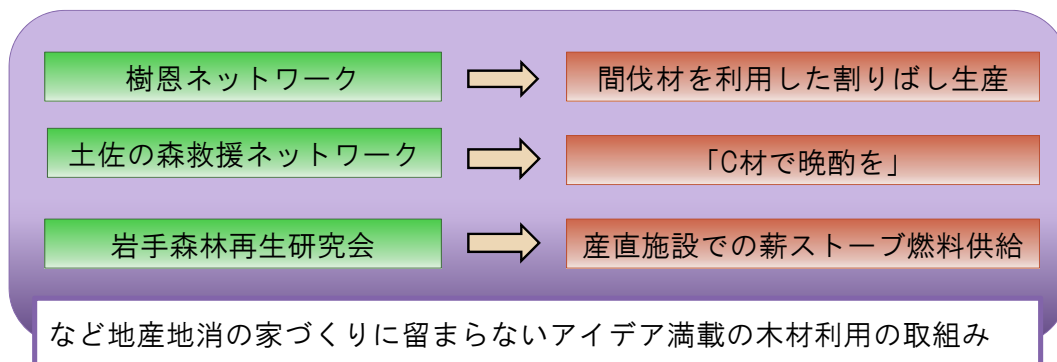
「森林整備」と「地域の活性化」を両立させる取り組みとして、旭地区の森林整備と地域活性化を目的とした「木の駅プロジェクト」が、豊田市旭地区で3月17日に実施される。旭地区の森林整備と地域活性化を目的とした「木の駅プロジェクト」が、豊田市旭地区で3月17日に実施される。旭地区の森林整備と地域活性化を目的とした「木の駅プロジェクト」が、豊田市旭地区で3月17日に実施される。

伐り捨て残材を小遣いに
軽トラとチェーンソー
で1トン運べば6千円

旭地区の森林整備と地域活性化を目的とした「木の駅プロジェクト」が、豊田市旭地区で3月17日に実施される。旭地区の森林整備と地域活性化を目的とした「木の駅プロジェクト」が、豊田市旭地区で3月17日に実施される。

支払いは地域通貨 モリ券

森林ボランティアの新たな展開 間伐材・木材利用拡大にむけて



森林ボランティアにとって切り捨てでない、木材利用への参加は悲願

市民が関わることで

住宅利用という固定観念の打破

画一的でない地域ごとの取組み・ガバナンスの形成

規模の大小にこだわらない機動的な取組み

19

農家林家の林業・木材生産の活発化 —ムラの森林ボランティア—

ムラ人は「林業」をしてきたのか？

- 燃料材や自家用木材の伐採は無論、行われてきた
植えて育てる林業⇒大規模所有者（近世の富裕層）、大規模所有（国有林等）という常識
- 紙野伸二「農家林業の経営」（1962年）農地解放と燃料革命・木材価格高騰の中で小規模森林所有者が人工造林を行っていることを実証的に明らかに⇒「造林」の担い手として小規模所有者・農家にスポットライトが
- しかし伐採は無理という常識⇒80年代には100~200ha程度のかつては人を雇っていた規模の所有者が自ら伐採を行う事例が始める。

20

農家林家の林業・木材生産の活発化 —ムラの森林ボランティア—

- また諸塚村などのように他品種少量生産の農林産物の一種としての「木材」・椎茸歩ホダ木生産も注目を集める
⇒中・小規模の木材生産は決して不可能ではない。ただし例外的な扱い
- こうした伐出を行う農家・ムラ人もいながらも、多くの場合、農家は山仕事を習ったこともない「素人山主」（矢作川の事例より）
- 岩手の森林ボランティア「森林再生研究会」→ボランティアの育成に山主やムラに帰りたい人々が参加、岩手の林業作業事故で目立つ農家の伐採事故。
⇒農家への伐採技術伝達の開始
- 伐採技術のみならず木材利用・経済的利益までを含んだ提案：土佐の森救援隊「C材で晩酌を」・「木の駅プロジェクト」等を通じて都市型森林ボランティアからの逆提案・技術の逆輸入の活動が全国的に行われる

21

農家林家の林業・木材生産の活発化 —ムラの森林ボランティア—

「C材で晩酌を」の取組みの成功要因

- 需要の存在（バイオマス）
- 需要形態に基づいて長尺である必要のなさ⇒出材の容易さ⇒多くの方が関われる
- 農家の手持ちの道具が活用できる⇒軽トラ・チェーンソー
- その後の技術向上と拡大が「自伐林業」を現実味ある森林管理の担い手へ押し上げた。
- 都市住民だけの森林ボランティアでは点的にしか森林管理ができず森林管理の担い手とはなりえない
- しかし都市型森林ボランティアの経験の積み重ねと多くの方が関わる中でもたらされたアイデアが「林業業界の常識」を突破した功績は非常に大きい。
- この点でも都市と農山村の関係が新しい仕組みをつくりだしているといえるだろう

22

もう一度3.11を振り返りながら私たちの社会のあり方を変えることと森の利用を変えることを重ね合わせる

近代化の中、人と森林との関係は、木材生産のように貨幣換算しやすい部分に集中

それが行き過ぎる、あるいはグローバル化の中で経済的メリットが低下する中で、今度は環境保全の観点からのみ語られるように

この二つの見方はともに近代化の中で森林との関係性を経済や環境という抽象的で単一の視点・関係性でしか捉えられなくなったことの両極

今回のような災害で私たちの暮らしを取り巻く様々な「近代的利便性」が剥ぎ取られた時、人と森林との具体的で多様な関係の必要性があらためて示された

23

もう一度3.11を振り返りながら私たちの社会のあり方を変えることと森の利用を変えることを重ね合わせる

眼前にある具体的な森林・自然と向き合いながら自らの生存・生活を考えることの重要性であり、森林や自然から自らの生存や生活向上の可能性を十分に引き出すために必要な多様な技の必要性であろう。

岩手において燃料供給源としての森林への注目は震災前から始まっていたが、震災後にはさらに加速。

薪ストーブはこれまでも農村部ではずっと使用されてきた。数年前の原油高騰の折の農村部での聞き取りでは、ホームセンターから鉄板製の安価な薪ストーブが売り上げを伸ばし、農村部では共有山に薪を取りに行く人がにわかに増加したことも聞かされた。再生可能エネルギーという言葉などない頃から、森はエネルギーの供給地であった。

24

もう一度3.11を振り返りながら私たちの社会のあり方を変える ことと森の利用を変えることを重ね合わせる

- 震災後、岩手県沿岸の大槌町吉里吉里地区では、避難所に給湯用薪ボイラーが設置されたことをきっかけに、土佐の森救援隊の指導を仰ぎつつ、被災家財から薪を生産し、自ら利用するにとどまらず、他地域へ販売することで地域復興を目指す「復活の薪」事業が展開され、現在では地域の森林の間伐による森の再生と薪の販売を通じた他地域とのネットワークづくりによる地域の再生を結び合わせる「復活の薪第二章」という事業へと成長し、実施主体「吉里吉里国」は2012年NPO法人格を取得するなど活発に活動している
- 「家と田畑と船が流された時、目の前に森があった。森を利用して生きていこうと思うのは自然だった」（吉里吉里国メンバー）

バイオマス利用は震災復興にとどまらず化石燃料や原発への依存度を下げていくための具体的な第一歩。

25

もう一度3.11を振り返りながら私たちの社会のあり方を変える ことと森の利用を変えることを重ね合わせる

岩手では都市部でもエネルギー利用の見直しは進む。

- ◆震災前、岩手の特色を生かした木質バイオマスの普及啓発や調査、研究、提言などを行っている岩手木質バイオマス研究会は2000年から活動を始め、農村部に留まらない都市部マンションでも利用可能な木質バイオマス利用提案として木質ペレット利用やストーブ開発に一役買ってきた。
- ◆震災後、地域材利用による住宅供給を盛岡とその周辺で行っている複数の工務店への聞き取りでは薪ストーブの設置を望む顧客が大半で、住宅密集地で薪ストーブを設置できない場合はペレットストーブを望むという。
- ◆これは地元木材を使うという意識の高い需要者というバイアスあるものの、薪供給業者が盛岡市内に新規起業されるなど明らかに薪需要は増加しており、都市部においても木質エネルギー利用への意識は高まりを見せている。

⇒大都市ではどうなのか？

26

もう一度3.11を振り返りながら私たちの社会のあり方を変えることと森の利用を変えることを重ね合わせる

- 繰り返しになるが東北地方は、自然と人間の多様な関係とそのため
の技が保持されてきた場所だからこそ被災時にもそれに頼ることが
できたことは、もう少し強調されるべき事実であるように思われる。
- そこから導かれる答えは被災地の再生に関わる森林の役割を産業
としての林業の復興だけに留めてはいけないという点である。そこ
にある森林とこれまでよりも多様な関係を結びなおすことにより、
震災前よりもレジリエンスに富んだ地域を再生することが可能とな
ろう。
- また森林や自然と比較的豊かな関係を保持していた東北にして地
域再生のために森との関係をより強化する必要があるならば、大
都市を含む地域においては、ますますその関係の再構築が重要であ
ろう。さらに直接に森や自然と向き合うことが地理的にできない
都市においては森や自然豊かな地域・農山村との関係を再構築し
ておくことが必須だろう。そしてそのことは農山村にとっても
重要である。

27

もう一度3.11を振り返りながら私たちの社会のあり方を変えることと森の利用を変えることを重ね合わせる

今次震災においては、外部とのつながりがあったところに様々な支援が素早く入った。この20年程の間に森林ボランティアや木質バイオマス利用、森林認証やJ-VERなど新しい森林と人、森林が立地する地域と都市との関係をつくろうという動きが各地で起こり、そこに森林を介した人と人あるいはマチとムラとのネットワークも造られてきた。そうしたムラとマチの間にある回路を平常時から構築しておくことが重要であり、そのことが非常時の助けになると同時に、森林を都市と農山村共通の「新しいcommons」とした地域社会を再生していくことができるのではないだろうか。

28

おわりに

放射性物質と向き合う森との付き合いの作法をつくり出す必要性

福島で薪の生産を続ける「ふくしま薪ネット」

福島だけの、被災地だけの問題としないために

- ① 具体的な森との付き合い方の作法をうみだすこと
- ② このような事故を引き起こしたムラとマチの関係の分断、人と自然の関係の分断を修復していくことの重要性

森林・山村多面的機能発揮対策交付金 事業をつなぐ私たちの取組み

紫波地区里山林保全活動実践協力会

【岩手県紫波郡紫波町】

- ①紫波町は、岩手県のほぼ中央で、県都盛岡市と花巻市の間に位置し、総面積は23,898平方キロメートル、人口は32,741。
- ②地形は、東に北上高地、西に奥羽山脈が南北に走り、北上川が町の中央を南に貫流し、肥沃な水田地帯を形成しており、中央部地域は平坦な地域で町の全人口の57%が集中している。森林面積は13,906haと全体の57.6%を占めていて、民有林はその内40%の8,746ha。

一般社団法人 しわ・まちコーディネット

私たちは、地域課題の解決のために、行政、地域、企業・NPOや個人の持っている力をつないで、それぞれの立場や視点で異なる見解を調整しながら、より効果的で質の高い成果を引き出すための実践活動をしています。

○事業をつなぐ私たちの取組み

【平成25年～ 紫波地区里山林保全活動実践協力会として活動】

★地域の史跡や名所・観光スポットを対象とした活動

25年度 1団体 5.5ha
(紫波地区里山林保全活動実践協力会)

- 周知活動の推進
- 事業相談
- 説明会の開催



【平成26年度～ しわ・まちコーディネットとしても活動を開始】

★それぞれの地域の特性に合った活動の支援と実践

26年度 14団体 224ha
27年度 16団体 241ha (400ha 希望)

- 事業相談
- 連携(コーディネット)
- 書類作成の手伝い

★常にいわて里山再生地域協議会と連携をとって活動している。

○紫波地区里山林保全活動実践協力会としての取組み

活動場所:岩手県紫波郡紫波町

【機織館・是信房の整備】 25年度～

- ①紫波町内で史跡や名所の整備をしている地域ボランティアや団体への、事業の周知と交付金活用に関する相談→説明会の開催(地域協議会と連携)
- ②山林所有者と作業員、ボランティアとのつなぎと調整→相談会
- ③作業打合せ→実践活動→書類の整理(申請書・報告書・見回り業務)



町の史跡と言われながらも、長年整備されず史跡の存在さえ地域住民以外知られていないような状況だったが、今回の事業で頂上までの散策路も整備され、住民が自由に山に入れるようになった→史跡周辺の山の整備も進んでいる。

○紫波地区里山林保全活動実践協力会としての取組み

活動場所:岩手県紫波郡紫波町

【野村胡堂・あらえびす記念館の裏山整備】 26年度～

- ①紫波町の観光文化施設である「野村胡堂・あらえびす記念館」の裏山が未整備のまま長年放置されていたため、山の所有者と協議し整備を始めた。
- ②土地所有者である建設会社から、遊歩道を設置したいとの相談を受け記念館に打診→記念館としても一緒に取り組みたい→実行部隊組織(計画・調査)



長年放置され熊も出没していた記念館の裏山だったが、今事業で2年間整備を行った結果、散策路設置もできるまでにきれいになり、来年からは実際に散策路整備が始まる予定。今後記念館では山野草を植えるなどして、集客や地域との連携を深めたい考え。又森林組合と連携した周囲の山の整備も進んでいる。

○しわ・まちコーディネートとしての取り組み

①【赤沢里山会の活動】26年度～

①集落の過疎化、高齢化が進み、長年地域住民の手により整備を行ってきた地域の白山神社や、神社周辺の里山林整備が進まない状況になっていた。

②公民館が中心となって、地区住民や学生ボランティアと一緒に神社周辺の山林整備や参道の修繕、神社史跡の観光スポット化等、地域活性化を図っている。



②【フルパ里山会(芳沢地区)の活動】26年度～

①佐比内芳沢地区は、過疎化、高齢化が進み、地域のつながりも薄れつつあった。

②この事業を活用し、地元住民で作業部隊を組織、自分たちで林業技術の習得と養成を行い、雇用の場を提供しながら、里山林の保全と集落の再生を目指し活動を続けている。将来は地域福祉につなげたいとの希望。



○しわ・まちコーディネートとしての取り組み

③【東和里山会の活動】27年度～

活動場所：花巻市東和地区

①東和町地区は、花巻市との合併の前に大規模な森林整備計画を立てたものの、合併後関係機関との連携がとれにくい状況になっており、森林整備や施業に関する情報も入りにくく、未整備の状況になっていた。

②個人の山林所有者が山の手入れをしたくてもできにくい状況になっていたため、みちのく郷山保全隊の協力を得て、山林所有者が機材の使い方、間伐、除伐、風倒木の処理など、山仕事の基礎を学びながら作業を一緒に行っている。



○森林・山村多面的機能発揮交付金を活用して、こんな動きが…！

④【馬の子里山会の活動】 26年度～

①2度の山火事後植林が行われたが、その後の大雨被害等で整備が進まず、植林したスギ等の木々が雑草にまかれ生育が思わしくない状態にあった。

②地域の状況に詳しい森林組合OBや関係者と相談→地元の森林組合OBが作業を担当、被害で入山が難しい場所は花巻森林組合に作業委託をし整備した。



今、紫波町の里山で起こっていること

【活動を通して変わってきたと感ずること】

- 地域の里山が どんどんきれいになっている！
- 里山や森林整備に関心を持つ山主が増えている。
- 地域で自分たちの山を手入れしようとする動きがでてきた。
- 森林組合等との連携が生まれ、森林関係事業の幅が広がっている。

○活動を通して見えてきたこと

【里山・森林整備事業の課題・困っていること】

個人の山林所有者が、山の手入れをしたくてもできにくい状況になっている。

- 自分の山がどこにあるのか分からない所有者が多くいる。
- 境の確認が難しい状況にある(資料がない・調査にお金がかかる)
- 山林作業員の高齢化と林業労働従事者の不足、作業技術が継承されていない。(山林作業は危険を伴うため、個人で作業する場合も基礎的な作業技術の習得が必要であるが、その機会や場所がない)
- 個人の山林所有者へ事業等の情報が入らない(周知されていない)
- 行政・森林組合・民間の山林団体等の連携がなく、森林整備に関する事業や情報が周知がされていない。

【本交付金に望むこと】

- 事業の継続
- 境確認等への支援
- 後継者の育成・支援

つなぐ人材
(コーディネーター)が必要

麻機自然体験コミュニティ

～ Balance ～



竹チップマルチ



Balance
活動エリア紹介



自然再生推進法事業地
巴川流域 麻機遊水地周辺の里山整備

平成26年 台風18号 巴川流域 浸水被害の様子



巴川上流部では放任竹林の枯れ竹が流れだして水路を塞ぎ、土砂が堆積してオーバーフローしてしまった。

大雨による放任竹林内の「枯れ竹」流出も水害などに繋がる事を実感しました。

今後、ゲリラ豪雨など地球規模の気候変動による大雨などは予測不可能！

地域の抱える課題

昔から巴川流域では増水・洪水・浸水被害の多いエリア



広葉樹・針葉樹を巻き込み広がる竹林

水源涵養機能

土砂災害防止機能

生物多様性の低下

農業従事者の高齢化・後継者不足などにより竹林が急速に広がっています。

平成25年 森林山村多面的機能発揮対策交付金により
本格的な放任竹林伐採が可能になりました！



また、この交付金により20代前半の若者2名が
1年間の竹林伐採を経験して林業従事者へ！

伐採後の竹は可能な限り搬出し、チップ化します。



そして、放任竹林整備から地域交流が生まれました。



障がい者就労支援事業所との協働作業
主に運搬などの作業を依頼

特別支援学校生や専門学校生による竹チップの袋詰め作業



土壌改良材として配布



生ごみ処理材として配布

土壌改良材としての利用



特別支援学校（知的障がい者）と
引き籠りなどの課題を抱える若者達と協働で畑作り

土壌改良材としての利用



農家・家庭菜園家・小学校・地域環境保全団体へ配布

生ごみ処理材としての利用

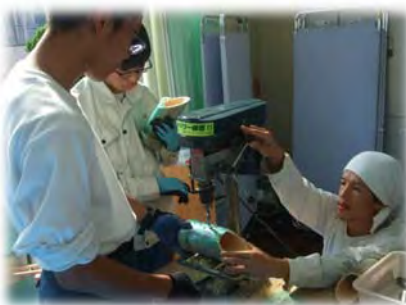
特別支援学校リサイクル班での取組み



地域活性を図るイベント・子供達参加イベントでの竹材利活用



地域小学校へ里山出前講座 特別支援学校へ竹灯籠制作指導



新聞掲載記事



特別支援学校より感謝状を頂きました。



今後のBalanceは放任竹林整備から竹チップを農業利用するべく実証試験を重ねて遊休農地利活用に繋げ「里山・里地保全」に力を注いでいきます。



遊休農地の開墾



配合比を変えてプランターでの試験



現在の畑の様子

私たち「Balance」の基本理念は



社会にいる自分達が「次の世代に」「何を？」
残してあげられるのだろうか？



森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナー

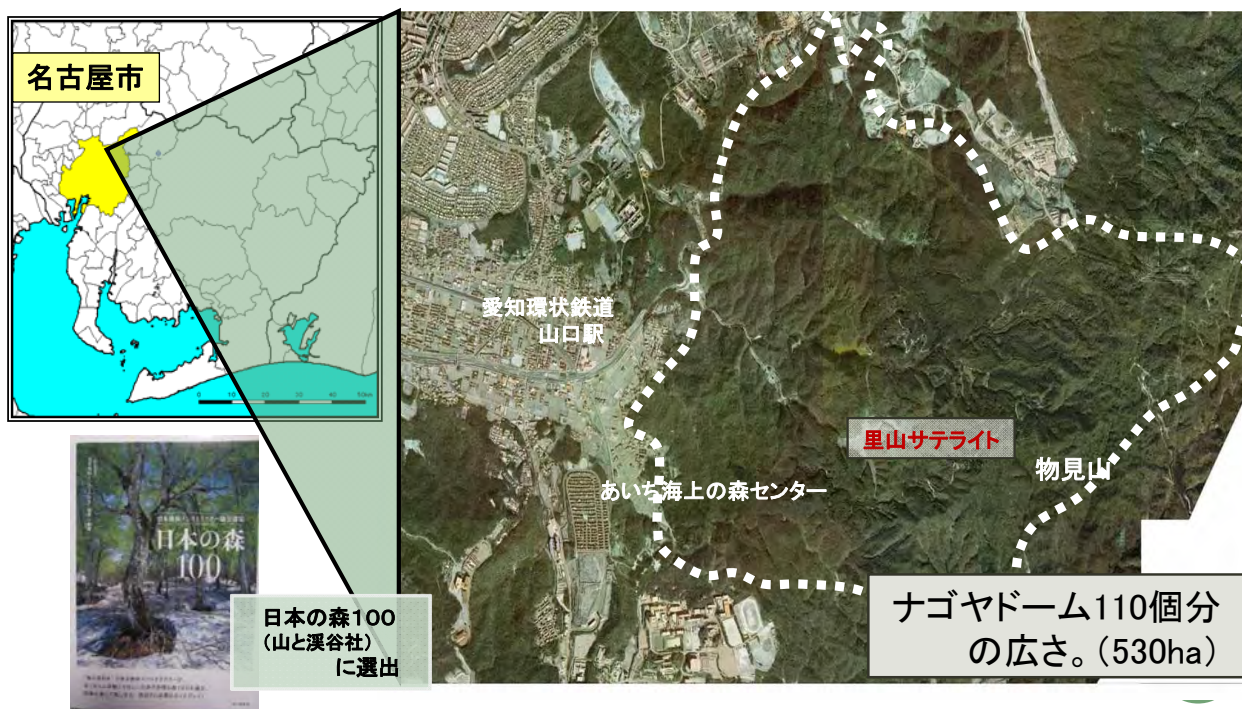
海上の森

未来に 次世代に 引き継ぎたい

2016.2.10

特定非営利活動法人海上の森の会

海上の森 と NPO海上の森の会



海上の森案内図



希少種シデコブシ



里山サテライト



里山の田畑



砂防池



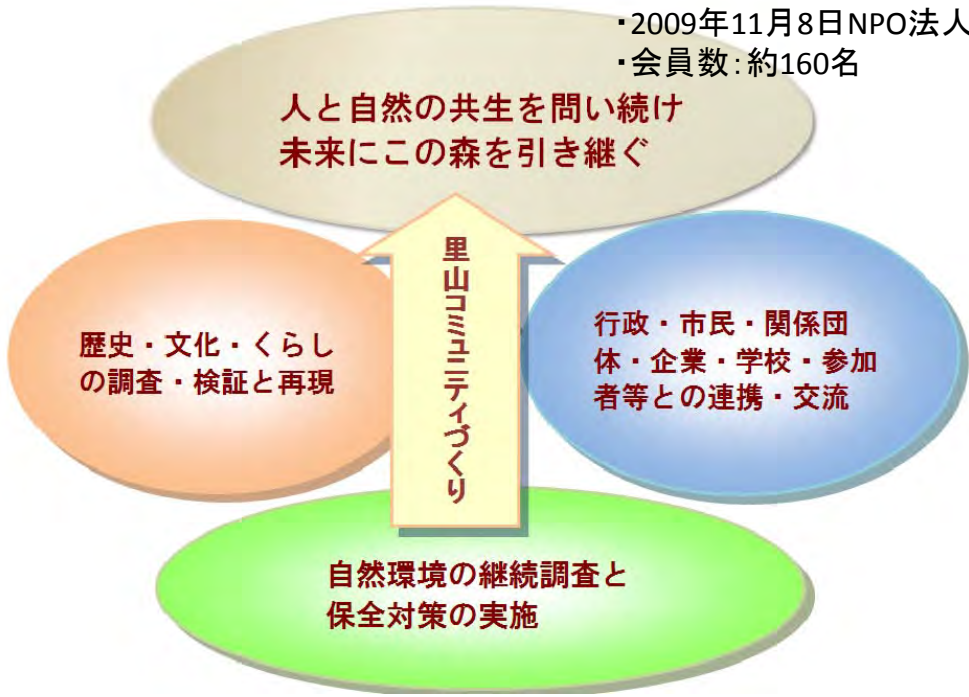
人工林



広葉樹林

NPO海上の森の会 活動指針

- ・2004年12月23日設立
- ・2009年11月8日NPO法人移行
- ・会員数:約160名



NPO海上の森の会 グループ活動



グループ	活動	活動内容
自然調査	自然環境調査	毎週1回自然観察及び調査を実施
	海上の森ツアー	海上の森を学び知るツアーを開催
	調査学習	テーマを決めて体験する調査学習講座を開催
里づくり	耕地管理	海上の里の農地の管理を、年間通じて実施
	里の再生管理	里の水路やため池の維持・里の維持管理
	里と森の教室	農作物の栽培・収穫を参加者とともに実践学習
森づくり	森林(もり)づくり	人工林や竹林の手入れなど森の整備を実施
	森の教室	森の手入れや工作の教室など実施
	木工芸教室	自然素材で作品づくりを丁寧に指導、楽しく学ぶ
	企業連携	企業の森づくりに対する指導、支援などを実施
里山文化	生活史調査	海上に残る歴史や文化を調査し、記録として整理
	里のくらし	里の年中行事を復活 収穫感謝祭なども開催
	案内巡視	海上の森へ訪れる人の案内や注意喚起
	サテライト管理	里山サテライトの鍵当番、清掃・草取などの維持管理
総務情報	HP管理	HPの管理・更新
	会報発行	年4回会報を発行 会員名簿の管理

NPO海上の森の会 全体で取り組む 森林・山村多面的機能発揮対策事業

NPO海上の森の会 グループ	森林・山村多面的機能発揮対策事業			2015年度	
	A-1地域環境保全 タイプ 里山林保全	A-2 地域環境保全 タイプ 侵入竹除去	B 森林資源利用 タイプ	C 森林機能強化 タイプ 山道整備	D 教育・研修 活動タイプ
自然調査				○	○ 自然調査学習会
里づくり			○ 雑木林整備 キノコ原木づくり	○	
森づくり	○ 間伐・除伐・雑草木 刈り	○ 侵入竹林整備		○ 雑草刈り・イノシシ 侵入対策・ 側水路整備	○ 森の教室
里山文化				○	
総務情報				○	

森づくりグループ活動(森林ボランティア)と 森林・山村多面的機能発揮活動の流れ

森づくりグループ活動

2005 海上の森の会森づくりグループ 発足
 ・1. 7ha森林契約間伐を開始
 ・1. 7ha森林間伐基礎活動

2006 1. 7ha 森林の目指す構想設定
 ・1～7ゾーンのエリア設定する
 針広混交林に向けた人工林間伐

2014 1. 7ha 森林間伐の完了
 ・1～7ゾーンまで順次間伐
 新間伐エリアの設定 (1. 7ha隣接地)
 ・下草刈りおよび間伐開始
 ・放置竹林の計画的皆伐

**2015 1. 7ha人工林から針広混交林へ誘導に
 に向けた間伐・除伐活動**
 ・落葉広葉樹の選木、下草刈り
 ・コアジサイ群生の保全

2016～ 併せ新間伐エリア間伐活動継続

森林・山村多面的機能活動



2013 (1年度)
 ・1. 7ha森林の5～6ゾーン間伐
 ・竹藪化した里山竹林の間伐・整備

2014 (2年度)
 ・新間伐エリア4ゾーンの 除伐・下草刈り
 ・新エリア3～4ゾーン間伐
 ・侵入竹林の皆伐

2015 (3年度)
 ・1. 7ha針広混交林に向けた除伐・下草刈り
 とコアジサイ群生の保全作業
 ・竹林整備と侵入竹林皆伐作業および土砂
 流出防止作業

10年間

1.7ha人工林の森づくりの 目指した2006構想

1. ヒノキと広葉樹の針広混交林化、

また複層林化を目指す。

～きれいな森、少しでも多くの生き物が棲むことが出来る森、

里山の水源の森に仕上げる。～

2. 1.7haを7ゾーンに分け、各ゾーンごとに

特徴を持たせる。

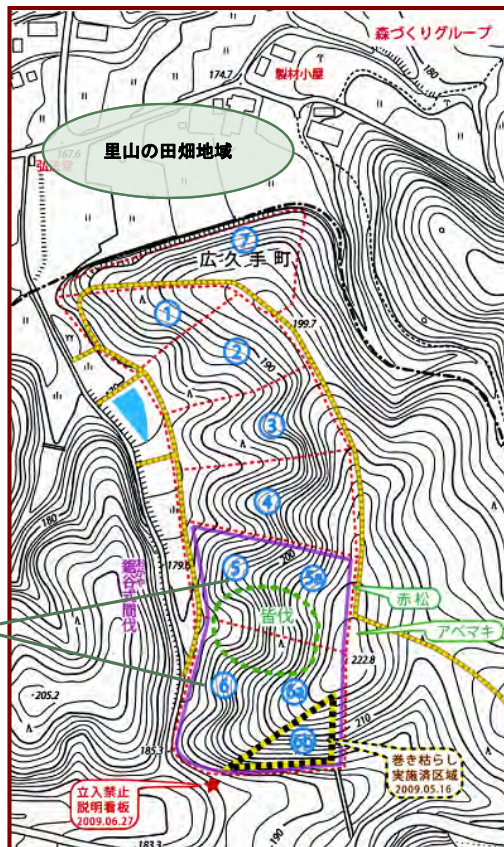
・通常間伐…1・2・3・4・a5・6aゾーン

・巻き枯らし間伐…6 bゾーン

・皆伐による植生観察…5・6a ゾーン

・景勝を重視した間伐…7ゾーン北面
 ヤマザクラ、ウワミズザクラ中心

2013
森林山村多面事業



2014 1.7ha 2006構想の10年終了



森林・山村多面的機能作業 トピックスー1 2013 5～6ゾーン間伐

5ゾーン尾根から見た間伐 前

5ゾーン尾根から見た間伐 後



人と森を守る作業



6ゾーン間伐材活用の土留め



6ゾーン土砂崩壊を土嚢袋で補修



作業階段づくりで安全確保

森林・山村多面的機能作業 トピックスー2 2014 侵入竹の整備

竹林の皆伐作業 前

竹林の皆伐作業 後



竹の主幹と枝・笹の分離整備



森林・山村多面的機能作業 トピックスー3 2015 1.7ha針広混交林誘導への整備

間伐後8年 7ゾーン整備前

落葉樹実生を中心に残した7ゾーン整備後



間伐後に出現したコアジサイ群生の保全整備



間伐作業は安全作業の徹底から



間伐体験実習



間伐材の活用 丸太ベンチを製作、設置



森づくりグループ(森林ボランティア)による森林・山村多面的機能発揮対策事業を実施して感じたこと

◎一日一日の作業目標と今日の実績を皆で分かち合えるようになっている。

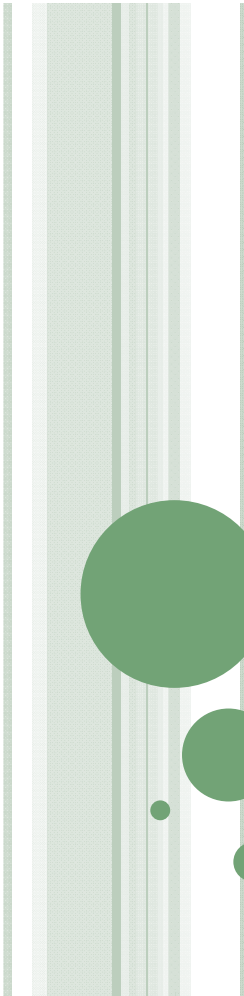
…メリハリのある活動へ

◎安全工具類の充実が図れ、安全作業・効率作業の一助となっている。

…より安全な作業意識に向けて

◎1.7ha 2006構想の10年終了への弾みになった。

…よりチームワークの良さへ



海上の森は、
愛知万博のテーマ「自然の叡智」を**未来に継承**し、
里づくり・森づくり・里山文化伝承・自然環境保全活動を**次世代に引き継ぐ**よう頑張っています。

ご清聴ありがとうございました

里山保全への取り組み

里山再生に挑む

福岡県直方市

金剛山もとり保全協議会



金剛山



1. 活動地の状況について

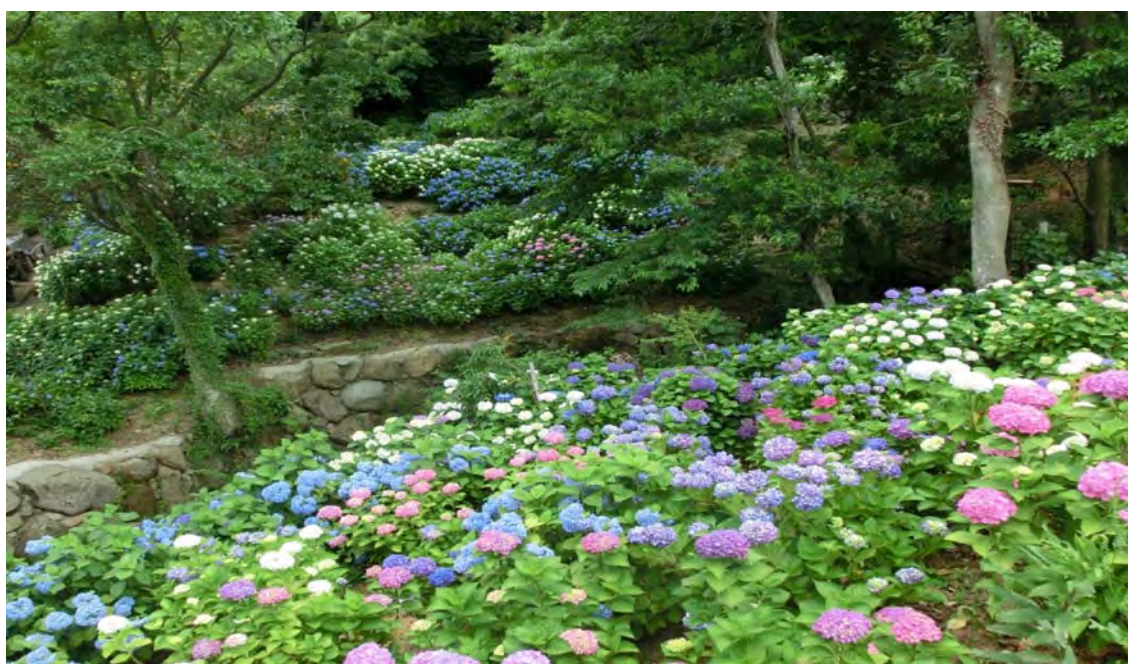
開拓記念碑



アジサイ園解放の様子



アジサイ園の様子



2. 活動の内容

金剛山もとり保全協議会構成 (12団体1個人 250名)

・ 会長 田丸 憲剛

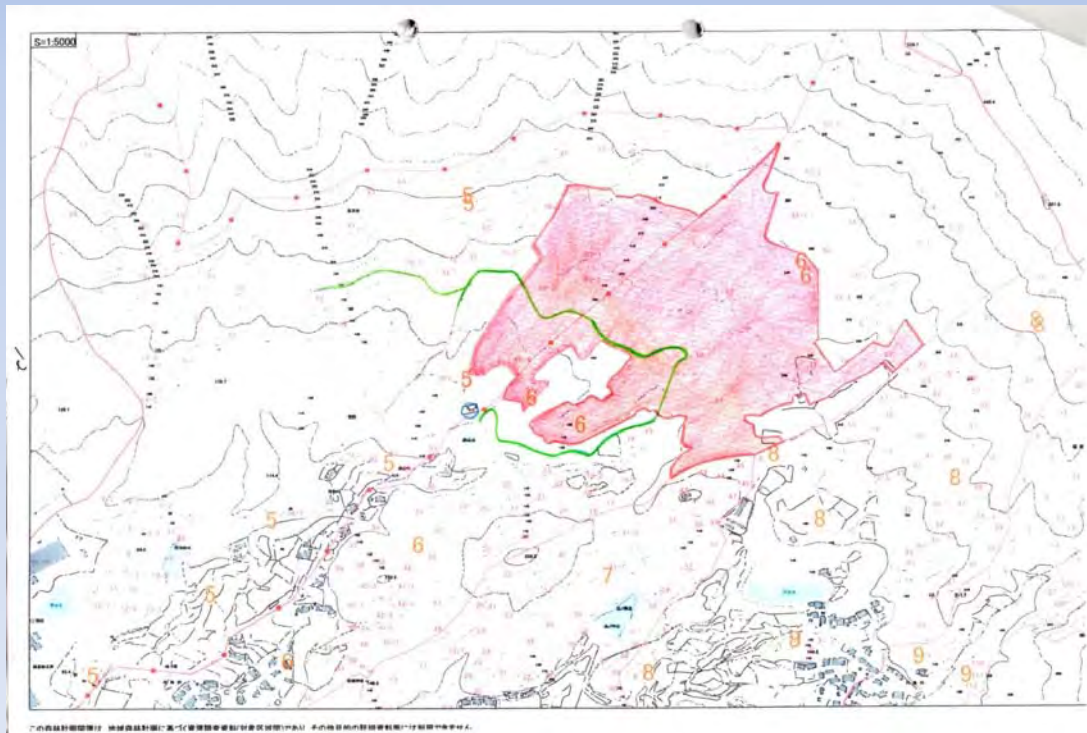
- ・ 藤田丸地区の自然を守る会
- ・ なかよし会
- ・ 奥山あじさいの会
- ・ 里山の会
- ・ 古鷹取を伝える会
- ・ 直方川づくりの会
- ・ グランドゴルフの会
- ・ 直鞍造園組合
- ・ 登山同好会
- ・ オヤジの会
- ・ もととり倶楽部
- ・ NPO法人子育て仲間
- ・ 個人

活動概要

森林山村多面的機能発揮事業に係る

- 活動対象域 全 12ha
 - ・ 広葉樹・針葉樹等森林 3.3ha
 - ・ 竹林 3ha
 - ・ 侵入竹等 5.7ha
- 活動会員数……18名
 - 男性……14名
 - 女性…… 4名
- 会員平均年齢……71.1歳(2月1日現在)

金剛山麓の活動地域



侵入竹の状況（ハチク）



侵入竹の状況（ハチク）



侵入竹林の状況 2



活動前の耕作地跡の状況



姿を現した耕作跡地の石積み



木炭製造の様子



3. 活動の中で今後の取り組み

- 先ず、現状復帰への活動から

平成25年	竹林整備	約 1.0ha
	里山林保全	約 11ha
平成26年	竹林整備	約 3.0ha
	侵入竹除去	
	里山林保全	約 2.0ha
平成27年	竹林整備	約 4.5ha
	侵入竹除去	
	里山林保全	約 3.5ha
平成28年	竹林整備・除去	約 2.7ha
	里山林保全	約 7.7ha

(28年度は予定)

活動の経過 ①

(活動前)



(活動後)



活動の経過 ②

(活動前)



(活動後)



活動経過 ③

(活動前)



(活動後)



活動経過 ④

(活動前)



(活動後)



活動經過 ⑤

(活動前)



(活動後)



活動經過 ⑥

(活動前)



(活動後)



活動状況 ①

アオキ等低木の集積



低木の粉碎処理



活動状況 ②

侵入孟宗竹の処理



日の射し始めた雑木林



日の射す耕作地跡に咲かせたエビネ蘭



開発1年後に伸びた若竹の刈り払い作業



植樹の様子 ①

サクラ苗の植樹



紅葉植樹(市長の植樹風景)



植樹の様子 ②

梅苗・アジサイの植樹



植樹祭参加者の集合写真



4. 今後の課題と安全対策

○ 今後の課題

- ・人材の育成
 - 計画立案等統率できるリーダー
 - 事務業務の出来る人材確保
 - 活動実施日の拡大で地元協力者の迎え入れ
- ・安全対策
 - 安全ミーティングの充実
 - 安全装具の充実
 - 安全作業監視者の権限強化
 - ヒヤリハット報告とその検証
 - 健康状態の共有

安全対策後の粉砕機

クラッチの固定・ギアのストッパー・緊急停止ボタンの増作



安全対策後の粉砕機

材料投入口に手が届かない壁の造設



5. 地域協議会の関わりと交付金について

○ 地域協議会の関わり

- ・ 活動地への訪問回数・・・ 26年度 2回 / 27年度 3回
- ・ 経理処理・ 活動報告書作成への助言
- ・ 安全作業・安全性確保に対する助言
- ・ 安全講習の開催

○ 交付金に望むこと

- ・ 年間を通して活動している組織に、交付金の交付回数を頻回に出来ないか？（例えば 2ヵ月毎）
- ・ 1ha当たりの取り組みの内容や質を評価すると良いのでは？
- ・ 交付金事業終了後、里山の維持管理を継続してゆくための、財源確保が大きな課題として残っている。

里山紅葉散策ウォーキング風景

平成26年10月



里山散策ハイキングの栗拾い 50年ぶりに姿を現した栗山での栗拾い



ご清聴、ありがとうございました



森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナー 参加者アンケート

このたびは「森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナー」にご参加いただき、誠にありがとうございます。今後の情報提供等に当たっての参考とさせていただきます。アンケートにご回答くださいますようお願い申し上げます。

該当する箇所に○印をつけてください

【ご所属】 1、都道府県 2、地域協議会 3、その他（ ）

団体名： _____

氏名： _____

Q1：「基調講演 「3.11 後の森と付き合う作法を提案する マチの森林ボランティア・ムラの森林ボランティア」(山本 信次 岩手大学准教授)の感想を教えてください。

- 1、大変参考になった 2、参考になった 3、ふつう
4、あまり参考にならなかった 5、参考にならなかった

Q2：「活動組織による活動事例報告」の感想を教えてください

- 1、大変参考になった 2、参考になった 3、ふつう
4、あまり参考にならなかった 5、参考にならなかった

Q3：パネルディスカッションの感想を教えてください

- 1、大変参考になった 2、参考になった 3、ふつう
4、あまり参考にならなかった 5、参考にならなかった

Q4：参加してのご感想、ご意見を記入ください

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

※ご記入いただきました個人情報は、本セミナーの運営管理ならびに平成27年度森林・山村多面的機能発揮対策検証事業に関わる請負業務の目的にのみ利用させていただきます。

平成 27 年度 森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業 第 1 回検討委員会
議事概要

日 時：2015 年 10 月 21 日(水) 10:00-12:00

場 所：東京国際フォーラム G601 会議室

出席者：

検討委員

委員長 山本 信次 岩手大学農学部 准教授
委員 川尻 秀樹 岐阜県立森林文化アカデミー 教授
委員 北川 善一郎 長浜市 産業経済部 理事
委員 丹羽 健司 特定非営利活動法人地域再生機構 木の駅アドバイザー

委託者（林野庁）

赤堀 聡之 森林利用課 課長
今泉 裕治 森林利用課 山村振興・緑化推進室 室長
青木 正伸 森林利用課 山村振興・緑化推進室 山村振興指導班 課長補佐
松本 康裕 森林利用課 山村振興・緑化推進室 山村振興企画班 課長補佐
樋口 弘二 森林利用課 山村振興・緑化推進室 山村振興指導班 指導係長

事務局（公益財団法人 日本生態系協会）

松浦 重徳 グランドデザイン総合研究所 所長
亀田 聡 グランドデザイン総合研究所 上席主任研究員
野口 剛嗣 グランドデザイン総合研究所 主任研究員

開会

（各委員の挨拶より抜粋）

- 本事業は、地域の自発性に基づいて交付金を出す点で、省庁と地域との連携の仕方として非常に画期的である。
- 事業開始から 3 年を経て、活動組織が交付金に依存しすぎる体質になってしまうことを心配している。
- 事業開始から 3 年を経て、地域協議会の性質が団体の活動を制限する方向に変わってきている。
- 山本委員を検討委員会の委員長とする。

議事 1. 事業概要

議事 2. 地域協議会及び活動組織へのアンケート調査

(地域協議会へのアンケート調査；質問の内容や方向性について)

- 何をどう見直すためにアンケートを実施するのが、アンケート内容からはわからない。地域協議会の 3 年間の反省や要望がどのように反映されていくのかがわかるアンケートにしてほしい。
- 本アンケートは事業全体の見直しを行うために実施するものであるが、地域協議会が実施している業務を改善するための役割も果たさなければならない。
- 地域協議会の業務の改善のために、記述式アンケートや事例調査で 3 年間の反省や課題を聴取し、報告書でまとめる形にしてはどうか。
- 森林ボランティア等の団体を主眼に置いた質問内容になっているが、コミュニティの活性化のために活動している団体の実態もわかるような質問内容を検討していただきたい。
- 事例の抽出においては、優良でかつ汎用性がある事例を選定していただきたい。
- 優良活動組織の推薦については、地域協議会の推薦があっても必ずしも事例集に載るわけではないということに配慮した書き方をする。(事務局)
- 検討委員会の委員からも優良団体の推薦をいただきたい。(事務局)

(地域協議会へのアンケート調査；質問の量や手法について)

- 質問数が多いが、継続的な調査項目と新規の調査項目があるので、無理のない範囲で質問数の削減を検討する。
- 回答者の選択によって次にどの問いを読めばいいのか判るように配慮してほしい。
- 広報に関する問のインターネットについては、Web サイト等の受動的な発信方法と、メールリストや SNS 等の能動的な発信方法とで分けた方が良い。
広報に関する問については、地域協議会の発信によるものと活動組織同士の情報交換によるものを分離できると良い。
- 選択肢の重みづけについて、回答者の実際の感覚により沿った回答を得られるような形式を検討する。(事務局)
- 選択肢を多数用意して地域協議会が重視している項目を選択してもらうのではなく、林野庁が重視している少数の項目を提示し、それぞれについて地域協議会がどの程度重視しているかを質問した方が政策にも反映させやすい。
- 今後の対策に関する問については、前半の選択肢と後半の選択肢の内容が異なるので、問題を分けた方が良い。

(活動組織へのアンケート調査；質問の内容や方向性について)

- 地域協議会へのアンケート調査の指摘と被る部分について、同様に取り扱う。

(活動組織へのアンケート調査；質問の量や手法について)

- 地域協議会へのアンケート調査の指摘と被る部分について、同様に取り扱う。
- 特に活動組織については、自由回答欄に記入しない回答者が多数発生してしまうことが予想されるので、選択式で全てを答えられる形の方が望ましい。(事務局)
- 森づくりへの参画人数を増やすことが本事業の目的であるので、その効果を測るために活動状況に関する問に平成 25 年度の項目を追加してほしい。
- 地域住民の参加状況の問いについて、活動組織が分かりやすい尋ね方を検討する。
- 今後の交付金に関する問いを、活動組織の側に立った目線の文言に変更してほしい。
- 活動組織が抱える問題を解決できたか否か、どのように解決したかを記述式で聴取してはどうか。

議事 3. その他

- 活動組織を支える役割を地域協議会が担うべきだが、それが出来ていないので活動組織同士で助け合う仕組みづくりを行っている所もある。
- 地域協議会の中にも意識や業務実態に差が生じている状況もある。
- 地域協議会は活動組織の活動を抑制するのではなく、促進する役割を担わなければならない。そのために、責任を持って活動組織を審査し、活動の良い所を見つけ出したり、同じ課題を持つ活動組織同士の交流を持たせたりするような姿勢が求められる。
- 地域協議会の意識を探るうえで、このような事例調査が重要と考える。

閉会

平成 27 年度 森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業 第 2 回検討委員会
議事概要

日時：2015 年 12 月 16 日(水) 13 時 55 分～16 時 00 分

場所：東京国際フォーラム 5 階 G503 会議室

出席者：

検討委員

委員長 山本 信次 岩手大学農学部 准教授
委員 川尻 秀樹 岐阜県立森林文化アカデミー 教授
委員 北川 善一郎 長浜市 産業経済部 理事
委員 丹羽 健司 特定非営利活動法人地域再生機構 木の駅アドバイザー

委託者（林野庁）

赤堀 聡之 森林利用課 課長
今泉 裕治 森林利用課 山村振興・緑化推進室 室長
青木 正伸 森林利用課 山村振興・緑化推進室 山村振興指導班 課長補佐
松本 康裕 森林利用課 山村振興・緑化推進室 山村振興企画班 課長補佐
樋口 弘二 森林利用課 山村振興・緑化推進室 山村振興指導班 指導係長

事務局（公益財団法人 日本生態系協会）

松浦 重徳 グランドデザイン総合研究所 所長
亀田 聡 グランドデザイン総合研究所 上席主任研究員
野口 剛嗣 グランドデザイン総合研究所 主任研究員

1、開会

- ・ 本対策の平成 27 年度の執行状況は、予算額 25 億円だが、11 月末の現在で、24 億 6,000 万円となっている。執行率が 98%に達している。全国で 1,800 以上の団体に交付金を活用いただいている。

2、議事

2-1 地域協議会及び活動組織へのアンケート調査結果（速報）報告

- ・ 活動組織の話を見ると事務手続きの煩雑さ、厳密さを求められることで苦労している。
- ・ 地域協議会側の苦労について、どのような理由による苦労であるのかを見ていかねばならない。
- ・ 書類作成の苦労や指導に関連して、地域協議会の回答と活動組織の回答の相関関係を見ていくとよい。アンケートの回答についていくつかの質問の回答を組み合わせて分析すれば、見えてくるものがあるのではないか。
- ・ アンケートでは書類作成で苦労しているとのことが出ているようだが、活動の記録は必要であり、活動組織自らのためにもなるのでやってもらいたい。
- ・ 活動組織は、所有者と協定を結んで作業をしている形になるが、できれば所有者にも活動状況の報告をしてもらいたい。
- ・ ご高齢の方で電子機器に慣れていない方が、書類作成で大変苦労しているという話を聞くので、その辺をどのようにフォローできるか。
- ・ 写真撮影などの書類作成について、過度に細かく要求を行う地域協議会がある。
- ・ 本来、本交付金の活動は、チェーンソーが得意な人やパソコンが得意な人など、多様な人々を巻き込む活動であったはずである。どのようなやり方が良いかを推奨するのが良い。
- ・ 地域協議会の方も活動団体の方も、安全性を第一に考えてもらうべきだと思う。補助を出すときも、活動実施の際にも、安全性を第一に考えていただく方向に導けるとよい。
- ・ アンケート分析の際には貸与などについては県の広さとの相関を見ると面白い
- ・ 活動団体数と指導件数の相関を見た方がよい。
- ・ 活動団体数が広がっている場所については、横の連携などのような協力状況や関係性についてみることであればわかりやすくなるかもしれない。
- ・ 交付金を知ったきっかけについて、「説明会」との回答があったが、その説明会をどのように知ったのかを、ヒアリング時等で把握できればよい。

2-2 ヒアリング先及び活動事例集について

（地域協議会）

- ・ 優良事例以外についてもヒアリングを実施した方がよい。
- ・ 指導回数が少ない、現地に行っている回数が少ないなどの協議会について、実際に聞いてみて、合理的な理由があるのであれば、どうしたらそういった状態になったのかを尋ねればよい。
- ・ 優良事例以外については、それぞれの協議会で事情が色々あるはずなので、何がネックになっているのか、何がハードルになっているのかを分析して、少しでも取り除け

るものであれば、取り除く努力をするという意味での参考にとすると良いと思う。

- ・ (地域協議会へのヒアリングについて) 問題点があるなら、どうやって取り除けばいいのか、という視点で聞いてほしい。
- ・ 活動組織の事務処理に関連して、指導をうまくやっているところをピックアップしてほしい。
- ・ 全体としてみんなの負担が減っているところが良い地域協議会。
- ・ 指導については、回数と質の問題になる。質の方を聞くのがヒアリングの目的となる。

(活動組織)

- ・ 里山整備はしたけれども、これから利用の方にシフトしていくうえで、具体的にどうしたら良いのかというような相談がある。また、機能強化タイプの事例は少ない。このような事例があれば非常にありがたい。

(活動事例集)

- ・ 活動組織側から見て、地域協議会のサポートがどのように役立ったかのような話がにじみ出るとよい

2-3 その他

- ・ 2月10日に活動報告会を実施するので予定をあけておいてほしい。
- ・ 第3回の検討委員会は3月11日の午後に開催する予定。

平成 27 年度 森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業 第 3 回検討委員会
議事概要

日時：2016 年 3 月 11 日(金) 13 時 55 分～16 時 00 分

場所：東京国際フォーラム 4 階 G401 会議室

出席者：

検討委員

委員長 山本 信次 岩手大学農学部 准教授

委員 北川 善一郎 長浜市 産業経済部 理事

委員 丹羽 健司 特定非営利活動法人地域再生機構 木の駅アドバイザー

<欠席> 委員 川尻 秀樹 (岐阜県立森林文化アカデミー 教授)

委託者 (林野庁)

赤堀 聡之 森林利用課 課長

今泉 裕治 森林利用課 山村振興・緑化推進室 室長

青木 正伸 森林利用課 山村振興・緑化推進室 山村振興指導班 課長補佐

樋口 弘二 森林利用課 山村振興・緑化推進室 山村振興指導班 指導係長

事務局 (公益財団法人 日本生態系協会)

松浦 重徳 グランドデザイン総合研究所 所長

亀田 聡 グランドデザイン総合研究所 上席主任研究員

野口 剛嗣 グランドデザイン総合研究所 主任研究員

1、開会

- ・ 平成 28 年度予算は概算決定で 28 億 6,000 万円と多少の減額はあったが、本年度とほぼ同額を確保できた。
- ・ 2 月 10 日には普及セミナーを開催した。都道府県や地域協議会の担当職員間の情報共有の場として、大変意義があったと考えている。

2、議事

- ・ パネルディスカッションやヒアリングで把握した具体的な内容や工夫なども、第 2 章のまとめに入れ込んでどうか。
- ・ 今後求められる対応について、パネルディスカッションで報告された具体的な取り組みについても触れても良いと思う。

- ・ 地域協議会の独自の取り組みによってどのような問題が生じたのか、定性的な話でよいので報告書に入れると良い。文化の違いやバックボーンの違いが摩擦を生むことがありうる。良かれと思ったことが摩擦になりうる可能性があることを報告書に加えた方が良い。
- ・ 他の地域協議会や機関等と協力関係がうまくつけれない地域協議会は、活動組織のコーディネイトにも苦勞している面があると思う。
- ・ 保険に関する話についてはもう少し具体的に書いた方が良い。森林ボランティア保険では、賠償保険までカバーされていないことがあるので、その点などについても周知する方が良い。
- ・ 安全対策の内容をチェックリスト化する事は、交付金の姿勢をしっかりと示す意味で良い。
- ・ 求められる対応の中で安全対策については、義務化についてきっちり言った方が良いのではないか。
- ・ 安全対策装備は補助金で真っ先に準備すべきものである。それを怠ると事故が起きるので、強く言うことを心がけてもよい。
- ・ 安全の話は非常に重要。平成 28 年度事業は既に動き始めているので、平成 29 年度以降の交付金の要件の中に書き込めるかが課題。
- ・ 交付金の要件を書き込むと新たな事務作業が増え、書かないと、それがやらなくてよいことの理由になってしまうので、そのバランスが重要になる。
- ・ 作業を行うのであれば装備の導入の優先順位を考慮する必要がある。安全確保が最優先である旨を書いたほうが良い。
- ・ 地域コミュニティ型の活動組織が応募するケースでは書類作成がスムーズでないパターンが多いように思う。そうした活動組織に対して、地域協議会が相談に乗ってほしい旨を触れて欲しい。
- ・ 地域協議会がコーディネイト力を発揮し、メンバーの出会いの場をつくることも重要。
- ・ マンパワーについて、森林に詳しくない人も参加しているので、これまで常識と思われていたことも指導しなければならないケースもでてくるのではないかな。
- ・ どのような森を作っていくのか目標林型が決まっていれば、その為の適切な手段が考えられる。どのような森をつくるのかという目標を専門家が押し付けるのは良くないが、関係者間で決めた目標林型に対する適切な手段については専門家が指導できる。目標・計画が適切かということとそのため的手段が適切かどうかを切り分けて議論することが重要。
- ・ 第 3 章のまとめにも、アンケートやヒアリングで得た具体的な内容を加えていくとよい。
- ・ 活動組織の事例集だけでなく、地域協議会の事例集もあるとよい。
- ・ アンケート結果やパネルディスカッションでの議論の内容をまとめた、地域協議会のグッドプラクティスがあればとよいと思った。

- ・ 出来るだけ自立を目指していくことも重要であるが、すべての団体に実現できるわけではないので、村で人とのかかわりを通じて発揮される公共性の重要性についてもふれていくとよい。
- ・ 林業・森林保全など様々な場で、女性の方が参加していける仕組みづくりができればよい。
- ・ 本検討委員会の議論を受けて行う報告書案の記述等の変更については、委員長預かりとし、委員長と林野庁、事務局で確認・修正を行う。

平成 27 年度
森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業
報告書

平成 28 年 3 月
林 野 庁
